

第一號書式

私儀湯屋營業仕度候間鑑札御附與奉願候也

埼玉縣何郡何町村何番地
何府縣士族(平民)

年月日

埼玉縣令氏名宛

前書出願之趣相違無之ニ付與印仕候也

何町村戸長

氏名印

第二號書式

私儀湯屋廢業仕候間鑑札返納仕候也

埼玉縣何郡何町村何番地
何府縣士族(平民)

年月日

埼玉縣令氏名宛

前書届出之趣相違無之ニ付與印仕候也

何町村戸長

氏名印

○甲第三十五號

明治十五年三月七日

人力車取締規則左之通相定來ル四月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

人力車取締規則

十八年甲第一號ヲ以テ修正

第一條 人力車營業ヲ爲サントスル者ハ第一號書式ニ照シ戸長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署ニ願出鑑札ヲ受クヘシ但鑑札ハ貸借スルヲ得ス

第二條 人力車營業者トハ人力車ヲ貸シ又ハ自己所有ノ車ヲ挽キ或ハ雇人ニ挽カシメ及ヒ借車ヲ挽キ業ヲ營ム者ヲ謂フ

第三條 雇人ナシテ車ヲ挽カシムル者ハ第二號書式ニ照シ其雇主ヨリ願出鑑札ヲ受クヘシ

第四條 轉居改名代替又ハ鑑札ヲ遺毀シ若クハ雇人ヲ入換フルルハ其事由ヲ詳記シ第一條又ハ第三條ノ手續ヲ以テ更ニ鑑札ヲ受ク可シ

第五條

十八年甲第四十六號ヲ以テ刪除
同上修正

第六條 驛傳取締人ハ帳簿ヲ製シ組合營業者ノ住所氏名ヲ記載シ實印ヲ取置ク可シ

第七條 人力車所有ノ者ハ其住所氏名ヲ記シタル長サ五寸巾四寸ノ木札ヲ自製シ所轄警察署ノ檢印ヲ受ケ車ノ蹴込右方ニ釘付ス可シ

但木札ハ他ノ車ヘ轉用スルヲ得ス

第八條 賃錢ハ車ノ蹴込正面ニ表記スヘシ

第九條 車ヲ挽クトキハ鑑札ヲ携帯シ何人ニ限ラヌ要用ノ場合ニ於テ見シテ求ムルルキハ

十八年甲第四十六號ヲ以テ修正

十八年甲第十
四號ヲ以テ修
正

之ヲ示ス可シ

第十條 營業者挽子ヲ雇入ル、キハ身元引受人ヲ立シメ其保証狀ヲ取置ク可シ但雇人請宿ニ依リ雇入ル、者ハ此限ニアラス

第十一條 挽子ヲ雇使スル者ハ其挽子ノ職業上ヨリ他ニ加ヘタル損害要償ノ責ヲ受クルモ
ノトス

第十二條 乘客中舉動不審ト見認ムル者アルキハ速ニ警察署又ハ分署交番所巡行巡查ノ内ニ密告ス可シ

第十三條 乘客中若シ發病スルキハ懇ロニ看護ノ手續ヲ爲シ速ニ最寄警察署又ハ分署交番所巡行巡查ノ内ニ訴出ツ可シ

第十四條 往來雜沓ノ場所若クハ街角橋架ヲ通過スルキハ除行シ且ツ掛聲ヲ爲ス可シ

第十五條 前車除行シ後車疾行スルキハ後車掛聲ヲ爲シ前車ハ便宜之ヲ避ク可シ

第十六條 車馬ニ行遇フキハ左ニ避ケ坂路ハ上リ車ヨリ之ヲ避ク可シ

第十七條 往來ノ妨ケトナルヘキ場所ニ車ヲ駐止スヘカラス

第十八條 夜中燈火ナクシテ車ヲ挽クヘカラス

第十九條 他人ノ稼業ニ故障シ又ハ行人ニ對シ強テ乘車ヲ勸メ若クハ侮慢無禮ノ言行ヲ爲ス可ラス

第二十條 乘客ニ對シ約定外ノ金錢ヲ請求スルヲ禁ス

十六年甲第三
十五號ヲ以テ
改正
十六年甲第三
十五號十九年
甲第六十八號
ヲ以テ改正

第廿一條 壹人乘ニ貳人貳人乘ニ三人以上ヲ乘スヘカラス
但十歳未満ハ二人ヲ以テ一人ト見做シ保護人アル三歳未満ノ小兒ハ定員外トナ
第廿二條 新ニ組合ニ加入スル者ニ對シ正當ノ謂レナク金錢等ヲ出サシムルコトアルヘカ
ラス

第廿三條 前十二條ノ場合ニ於テ犯罪ノ事跡顯然タルキハ相當ノ賞金ヲ與フ可シ

第廿四條 自用人力車ハ第十四條ヨリ第十八條迄ノ規則ヲ守ルヘシ

第廿五條 此規則ニ違背シタル者ハ刑法ニ明文アルノ外本縣違警罪ノ刑ヲ科シ尙ホ行政ノ
處分ヲ以テ營業ヲ停止スルヲアル可シ

第一號書式

私儀人力車營業仕度候間鑑札御附與奉願候也

埼玉縣何那町村何番地

何府縣士族(平民)

年月日

埼玉縣令氏名殿

氏名印

前書出願之趣相違無之ニ付與印仕候也

何町村戸長

氏名印

第二號書式

何府縣何區郡何町村何番地
族籍

右之者相雇人力車挽爲仕度候間鑑札御附與奉願候也

年月日

埼玉縣令氏名殿

奥書前ニ同シ

何町村戸長

氏

名印

肩書前ニ同シ

氏

名印

第三號書式

私儀人力車廢業候間鑑札返納仕候也

年月日

埼玉縣令氏名殿

前書届出之趣相違無之ニ付奥印仕候也

何町村戸長

氏

名印

肩書前ニ同シ

氏

名印

驛傳取締人氏

名印

十八年甲第四
十六號ヲ以テ
修正

第四號書式

何府縣何區郡何町村何番地
族籍

右之者解雇(病氣ノタメ營業相成兼)候ニ付鑑札返納仕候也

年月日

埼玉縣令氏名殿

奥書前ニ同シ

何町村戸長

氏

名印

肩書前ニ同シ

氏

名印

驛傳取締人氏

名印

同上

○甲第三十九號 明治十五年三月十四日

馬車營業取締規則左之通改正シ來ル四月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

馬車營業取締規則

第一條 馬車營業ヲ爲サントスル者及乗合馬車ノ馭者馬丁タルヘキ者ハ第一第二號ノ書式ニ照シ戸長ノ奥印ヲ受ケ所轄警察署ニ願出鑑札ヲ受ク可シ但鑑札ハ貸借スルヲ得ス

第六章 第三款 取締規則

三百三十七

十八年甲第七
改正

第二條 廢業スル者ハ第三第四號書式ニ照シ所轄警察署ニ之ヲ返納ス可シ
第三條 轉居改名代替又ハ鑑札ヲ遺毀シタル者ハ其事由ヲ詳記シ第一條ノ手續ヲ以テ更ニ
鑑札ヲ受ク可シ

第四條 馬車營業者ハ第五號書式ニ照シ自己ノ住所氏名乘組人員及ヒ認可ヲ得タル驛傳組
合規約書中賃錢ニ係ル各節ヲ記シタル木札ニ所轄警察署ノ捺印ヲ受ケ每輛乘客ノ見易キ
所ニ掲クヘシ

第五條 馭者ハ滿二十歳以上ニシテ其技術ヲ心得タル者ヲ雇フ可シ

第六條 馭者馬丁ハ鑑札ヲ攜帶シ何人ニ限ラス要用ノ場合ニ於テ見ノヲ求ムルキハ之ヲ
示ス可シ

第七條 馭者ハ馬ヲ駕シタル時ハ乘客ナシト雖モ車上ヲ去ルヘカラス但馬丁ヲシテ馬ノ兩
口ヲ取ラシムルキハ此限ニ非ス

第八條

第九條 馬車ハ馬一疋立乘客六人ニ疋立同十人ヲ限リトス但シ十歳未滿ノ者ハ二人ヲ以テ
一人ト見做シ保護人アル三歳未滿ノ小兒ハ員外トス

第十條 車馬ハ左ノ二項ニ觸ル、者ト認ムルキハ何時ニテモ其使用ヲ停止スルコアル可シ
一 車臺脆弱ニシテ危險ノ虞アル者
二 馬足痛眼病其他衰弱シテ馳驅ニ堪ヘサル者

十八年甲第四
十六號ヲ以テ
刪除

十八年甲第七
十七號ヲ以テ
刪除

第十一條 行人ニ對シ強テ乘車ヲ勸メ若クハ過當ノ賃錢ヲ貪リ其他無禮ノ言行ヲ爲スヘカ
ラス

第十三條 傳染病者瘋癲又ハ爛醉者ト認ムル者ハ乘車セシムヘカラス若シ車中ニテ發病者
アルキハ速ニ警察署又ハ分署交番所巡行巡查ノ内ヘ訴出ツヘシ

第十四條 車中ニテ乘客ノ金品等紛失スルキハ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條 車内ニ遺留品アルキ其主分明ナルハ之ヲ還付シ然ラサルハ亦前條ノ手續ヲ爲ス
可シ

第十六條 乘客中舉動不審ノ者ト認ムルキハ警察署又ハ分署交番所巡行巡查ノ内ヘ密告ス
可シ

第十七條 前條ノ場合ニ於テ犯罪ノ事蹟顯然タルトキハ相當ノ賞ヲ與フヘシ

第十八條 街角橋梁其他往來雜沓ノ地ハ徐行シ且ツ馬丁一名馬前ヲ進行シテ掛聲ヲ爲スヘ
シ

第十九條 途上車馬ト相遇フキハ路ノ左傍ニ避ケ坂路ハ上リ車ヨリ之ヲ避ク可シ尤モ郵便
馬車ト認ムルキハ障礙トナラサル様注意ス可シ

第二十條 前車徐行シ後車疾行スルキハ後車懸ケ聲ヲ爲スヘシ前車ハ便宜之ヲ避ケ後車ヲ
通過セシムヘシ

十八年甲第十
四號ヲ以テ修
正

十六年甲第三
甲第六十九號
ヲ以テ改正

第二十一條 休憩等ノ爲メ車ヲ駐ムルキハ路傍ニ寄り他ノ馬車アルキハ馬丁ヲシテ馬ノ兩
 口ヲ取ラシム可シ

第二十二條 夜中運轉スルキハ車前左右ニ燈火ヲ掲ク可シ

第二十三條 馬疋ヲ慘酷ニ鞭撻シ又ハ過速スルヲ禁ス

第二十四條 約束外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第二十五條 車馬及乗組人員又ハ廐舎ノ掃除等ハ臨時警察官検査スルヲアル可シ

第二十六條 此規則ニ違背シタル者ハ刑法ニ明文アルノ外本縣違警罪ノ刑ヲ科シ尙ホ行政
 ノ處分ヲ以テ營業ヲ停止スルヲアル可シ

第一號書式

私儀左ニ記スル馬車ヲ以テ營業仕度候間鑑札御附與奉願候也

年月日 埼玉縣令氏名殿
 何府縣(士族(平民)) 氏名印

一 乘合馬車何匹立何人乘 何輛
 何頭
 前書出願之趣相違無之ニ付與印仕候也

何町村戸長 氏名印

十五年甲第六
十四號ヲ以テ
追加

第一號書式

右之者馭者(馬丁)ニ相雇候間鑑札御附與奉願候也

年月日 埼玉縣令氏名殿
 何府縣何區郡何町村番地 族籍 氏名 年齢

肩書前ニ同シ 氏名印

與書前ニ同シ 何町村戸長 氏名印

第三號書式

私儀馬車廢業候間鑑札返納仕候也

年月日 埼玉縣令氏名殿
 何府縣何區郡何町村番地 族籍 氏名 年齢

肩書前ニ同シ 氏名印

前書届出之趣相違無之ニ付與印仕候也

何町村戸長 氏名印

十九年甲第四
改正

十七年甲第五
追加

第三條 不具ノ人ヲ觀セ物トナシ若クハ猥褻又ハ理非ヲ轉倒シタル講談歌舞等ヲ爲スヲ禁

第四條 獐猛ノ禽獸ヲ觀セ物ト爲スハ其柵欄等ヲ堅固ニシ危險ノ虞ナキ様注意スヘシ

第五條 無鑑札ノ藝人ヲ雇入興行ヲ爲スヘカラス
但、神佛祭禮等ノ節諸人へ從覽セシムル諸興行ハ此限ニアラス、

第六條 總テ興行ハ日出ヨリ午後十二ヲ限リトス

第七條 木戸錢ハ入口ニ揭示スヘシ

第八條 木戸錢ノ外中錢杯ト稱シ不當ノ金錢ヲ請求シ又ハ飲食其他ノ物品ヲ強賣スヘカラス

第九條 興行ノ場所ハ堅固ニ修理シ看客ノ安全ハ論勿火災盜難等ノ虞ナキ様注意スヘシ

第十條 來客中若シ舉動不審ノ者アル時ハ速ニ警察署又ハ分署交番所巡行巡查ノ内へ密告
スヘシ

第十一條 前條ノ場合ニ於テ犯罪ノ事蹟顯然タルキハ相當ノ賞ヲ與フヘシ

第十二條 此規則ニ違背シタル者ハ刑法第四百廿八條第五項ノ刑ヲ科スルノ外行政ノ處分

第一號書式

私儀(何縣何國何郡何村何ノ誰外何人相雇)木戸錢大人何錢 子供何錢ト定メ何月何日ヨリ何
日間何處ニ於テ何興行仕度此段奉願候也

十六年甲第三
改正

十五年甲第六
一號ヲ以テ
正

年月日

埼玉縣令氏名殿

前書出願之趣相違無之ニ付與印仕候也

何町(宿村)戸長
氏

名印

埼玉縣何郡(町)何番地居住(寄留)

何府縣士族(平民)

氏

名印

第二號書式

私儀何縣何國何郡何村何ノ誰外何人相雇(私共申合)奉納トシテ何月何日ヨリ何日間何
處ニ於テ何興行諸人從覽爲致度此段奉願候也

年月日

埼玉縣令氏名殿

與書前ニ同シ

何町(宿村)戸長
氏

名印

埼玉縣何郡(町)何番地居住(寄留)

何府縣士族(平民)

氏

名印

何府縣士族(平民)

氏

名印

十五年甲第百
一號ヲ以テ追
加
五十七年甲第
五十一號ヲ以
テ修正

○甲第七十七號 明治十五年六月三日

烟火製造及販賣營業並興行取締規則別冊之通創定來ル七月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

烟火製造及販賣營業並興行取締規則

- 第一條 烟火製造及販賣營業ヲナサントスルモノハ第一號書式ニ據リ其製造場火藥置場及家屋ノ距離等ノ繪圖面ヲ添へ所轄警察署へ願出鑑札ヲ受クヘシ但鑑札ハ貸借スルヲ得ス
- 第二條 廢業ノ者ハ第二號書式ニ照シ所轄警察署へ鑑札ヲ返納スヘシ
- 第三條 轉居改名代替又ハ鑑札ヲ遺毀シタル者ハ其事由ヲ詳記シ第一條ノ手續ヲ以テ更ニ鑑札ヲ受クヘシ
- 第四條 營業者ニ非シテ一時烟火ヲ製造スル者ハ第三號書式ニ照シ所轄警察署へ願出テ許可ヲ受クヘシ
- 第五條 前條ニ據リ願出ル者ハ其製造スル烟火ノ種類量目員數及製造場火藥置場ト家屋ノ距離等ヲ記載シタル圖面ヲ添フヘシ
- 第六條 烟火ハ日出前日沒後又ハ製造場外ニ於テ製造スルヲ禁ス但製造場へハ妄リニ他人ヲ入ラシム可ラス
- 第七條 販賣人ハ烟火ヲ堅牢ナル箱等ニ入置火氣ノ豫防ヲ爲スヘシ
- 第八條 製造人及販賣人ハ十六年未滿ノ者又ハ知覺精神ノ不充分ナル者ニ烟火ヲ取扱ハシム可ラス

十六年甲第四號ヲ以テ追加

第九條 烟火ヲ興行スル時ハ其近傍田畑等所有主ノ承諾ヲ得第四號書式ニ照シ所轄警察署又ハ分署へ願出ツヘシ

第十條 興行場ハ人家ヲ距ル五十間外ノ地ニシテ適宜ノ距離ニ繩張ヲ爲シ見物人ヲシテ近接セシム可カラス

第十一條 興行ノ許可ヲ得ルト雖モ若シ當日烈風ニ際スル時ハ其興行ヲ止メ又ハ中止スヘシ

第十二條 警察官ハ臨時烟火製造場及火藥置場ヲ檢査スルコトアルヘシ

第十三條 小烟火(線香烟火具類)ニシテ危險ノ寡キモノハ第九條及第十條第十七條第十八條ノ限リニアラス

第十四條 烟火ニアラサルモ燈火其他ノ燃体ヲ空中ニ放揚スルモノハ此規則第九條第十條及第十一條ヲ遵守スヘシ

第十五條 烟火製造營業ノ鑑札ヲ受ケタルモノハ其製造烟火ヲ販賣スルヲ得可シ

第十六條 烟火ヲ製造セス合藥ノ儘販賣スルヲ禁ス

但烟火製造者相互ニ賣買スルハ此限ニアラス

第十七條 烟火ハ行商スルヲ禁ス

第十八條 烟火ヲ運搬スル時ハ烟火タルヲ認ムヘキ目標ヲ付スヘシ

第十九條 此規則ニ違背シタル者ハ刑法ニ明文アルノ外本縣違警罪ヲ科シ尙ホ行政ノ處分

第六章 第三款 取締規則

三百四十七

十六年甲第五號ヲ以テ追加

十五年甲第百號ヲ以テ改正

十六年甲第五十一號ヲ以テ追加

同上

同上

十五年甲第百三十八號甲第

ヲ以テ營業ヲ停止スルコトアル可シ

第一號書式

私儀烟火製造(販賣)營業仕度候間鑑札御附與被下度依テ別紙製造場等繪圖面相添ヘ
此段奉願候也

埼玉縣何郡何町(村)何番地居住(寄留)
何府縣士族(平民)

年月日

埼玉縣令氏名殿

氏名印

前書出願之趣相違無之ニ付與印仕候也

年月日

右町村戸長

氏名印

第二號書式

私儀烟火製造(販賣)廢業候ニ付鑑札返納仕候也

埼玉縣何郡何町(村)何番地居住(寄留)

何府縣士族(平民)

年月日

埼玉縣令氏名殿

氏名印

前書届出ノ趣相違無之ニ付與印仕候也

年月日

右町村戸長

氏名印

第三號書式

烟火製造願

何本

一 何々

何

一 何々

右之通烟火製造仕度別紙畧圖相添此段奉願候也

埼玉縣何郡何町(村)何番地居住(寄留)

何府縣士族(平民)

年月日

埼玉縣令氏名殿

氏名印

前書出願ノ趣相違無之ニ付與印仕候也

年月日

右町村戸長

氏名印

第四號書式

烟火興行願

一 何々

一 何々

右之通來ル何月何日午(前)何時ヨリ何時迄何所ニ於テ興行致度尤モ御規則ヲ遵守シ

不取締無之様可致候間御許可被下度此段奉願候也

第六章 第三款 取締規則

何府縣何郡何町何番地居住(寄留)

何府縣(士族(平民))

氏 名 印

右町村戸長

氏 名 印

年 月 日

埼玉縣令氏名殿

前書出願之趣相違無之ニ付與印仕候也

年 月 日

○甲第九十二號 明治十五年八月八日

製氷及賣氷取締規則左之通相定來ル九月一日ヨリ施行シ明治十三年六月甲第六拾八號布達凍
氷製造人并販賣人取締規則ハ同日ヨリ相廢候條此旨布達候事

製氷及賣氷取締規則

- 第一條 製氷營業ヲ爲サントスル者ハ第一號書式ニ照シ製氷場氷室ノ位置構造并ニ用水引方等ノ圖面ヲ添ヘ毎年十一月二十日限リ所轄警察署ヲ經テ縣廳ニ願出鑑札ヲ受クヘシ但鑑札ハ貸借スルヲ得ス
- 第二條 賣氷營業ヲ爲サントスル者ハ毎年第一號書式ニ照シ製造人ノ住所氏名并ニ製造所ノ地名書ヲ添ヘ所轄警察署ニ願出鑑札ヲ受クヘシ但鑑札ハ貸借スルヲ得ス
- 第三條 製氷悉皆販賣シタル時又ハ賣氷營業ヲ廢スル時ハ第二號書式ニ照シ所轄警察署ニ鑑札ヲ返納スヘシ但製氷鑑札ハ警察署ヲ經テ縣廳ニ返納スヘシ

十八年甲第四
號ヲ以テ修正

十五年甲第百
八號ヲ以テ修
正

- 第四條 轉居改名代替又ハ鑑札ヲ遺毀シタル者ハ其事由ヲ詳記シ更ニ鑑札ヲ受クヘシ
- 第五條 凍氷製造中場所及用水引方等ヲ變更セントスルトキハ圖面ヲ添ヘ所轄警察署ヲ經テ縣廳ニ願出ヘシ
- 第六條 製氷場及ヒ氷室ノ位置構造并ニ用水引方等ハ警察及衛生官吏檢査ノ上許可スヘシ
- 第七條 町村用水ノ上流ニ於テ製造セントスル者ハ其町村ノ承諾ヲ受クヘシ
- 第八條 製造場ハ人家道路下水等ニ接近セサル土地ヲ撰ムヘシ凡テ田畝或ハ汚水ノ流注セ
ル池沼等ニ於テ製氷シ又ハ惡質ノ氷ヲ販賣スルヲ許サス
- 第九條 製氷ノ營業鑑札ヲ受ケタル者ハ製氷ヲ販賣スルヲ得ヘシ
- 第十條 製氷既ニ成リ輸送販賣セントスルキハ其製造高ヲ記シ所轄警察署ヲ經縣廳ニ願出
氷質ノ檢査ヲ受クヘシ
- 但他管下ニ輸送販賣スルキハ其管轄廳ヘノ添書ヲ請フヘシ
- 第十一條 營業者中行商スル者ハ常ニ鑑札ヲ携帯スヘシ
- 但雇人ヲシテ本條ノ營業ヲ爲サシムル者ハ雇主ヨリ第二條ノ手續ヲ以テ鑑札ヲ願出ヘシ
- 第十二條 賣氷營業者已ニ鑑札ヲ受ケタル後他ノ製氷ヲ販賣セントスルキハ其都度其製造
人ノ住所氏名并製造所ノ地名書ヲ添ヘ所轄警察署ニ届出ヘシ
- 第十三條 警察官ハ臨時製氷場賣氷店及ヒ行商者ノ出先ニ就キ檢査スルコトアルヘシ
- 第十四條 此規則ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十六條第四項ニ依リ刑ヲ科スルノ外行政
ノ處分ヲ以テ營業ヲ停止スルヲアル可シ

第六章 第三款 取締規則

三百五十一

十六年甲第三
十九號十九年
甲第八十三號
ヲ以テ修正

第一號書式

私儀製氷 賣氷營業仕(候付テハ雇人何ノ誰ナシテ行商爲致度候間(連署ヲ以テ)鑑札御附與奉願候也

年月日

(被雇人)
何縣下何國何郡何町何村何番地居住(寄留) 族籍 氏 名 印

(雇主)
埼玉縣何郡何町何番地居住(寄留) 族籍 氏 名 印

埼玉縣令氏名殿

前書出願之趣相違無之ニ付與印仕候也

年月日

何町村戸長 氏 名 印

第二號書式

私儀製造ノ凍氷 蒸餾 賣候間鑑札返納仕候也

年月日

前書前ニ同シ

埼玉縣令氏名殿

前書届出ノ趣相違無之ニ付與印仕候也

氏 名 印

何町村戸長 氏 名 印

○甲第九十三號 明治十五年八月八日

牛乳商取締規則左之通相定來ル九月一日ヨリ施行シ明治十三年四月甲第三十九號布達牛乳營業取締規則ハ同日ヨリ相廢シ候條此旨布達候事

牛乳商取締規則

第一條 牛乳ヲ搾取シテ販賣營業ヲ爲サントスル者ハ第一號書式ニ照ラシ所轄警察署ニ願出テ鑑札ヲ受クヘシ但シ鑑札ハ貸借スルヲ得ス

第二條 廢業スル者ハ第二號書式ニ照ラシ所轄警察署ニ鑑札ヲ返納スヘシ

第三條 轉居改名代替又ハ鑑札ヲ遺毀シタル者ハ其事由ヲ詳記シ第一條ノ手續ヲ以テ更ニ鑑札ヲ受クヘシ

第四條 糞場ハ人家稠密ノ地ヲ避ケ不潔ナキ様掃除スヘシ

第五條 搾取所ニ牡牛犢牛ヲ繫キ置クヘカラス但生後百五十日以内ノ犢牛ハ此限リニ在ラ

第六條 乳汁ヲ運搬シ及ヒ貯藏スル器具ハ銅製ヲ用ルヲ禁ス

第七條 乳牛病ニ罹ルキハ速カニ治療セシメ若シ傳染病ノ疑ヒアルキハ其容体書ヲ添ヘ直ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ

第八條 病牛ヨリ搾取シタル乳汁又ハ他物ヲ混和醜造シ及腐敗ニ傾キタル乳汁ヲ販賣スルヲ禁ス

第九條 乳牛若シ狂病犬ノタメ咬傷ヲ受ケシキハ全癒ノ後一ヶ月間ヲ經ルニアラサレハ其乳汁ヲ販賣スルヲ禁ス

第十條 畜牛増減アルキハ其都度所轄警察署ニ届出ツヘシ

第十一條 警察及衛生官吏ハ臨時家場及牛乳ヲ検査スルコアルヘシ

第十二條 此規則ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十六條第四項ニ依リ刑ヲ科スルノ外行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ停止スルコアル可シ

第一號書式

私儀牛乳搾取營業仕度候間鑑札御附與奉願候也

埼玉縣何郡何町村何番地居住(寄留)

族籍

氏名印

年月日

埼玉縣令氏名殿

前書出願之趣相違無之ニ付與印仕候也

何町村戸長

氏名印

第一號書式

私儀牛乳搾取廢業仕候間鑑札返納仕候也

前書前ニ同シ

氏名印

年月日

埼玉縣令氏名殿

前書届出ノ趣相違無之ニ付與印仕候也

何町村戸長

氏名印

○甲第九十四號 明治十五年八月八日

屠獸場及賣肉取締規則左之通相定來ル九月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

屠獸場及賣肉取締規則

第一條 屠獸及賣肉營業ヲ爲サントスル者ハ第一號書式ニ照ラシ所轄警察署ニ願出鑑札ヲ受ク可シ但鑑札ハ貸借スルヲ得ス

第二條 廢業スル者ハ第二號書式ニ照シ所轄警察署ニ鑑札ヲ返納スヘシ

第三條 轉居改名代替又ハ鑑札ヲ遺毀シタル者ハ其事由ヲ詳記シ第一條ノ手續ヲ以テ更ニ鑑札ヲ受クヘシ

第四條 屠場ハ人家稠密ノ地ニ設置スヘカラス且警察官ノ検査ヲ受ケテ開業スヘシ

第五條 凡テ屠場外ニ於テ諸獸ヲ屠殺スルヲ禁ス

第六章 第三款 取締規則

十五年甲第百九號ヲ以テ修正
十六年甲第四十號十九年甲第八十四號ヲ以テ改正

十五年甲第百
十號ヲ以テ修
正
十六年甲第
四十一號十九
年甲第八十五
號ヲ以テ改正

第六條 病獸ヲ屠殺シ及ヒ他ノ肉ヲ混シ及腐敗ニ傾キタル肉ヲ販賣スルヲ禁ス
第七條 警察及衛生官吏ハ臨時屠場及獸肉ヲ檢査スルコトアルヘシ
第八條 獸肉小賣營業者ハ御元人ノ住所氏名ヲ所轄警察署又ハ分署ニ届置クヘシ
第九條 此規則ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十六條第四項ニ依リ刑ヲ科スルノ外行政ノ
處分ヲ以テ營業ヲ停止スルコトアル可シ
第一號書式

私儀屠獸肉營業仕度候間鑑札御附與奉願候也

埼玉縣何郡何町村何番地居住(寄留)族籍

年月日

埼玉縣令氏名殿

氏名印

前書出願ノ趣相違無之ニ付與印仕候也

何町村戸長 氏名印

第二號書式

私儀屠獸肉廢業仕候間鑑札返納仕候也

年月日

埼玉縣令氏名殿

肩書前ニ同シ 氏名印

前書届出之趣相違無之ニ付與印仕候也

何町村戸長 氏名印

○甲第三號

明治十七年一月廿八日

古物商取締條例第二十三條ニ據リ細則別紙之通相定候條此旨布達候事

古物商取締條例細則

第一條 古物商又ハ刀劍商ヲ爲サントスル者ハ第一號書式ニ照シ戸長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署ニ願出免許證ヲ受クヘシ

第二條 袋物屋小間物屋籠甲屋時計屋飾屋箔打屋煙管屋ニシテ其營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換セントスル者ハ第二號書式ニ照シ戸長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署ニ願出免許證ヲ受クヘシ

第三條 特別取締期限内廢業シタル者又ハ廢業スルト否トヲ問ハス其商家ニ同居スル者其期限内ハ免許セサルモノトス

第四條 廢業ノ者ハ第三號書式ニ照シ組合頭取連印ノ上戸長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署ニ免許證ヲ返納スヘシ

第五條 轉居改名代替リ又ハ免許證ヲ遺毀シタルモノハ其事由ヲ詳記シ第一條若クハ第二條ノ手續ニ依リ更ニ免許證ヲ受クヘシ

十七年甲第四
十六號ヲ以テ
追加

第六條 刀劍商ヲ除クノ外床店又ハ露店ニシテ販賣若クハ行商ヲ爲サントスル者ハ左ノ雛形ノ木札ヲ製シ所轄警察署ニ於テ檢印ヲ受ケ店頭ニ標出又ハ顯ハニ携帯ス可シ若シ家屬雇人ヲシテ本業ヲ爲サシムルキハ尙ホ家屬雇人ノ氏名年齢ヲ記載ス可シ但廢業シタルキハ所轄警察署ニ届出テ消印ヲ乞フ可シ

竪七寸
幅二寸五分

琦玉縣	烙印
住所
屋號
何々商 氏名
明治何年何月
何年何ヶ月

家屬雇人ノ携帯スル木札ハ雇主ノ氏名ヲ肩書スヘシ

第七條 警察區畫内ニ於テ便宜組合ヲ設ケ頭取一名副頭取一名若クハ數名ヲ撰定シ其住所氏名ヲ所轄警察署及ヒ分署ニ届出ツ可シ其變換アルキモ亦同シ

第八條 頭取ハ簿冊ヲ製シ組合營業者ノ住所氏名ヲ記載シ實印ヲ取置クヘシ

第九條 頭取ハ所轄警察署又ハ分署ヨリ品觸其他達等アルキハ一ヶ月以内組合中ニ周シ通達シ承印ヲ取リ置ク可シ

第十條 古物商販條例第六條第八條ノ場合ニ於テハ盜罪詐欺取財賭博ノ罪又ハ刑法第三

百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタルヤ否不分明ナルキハ本人住所ノ戸長又ハ身元詳ナル証人ノ証明書ヲ取置ク可シ

第十一條 古物商ハ左ノ各種ノ帳簿ヲ製シ置キ新調ノ都度品觸帳ヲ除クノ外所轄警察署ノ檢印ヲ受ク可シ但兼業者ハ各別ニ帳簿ヲ製シ置ク可シ

第一 物品買入讓受明細帳

此帳簿ニハ物品買入又ハ讓受ケタルキ甲號書式ニ準シ記載スヘシ但條例第四條但書及ヒ第六條ノ場合ニ於テ警察官ノ認可若クハ許可ヲ得タルキハ其檢印ヲ受ク可シ

第二 物品讓渡明細帳

此帳簿ニハ物品賣渡又ハ讓渡シタルキ乙號書式ニ準シ記載ス可シ

第三 物品預帳

此帳簿ニハ物品ヲ預リタルキ丙號書式ニ準シ記載ス可シ

第四 品觸帳

此帳簿ニハ品觸到達シタルキハ寫書ニ年月日時ヲ記載シ散逸セサル様順次綴リ置ク可シ

第十二條 條例又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ヲ犯シテ罰金ノ言渡ヲ受ケ又ハ禁錮ノ刑ヲ受ケ滿期歸住シタルモノアルキハ其頭取ヨリ直ニ所轄警察署及ヒ分署ニ届出ツヘシ

第十三條 免許証ヲ受ケタル者ハ直ニ左ノ雛形ノ木札ヲ製シ所轄警察署ニ於テ檢印ヲ受ケ

本條以下十七
年甲第四十六
號ヲ以テ改正

第六章 第三款 取締規則

店頭ニ標出シ廢業シタル者ハ免許証ヲ返納スルキ消印ヲ乞フヘシ

曲尺二尺五寸

埼玉縣烙印

何々商 氏名

斗寸

第十四條 條例第九條第十一條第十二條第十六條中第五項第六項ニヨリ届出ルキ分署所轄ニ係ル者ハ分署へ届出ツヘシ

第十五條 條例第廿一條ノ場合ニ於テ分署所轄ニ係ルキハ其分署ニ於テ處分ス

第十六條 此細則ニ違背シタル者ハ古物商取締條例ニ明文アルノ外刑法第四百廿七條第八項ノ刑ヲ科スヘシ

甲號物品買入明細帳書式

△ハ朱書

△書式中其物品及ヒ住所氏名等ヲ他日辨明スルコトヲ得ル者ハ慣例ニ依リ屋號又ハ符牒等ヲ用ユルモ妨ケナシ但特別取締中ノ者ハ此限ニアラス

何縣下何國郡區何宿驛町村何番地寄留

(士族ニ平民賣主又ハ)讓主

氏

名 印

(特別取締ニ付セラレタル期限内ハ年齢ヲ記入スヘシ)

何年何月日(特別取締ニ付セラレタル期限内ハ時刻ヲ記入スヘシ)

一何色七子紋付男小袖

何枚

但紋丸ノ中ニ何々何々所裏何色袖口何

此價金何拾圓也

一何色縮緬女小袖

何枚

但紋何何々所胴裏裾何袖口何

此價金何拾何圓何錢也

一金側兩硝子懷中時計

何箇

但器械何國製番號何万何千號附屬品何

此價金何拾何圓也

一黒塗八寸重箱

何箇

但何塗蓋金箔ニシテ何ノ紋付又ハ金梨子地何々ノ蒔繪アリ

此價金何拾何圓也

幾品

乙號物品買入明細帳書式

(本人身元詳ナラザルキハ別ニ身元詳ナル証人ヲ立テ其住所氏名ヲ列記スヘシ)

△書中其物品及住所氏名等記載方ハ甲號書式朱書ノ例ニ同シ但條例第三條第十六條第四項ニ依リ買主讓受主ノ住所氏名等知り得タル時ハ之ヲ記載スヘシ

何縣何國郡區何宿驛何番地寄居
町村何番地寄留
(士族(平民)買主又ハ讓受主)

氏名

(特別取締ニ付セラレタル期
限内ハ年齡ヲモ記入スヘシ)

何年月日(特別取締ニ付セラレタル期
限内ハ時刻ヲモ記入スヘシ)

一何色七子紋付男小袖

何枚

此價金何拾何圓也

一黒塗八寸重箱

何箇

此價金何拾何圓也

一何々

幾品

丙號物品預リ帳書式

何縣何國郡區何宿驛何番地寄居
町村何番地寄留
(士族(平民)
預ケ主) 氏名

(條例第六條ニ依リ警察官ノ許可ヲ受ケ
物品ヲ預ケタル時ハ其旨ヲ記入スヘシ)

何年月日(乙號書式
ニ同シ)

一何色七子紋付男小袖

但水災盜難保護ノ爲メ預ル

一黒塗八寸重箱

但何々ノ爲メ預ル

幾品

第一號書式

私儀(古道具古本古書畫
古着古銅鐵瀝金銀)賣買(刀劍商)營業仕度候間免許証御付與奉願候也

埼玉縣何國何郡何宿驛何番地寄居
町村何番地寄留
(士族(平民)) 氏名印

年月日

埼玉縣令氏名殿

氏名印

前書出願之趣相違無之ニ付與印仕候也

右宿驛町村戸長

氏名印

第二號書式

私儀營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換仕度候間免許証御付與奉願候也

第六章 第三款 取締規則

年月日
 埼玉縣令氏名殿
 前書出願之趣相違無之ニ付與印仕候也
 年月日
 右宿驛町村戸長
 氏名印

第三號書式

私儀(古道具古本古書古畫古着古銅鐵鍍金銀)賣買(刀劍商)營業ニ屬スル古物ノ賣買交換廢業候間御免許証返納仕候也

年月日
 埼玉縣令氏名殿
 前書届出之趣相違無之ニ付與印仕候也
 年月日
 右宿驛町村戸長
 氏名印

埼玉縣何郡何那何宿驛何番地居住
 (士族(平民)何々商)
 頭取 氏名印
 右宿驛町村戸長 氏名印

○乙第二十五號 明治十七年二月廿九日
 明治十六年^{十二}月^{十二}日第五拾號布告古物商取締條例第二條ニ據リ免許スル者ハ其管轄ノ府縣内ニ限リ營業スルヲ得ヘキ免許ナルヲ以テ本縣ニ於テ下附シタル免許証ヲ携帶他ノ府縣ヘ行商スル者ハ條例違犯者ト相成ル儀ニ付該營業人ニ於テ心得違之レナキ様戸長ヨリ豫テ諭示致シ置クヘシ此旨相達候事

○乙第百壹號 明治十七年八月四日
 明治十六年第五十號布告古物商取締條例第一條中古銅鐵トアルハ金銀ヲ除ク外古金屬ノ總稱ニ有之候處人民中間々古真鍮錫鉛「ブリッキ」等ハ古銅鐵外ト心得免許ヲ得スシテ賣買營業ヲ爲ス者有之哉ニ相聞ヘ甚々不都合ニ付自今右等誤解ノ儀無之様注意致スヘシ此旨相達候事

○甲第十九號 明治十七年五月七日
 質屋取締條例第拾八條ニ據リ細則左之通相定候ニ就テハ該條例實施ノ日ヨリ明治十五年三月本縣甲第三拾號布達質屋取締規則ハ相廢止候條此旨布達候事
 但從前營業者ハ鑑札ヲ返納シ更ニ此細則ニ據リ免許証ヲ受クヘシ
 質屋取締條例細則

第一條 質屋營業ヲ爲サントスル者ハ第一號書式ニ照シ戸長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署ニ願出免許証ヲ受クヘシ

第二條 廢業スル者ハ第二號書式ニ照シ組合頭取連印ノ上戸長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署ニ免許証ヲ返納スヘシ

第三條 轉居改名代替リ又ハ免許証ヲ遺毀シタル者ハ其事由ヲ詳記シ第一條ノ手續ニ依リ更ニ免許証ヲ受クヘシ

第四條 免許証ヲ受ケタル者ハ直ニ左ノ雛形ノ木札ヲ製シ所轄警察署ニ於テ檢印ヲ受ケ店頭ニ標出シ廢業シタル者ハ免許証ヲ返納スル時消印ヲ乞フ可シ

曲尺長サ二尺五寸



第五條 警察區畫内ニ於テ便宜組合ヲ設ケ頭取一名副頭取一名若クハ數名ヲ撰定シ其住所氏名ヲ所轄警察署及ヒ分署ニ届出ツ可シ其變換アル時モ亦同シ

第六條 營業者少數ノ警察區畫内ニ於テハ古物商ノ組合ト相合スルヲ得

第七條 頭取ハ簿冊ヲ製シ組合營業者ノ住所氏名ヲ記載シ實印ヲ取置クヘシ

第八條 頭取ハ所轄警察署又ハ分署ヨリ品觸其他ノ達等アル時ハ一ヶ月以内組合中へ周リ通達シ承印ヲ取置クヘシ

第九條 左ノ事項ハ質入主ノ見易キ場所ニ揭示ス可シ

一 流質期限

二 利子ノ割合

三 質物ノ災難ニ罹リタル時ノ處辨方

第十條 條例第二條ニ據リ警察署ノ檢印ヲ受クヘキ臺帳ハ編製ヲ堅固ニシ其初葉ニ付ケ込ノ紙數ヲ記載ス可シ

第十一條 條例第六條ノ場合ニ於テ盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタルヤ否不分明ナル時ハ本人住所ノ戸長又ハ身元詳ナル証人ノ証明書ヲ取置クヘシ

第十二條 條例第三條ニ依リ記載スル帳簿ハ甲號書式ニ準シ証人ヲ要スルト否トニ拘ハラズ質置主ノ實印ヲ取置ク可シ

第十三條 條例第九條ニ依リ記載スル帳簿ハ乙號書式ニ準シ記載ス可シ

第十四條 條例第六條第八條第十一條第十二條ニ依リ届出ルル分署所轄ニ係ル者ハ分署へ届出可シ

第十五條 條例又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ヲ犯シテ罰金ノ言渡ヲ受ケ又ハ禁錮ノ

本條以下十七年甲第三十四號ヲ以テ改正

十七年甲第三
十四號十八年
甲第六十四號
十九年甲第八
十七號ヲ以テ
改正

刑ヲ受ケ滿期歸住シタル者アル時ハ其頭取ヨリ直ニ所轄警察署及分署ニ届出ヘシ
第十六條 此細則ニ違背シタル者ハ質屋取締條例ニ明文アルノ外刑法第四百二十七條第八
項ニ依リ刑ヲ科ス可シ
甲號質物臺帳書式

何縣何國何郡區何宿驛何番地居住

(士族)平民寄留ノ者ハ(府)縣名ヲ冠スヘシ

氏 名 印

(証人ヲ要スル時ハ其証人ノ住所
氏名等ヲ前項ニ準シ列記ス可シ)

何年何月日入質(何年何月日受戻)
一御召縮緬ノ綿入萬ノ紋付女物 何 枚
貸金何十何圓何十錢也
一男物本博多帶 幾 筋
但片面紺ノ無地片面茶ニ二條ノ紺筋入り
貸金何十何圓何十錢也 何 枚
一單ノ黑羽二重羽織
但何紋何ヶ所
貸金何十何圓何十錢也

△若シ入換アリタル時ハ左ノ如ク記載スヘシ

何年何月日前記何々品ト入換 何 枚
一何々
貸金何十何圓何十錢也
幾 品

乙號流質物賣拂帳書式

何縣何國何郡區何宿驛何番地寄留

(士族)平民寄留ノ者ハ(府)縣名ヲ冠スヘシ

買主 氏 名 印

何年何月日約定期限經過スルニ付左ノ物品流質賣却ス
一黑縮緬ノ女羽織 何 枚
但何紋何ヶ所
此代金何十何圓何十錢也
一辨慶縮ノ單物 何 枚
但男物ニシテ木綿
此代金何十何圓何十錢也
幾 品

十七年甲第三
十四號ヲ以テ
追加

第一號書式

私儀質屋營業仕度候間免許証御附與奉願候也

埼玉縣國郡町番地寄留
居住

(士族)平民寄留ノ者ハ(府)縣名ヲ冠スヘシ

氏 名 印

年 月 日

埼玉縣令氏名殿

前書願出之趣相違無之ニ付與印仕候也

右町村戸長

氏 名 印

年 月 日

第二號書式

私儀質屋廢業候間御免許証返納仕候也

埼玉縣國郡町番地寄留
居住

(士族)平民寄留ノ者ハ(府)縣名ヲ冠スヘシ

氏 名 印

年 月 日

埼玉縣令氏名殿

前書願出之趣相違無之ニ付與印仕候也

頭取 氏 名 印

右町村戸長

氏 名 印

年 月 日

○甲第九號

明治十八年二月十七日

明治十七年^{十二}第三十一號公布火藥取締規則ニ關スル願届之手續左之通相定候條此旨布達候事

火藥取締規則ニ關スル願届手續

第一條 火藥類賣買營業ヲ爲サントスル者ハ第一號火藥類ヲ倉庫ニ貯藏セントスル者ハ第二號火藥庫又ハ火藥假貯藏所ヲ建設セントスル者ハ第三號書式ニ據リ戸長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署ヲ經テ願出ツヘシ

但願書ハ正副貳通差出スヘシ

第二條 銃砲又ハ坑業土工其他職業用ノ爲メ營業者ヨリ火藥類ヲ買受ケントスルモノハ第四號五貫目以上ノ火藥ヲ連搬セントスルモノハ第五號書式ニ據リ願出ヘシ

第三條 營業者ニ於テ買受ケタル火藥類ハ第六號賣渡シタルハ第七號書式ニ據リ届出ヘシ
第四條 火藥庫及ヒ火藥假貯藏所建設ノ許可ヲ受ケタル者其建築落成ノ上ハ所轄警察署ニ届出ヘシ

第一號書式 用紙半紙以下同シ

火藥類營業願

私儀火藥類賣買營業仕度候間免許鑑札御附與被下度此段奉願候也
屬籍住所身分職業

年月日

埼玉縣令氏名殿

氏

名印

前書願ノ趣相違無之ニ付與印致シ候也

年月日

何町村聯合戶長

氏

名印

第二號書式

火藥貯藏願

一火藥 何程

一劇發火藥 何程

一雷管 何程

一導火雷管類 何程

右ハ何町(村)何番地ニ有之(私)何基所有ノ倉庫ニ貯藏仕度候間御許可被下度此段奉願候也

年月日

埼玉縣令氏名殿

屬籍住所身分職業

氏

名印

前書願之趣相違無之ニ付與印致シ候也

年月日

何町村聯合戶長

氏

名印

第三號書式

火藥庫(火藥假貯藏所)建設願

私儀營業(坑業)土工(何々)用火藥類貯藏ノ爲メ別紙方法書ニ據リ何郡何町(村)何番地字何處(火藥庫)假貯藏所建設仕度同地近傍ノ圖面相添此段奉願候也
屬籍住所身分職業

年月日

埼玉縣令氏名殿

氏

名印

前書願之趣相違無之ニ付與印致シ候也
(別紙方法書式ハ略ス)

年月日

何町村聯合戶長

氏

名印

第四號書式

火藥類買受願

一火藥 何程

一劇發火藥 何程

一雷管 何程

一導火雷管類 何程

第六章 第三款 取締規則

第七號書式

明治何年何月中火藥類賣渡調書

所用種類	數量	賣渡日	買受人住所氏名
獵銃用火藥	何程	何日	何府縣何郡何町村番地何某
軍銃用雷管	同	同	同
烟火藥	同	同	同
坑業用火藥	同	同	同
何々用何々	同	同	同
合計	何	何	何
火藥	何	何	何
雷管	何	何	何
劇發火藥	何	何	何
何々	何	何	何

右御届申上候也

年月日

何警察署長
警部氏名殿

屬籍住所身分職業

氏

名印

○甲第十八號

明治十八年四月廿一日

墓地及埋葬取締細則左之通相定候條此旨布達候事

但明治十六年六月本縣甲第七十二號布達火葬場設置規則ハ廢止ス

墓地及埋葬取締細則

- 第一條 墓地火葬場ヲ取廣メ又ハ新設セント欲スル者ハ所轄郡役所ヲ經テ縣廳ニ願出又改葬ヲ爲シ又ハ碑表（總銘傳等ノ碑文ヲ刻スル者ヲ云フ）單ニ死者ノ姓名族籍官位勳爵ヲ建設セント欲スル者ハ所轄警察署ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 第二條 前條願書ニハ各其事由及ヒ地名番號坪數等ヲ記載シ其地ノ繪圖面ヲ添ヘ戶長ノ奧印ヲ受ケ建碑願書ニハ碑文ノ稿本ヲモ添付スヘシ
- 第三條 墓地ハ已ムコトヲ得サル事情アルニ非サレハ之ヲ取廣メ又ハ新設スルコトヲ得ス又國道縣道鐵道河川及ヒ人家ヲ隔ルコト凡ソ六拾間以上ニシテ土地高燥飲用水ニ障害ナキ地ニ非サレハ之ヲ新設スルコトヲ得ス
- 第四條 墓地ノ周圍ニハ樹木ヲ栽ユヘシ墓地ノ内ニハ從前現存ノ者ヲ除クノ外一丈以上ノ竹木塀牆ヲ存ス可ラス
- 第五條 墓地火葬場ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ル可ラス
- 第六條 墓標碑表ハ擅ニ之ヲ轉移シ又ハ除却ス可ラス
- 第七條 墓地火葬場ハ種族宗旨ヲ別タス其地ニ本籍ヲ有シ若クハ其地ニ於テ死シタル者及管理ノ許諾ヲ得タル者ハ何人ニテモ之ニ葬ルコトヲ得其從前別段ノ習慣アル者ハ此限ニ

アラス

但死刑ニ處セラレタル者ハ墓地ノ一隅ヲ區劃シテ其内ニ埋葬スルモノトス
第八條 墳穴ハ深サ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ難キモノ及ヒ火葬ノ遺骨
ヲ埋藏スルモノハ此限ニアラス

第九條 火葬場ハ成ルヘシ人家及ヒ人民輻湊ノ地ヲ隔ル凡ソ百二拾間以上ニシテ風其地方ニ
最モ多キ上ニ位セサル地ヲ撰ヒ火爐烟筒ヲ備ヘ臭烟ヲ防クノ装置ヲナシ且ツ周圍ニ塀牆ヲ
設クヘシ

但山林原野等ニシテ人家ヲ隔ル五町以上ノ場所ナル時ハ此限ニアラス

第十條 火葬ハ日没後之ヲ行フヘシ但傳染病者ノ死屍ハ日没前又ハ死後二十四時間内ト雖
モ埋火葬スルコトヲ得

第十一條 墓地火葬場ニハ管理者ヲ置キ其住所姓名ハ戸長役場ニ届置ヘシ尤モ火葬場ハ戸
長若クハ衛生委員ニ於テ管理スルヲ得ヘシ

第十二條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ明治十八年二月本縣甲第五號布達衛生規則
ニ據リ戸長ノ認許證ヲ得改葬セント欲スル者ハ本則第一條ニ據リ警察署ノ許可證ヲ得之
ヲ管理者ニ渡スヘシ

第十三條 管理者ハ葬主ヨリ前條ノ證書ヲ受取リタル時ハ編纂シテ三月毎ニ所轄警察署
ノ檢閱ヲ受ケ之ヲ戸長役場ニ差出スヘシ
第十四條 管理者ハ戸長ノ認許證ナクシテ埋葬又ハ火葬ヲナシ若クハ警察署ノ許可證ナク

十九年甲第八
十六號ヲ以テ
改正

十二年甲第百
三十一號第十
五年甲第百十五
號ヲ以テ修正

シテ改葬ヲナサント欲スル者アル時ハ直ニ警察官ニ密告スヘシ

第十五條 管理者ハ墓地ノ繪圖面及ヒ墓籍ヲ調製シ置クヘシ

第十六條 墓地及埋葬取締規則并ニ此細則ニ違背シタル者ハ本縣違警罪ノ刑ヲ科ス可シ

○第四款 雜件

○甲第十一號 明治十年二月六日

銃砲取潰願之儀自今左之書式ニ倣ヒ願書相認銃砲取添所、轄、郡、役、所、へ差出處分可相受此旨布
達候事
願書式

銃砲取潰願

何縣御改
第何番

一銃名

和銃ナラハ玉目ヲ記ス

右不用ニ付取潰申度仍テ該銃相添此段相願候也

年號月日

第何區何郡何族

何之誰所持

右

戶長

何之誰印

何之誰印

三百七十九

郡長宛

前書之通相違無之依テ與書印形仕候也

年號月日

右區々長

何之誰印

○甲第百十五號

明治十四年十一月三十日

銃砲取潰願之儀ニ付明治十年月甲第十一號ヲ以テ布達候次第モ有之候處自今所轄警察署へ差出シ處分ヲ受ヘシ此旨布達候事

○甲第四十號

明治十年四月十七日

銃砲所持ノ者彼我讓受并ニ代替等ハ其節々速ニ可届出筈ノ處無其儀等閑ニ打過候輩往々有之不都合ノ事ニ候條以降無失漏可届出此旨布達候事

○甲第五十三號

明治十六年五月十日

銃砲賣買願及讓受渡届等ハ自今所轄警察署又ハ分署ヲ經テ可差出此旨布達候事

○甲第十二號

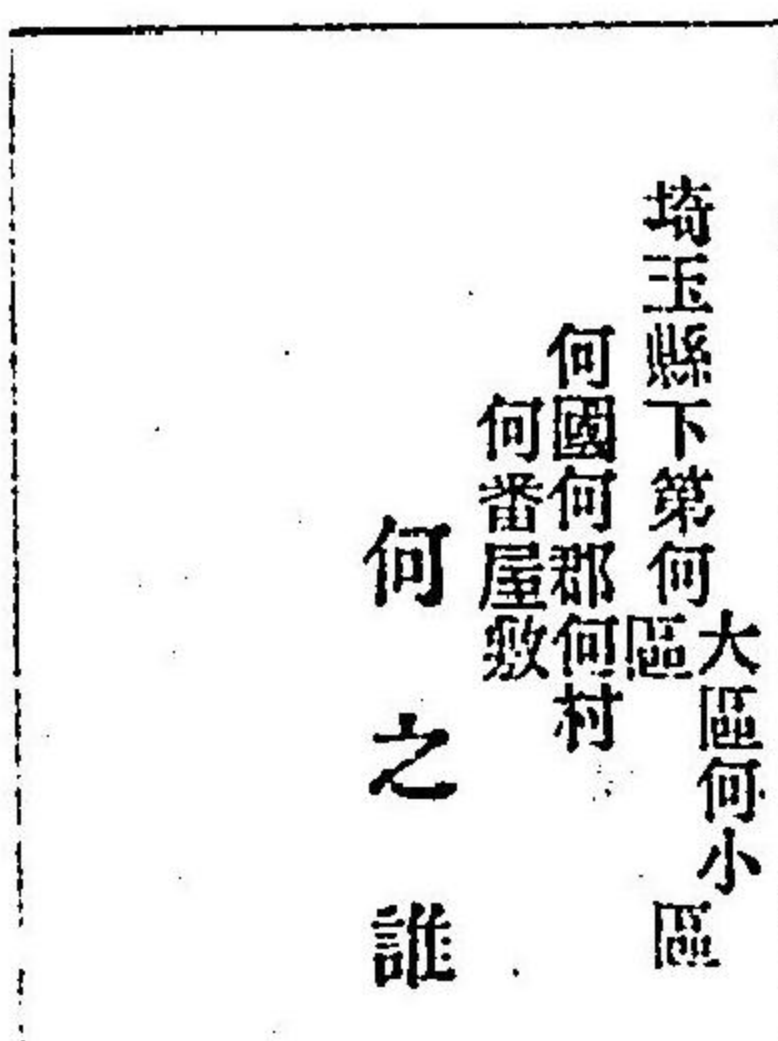
明治十一年一月廿六日

十九年甲第六十二號ヲ以テ修正

川船田船等他ニ流着スルモノアルモ其所有者ノ知レサルヨリ還附シ難キモノ往々有之依テハ左ノ書式ニ倣ヒ木札ヲ製シ各自ノ所有船へ必ス釘付置候様可致此旨布達候事

雛形

寸法適宜



○甲第四十九號

明治十一年六月廿七日

近來各所ニ狂犬徘徊シ往々路人ヲ咬傷シ其害不勘候就テハ無札ノ犬ハ飼主ナキモノト見做シ時々撲殺セシメ候條飼主有之犬ハ必ス其主ノ住所姓名ヲ記載シタル札ヲ附ケ置可甲假令札ヲ附ケ置キ候トモ狂犬ト認ムルハ直ニ撲殺候筈ニ付飼主ニ於テ兼テ注意可致此旨布達候事

○甲第七十九號

明治十一年十月十八日

街衢ニ於テ幼兒ヲ集メ食物ヲ賭ケ當テモノヲナシ又ハ吹矢ヲ以テ菓物等ヲ吹カシメ其他博戲ニ類スル營業ハ風俗ヲ紊亂スルモノニ付自今一切禁止候條此旨布達候事

○甲第百十一號 明治十三年十二月九日

本年四月第十二號公布集會條例ニ依リ講談論議ノ事項ヲ届出候節ハ其會主又ハ會長幹事等ノ内ニテ所轄警察署ヘ書面ヲ持參スヘシ此旨布達候事

○甲第二十七號 明治十三年三月十七日

失火ノ訴ハ是マテ本廳又ハ裁判所々在ノ地ノ警察署ヘ出頭書面差出候成規ニ有之候處自今其儀ニ及ハス候條直チニ其所轄警察署或ハ分署ヘ届出テ臨檢ヲ受クヘシ此旨布達候事

○甲第十八號 明治十四年二月廿四日

途上ニ於テ新聞紙并雜誌類ヲ讀賣候儀自今禁止候條此旨布達候事

○甲第百八號 明治十四年十一月十二日

銀行又ハ諸會社又ハ町村協議或ハ人民一己ヨリ其費用ヲ納メ巡查ノ配置ヲ請願スルキハ其請願ノ場所ヘ配置届候條左ノ規則ニ依リ願出ツヘシ此旨布達候事

巡查配置請願規則

第一條 巡查ノ配置ヲ請願スル者ハ其人員並配置ノ場所及ヒ期限ヲ詳記シ戸長ノ奥書ヲ取リ所轄郡役所ヲ經テ願出ツヘシ

第二條 配置期限ハ一ケ年ヨリ短期ナレハ許可セサルヘシ

第三條 請願ニ依リ配置スル巡查ハ總テ一般ノ成規ニ從ヒ其所轄警察署ノ管理ニ屬ス

第四條 巡查ノ配置ヲ請願スル町村ニ於テハ適宜ノ地ニ交番所ヲ設クヘシ尤警察署又ハ分署ヘ増員スルモノハ此限ニアラス

第五條 交番所ハ新築シ又ハ借家スルモ便宜ニ從フヘシ尤費用ハ請願者ノ負擔タルヘシ

第六條 交番所ヨリ其所轄警察署又ハ分署ヲ距ル一里以内ナレハ巡查二人一里以上ナレハ巡查三人以上配置ヲ請願スヘシ

第七條 巡查一人ニ付一ケ年費用豫算左ノ如シ

金八拾四圓 巡查月給

金貳拾七圓三拾壹錢 被服並屬具

金八圓 旅費

金五圓 恩賞雜給

第八條 交番所需費用一ケ年豫算左ノ如シ

金四圓六拾錢 備付品費

金三拾六圓

消耗品費

金貳圓

郵便運送費

金三圓貳拾錢

番所雜費

第九條 前二條ニ掲ケタル費目ハ一般ノ成例ニ依リ算出セシモノナレハ實費ト増減スルヲアルヘシ

第十條 巡查並交番所ニ屬スル費用ハ二期ニ分チ第一期(其年七月ヨリ十二月マテ)分チ六月ニ第二期(翌年一月ヨリ六月マテ)分チ十二月迄ニ前納セシメ其精算ハ次年地方稅收出精算書ト同時ニ報告スルモノトス

○丁第百十九號

明治十六年五月十八日

郡 役 所

明治十四年^{十二月}本縣甲第百八號布達巡查配置請願ニ係ル費用ハ其役所ニ於テ徵収送附スル儀ト可心得此旨相達候事

○乙第五十九號

明治十四年十一月廿九日

郡 長 役 場

檢察事務ノ儀ハ特ニ捷速ヲ要シ候ニ付テハ犯罪人原籍職業身分資力前科其他犯罪ニ關スル事件取調方之儀ニ付警察官若シハ檢事ヨリ及委囑候節ハ速ニ取調及回答候様可心得此旨相達候事

○乙第六十五號

明治十九年五月四日

戸 郡 長 役 場

今般浦和輕罪裁判所ニ於テ即決裁判手續相定候ニ付テハ犯人原籍前科調ハ最モ捷速ヲ要スル義ニ付犯人原籍前科取調規程左之通相定候條自今其筋ヨリ照會有之候節ハ迅速取調送致ノ手續ヲ爲スヘシ此旨相達候事

犯人原籍前科取調規程

第一條 犯人ノ原籍并前科取調ニ付警察署若クハ分署ヨリ照會アルキハ戸長役場ニ於テ迅速取調フヘシ

第二條 前條ノ照會ハ別紙第一號書式ニ準據スヘキ筈ニ付取調ノ事項ハ其書面ノ裏面科目欄内ヘ記入シ速ニ指定ノ裁判所檢事ヘ送致スヘシ但取調ノ稽滯ナキヲ証明アル爲メ發送ノ年月日ノ下ニ時刻ヲ記入スヘシ

第三條 巡查ニ於テ現行準現行犯人ヲ取押ヘ直ニ戸長役場ニ至リ口頭ヲ以テ前條ノ科目取調ヲ囑托スル時ハ戸長役場ニ於テハ直ニ別紙第二號ノ領諾証ヲ巡查ニ交付シ且ツ遲滯ナク第二條ノ手續ヲ履行スヘシ

第一號書式 表面ハ警察官ニ於テ記入シ裏面ハ戸長ニ於テ記入スヘキモノトス

表

何縣何國何郡何町幾番地
身分 華士族
平民職業、

何 某

第六章 第四款 雜件

三百八十五

右之者犯罪有之左記ノ條件必用ニ付至急取調欄内へ記入何裁判所檢事へ直ニ送致有之度候也

年月 日午前時

何警察署
埼玉縣警部 某 印

何村町
戸長御中

面	動	無之 或ハ 勤何等	何縣何國何郡何村幾番地 身分華士族職業、 年齡何何月何日生
	位	無之 或ハ 軍籍及ヒ 恩給 扶助料	
	官	無之 或ハ 職	
裏	前	無之 或ハ 何年何月何々何々裁判所ニ於テ 何々ノ科ニ依リ 重禁錮何月罰金幾圓監視何月	何縣何國何郡何村幾番地 身分華士族職業、 年齡何何月何日生
	科	無之 或ハ 何年何月何々何々裁判所ニ於テ 何々ノ科ニ依リ 重禁錮何月罰金幾圓監視何月	
	職	無之 或ハ 職	
面	右之通相違無之候也	年月 日午前時	郡村町 戸長 某 印

第二號書式

右ノ者原籍前科等取調之上當役場ヨリ直ニ某裁判所檢事へ送致候様囑托ノ旨領諾候也

年月 日午前時

住所身分職業

氏

名

巡查氏名殿
某町聯合戸長役場

○甲第五十九號 明治十五年四月十七日

警察署ニ於テ取締ニ關スル諸營業鑑札願受付時限ノ儀日々午前九時ヨリ退署前一時限リト相定休暇日ハ一切不受付候條此旨布達候事

○甲第九十一號 明治十六年十月四日

學術會其他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラス多衆集會スルルハ總テ所轄警察署へ可届出此旨布達候事

○甲第十三號

明治十八年三月十二日

途上ニ於テ車馬行途フキハ互ニ左方ニ避クヘシト雖モ軍隊并砲車輜重車ニ行途ヲタル時ニ

限リ右方ニ避讓スヘシ此旨布達候事

○甲第十七號

明治十八年四月十四日

新聞紙雜誌類ヲ配賣セントスルモノハ其種類ヲ詳細ニ所轄警察署又ハ分署へ届出ヘシ其種類ヲ變換シ若クハ廢業シタルモ亦同シ此旨布達候事

○甲第二十號

明治十八年四月三十日

盜難届ハ最モ迅速ヲ要スヘキノ處届書調製ノ爲メ又ハ戸長ノ奥書ヲ請ケ届出ツル等ノ爲メ往々時日ヲ遷引スル趣モ有之自然探偵逮捕ノ機ヲ失シ不都合ニ候條以來戸長ノ奥書ヲ要セズ速ニ所轄警察署又ハ分署又ハ交番所へ可届出尤モ急速ノ届書ヲ作ル能ハサル時ハ口頭ヲ以テ届出テ追テ書面ヲ差出スモ差問無之候條此旨布達候事
但シ明治十年^{十二}月^{十二}日甲第百廿四號達ハ取消ス

○甲第卅六號

明治十八年六月六日

凡ソ古墳ト相見ヘ候地ハ人民私有地タリトモ猥リニ發掘不相成若シ風雨等ノ爲メ自然石椁土器等露出シ又ハ開墾中不圖古墳ニ掘當リ候様ノ次第有之候ハ、口碑流傳ノ有無ニ不拘詳細ナル繪圖面ヲ製シ其地名并近傍ノ字等ヲモ取調可届出此旨布達候事

○甲第六十號

明治十九年五月廿四日

瘋癲人看護又ハ治療ノ爲メ鎖鋼若クハ病院ニ入院セシメントスル者ハ其事由ヲ詳記シ親屬二名以上連署ノ上醫師ノ診斷書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署へ願出認可ヲ受ケ解鎖及出院ノ時ハ其旨届出ツヘシ
右布達候事

○丁第九十號

明治十九年五月十七日

郡 役 所

警察署金圓物品送納手續別冊之通相定候ニ付テハ右手續第四條ニ據リ送付セシ沒収品不用品取扱手續キ左之通相心得ヘシ此旨相達候事

一 沒収品ハ一ヶ月分取纏メ公賣ノ手續ヲナシ明細書ニ投票ヲ添付シ伺出ヘシ

但公賣ニ付シ難キ物品ハ處分ヲ伺出ヘシ

一 前項賣却シタル代金ハ總テ歳入歳出納規則ニ依リ取扱フヘシ

一 不用物品ハ便宜公賣シ其代金ハ地方稅雜收入トシ納付スヘシ

警甲第十五號

金圓物品送納手續別冊之通相定メ來ル五月一日ヨリ實施ス

右相達候事

明治十九年四月三十日

埼玉縣令 吉田清英

金圓物品送納手續

第一條 過料金沒收品其他處分結了シテ本廳ニ送納スヘキ金員物品ハ左ノ手續ニ從ヒ送納ス可シ

第二條 左ノ金員ヲ徵收又ハ沒收セシキハ警察署ニ於テ(分署ハ所轄警察署ニ送付シ)現金ニ第一號書式ノ

納付書ヲ添付シ國庫金取扱所ヘ納付スヘシ(國庫金取扱所ナキ地ハ浦和國庫金取扱所ヘ)國庫金取扱所ニ於テハ納

付書ノ正本ヲ留メ置キ其副本ヲ交付スヘキニ依リ其副本ニ第二號書式ノ送納書及ヒ納人

ノ納証(身代限リニ依テ徵收シタル過料金ハ)若クハ事由書(此レハ官沒ノ得遺失金届書ニ成規ニ因テ沒收シタル

依テ沒收シタル旨ヲ朱書シタルモノ)若クハ賭博ノ場所証ニ規則ニ

ニ沒收金送付ノ旨ニ依リ添付スヘシ)ヲ添ヘ翌月八日マテニ會計課ニ送致ノ受領証ヲ取置ク可シ

一 違警罪科料金

一 賭博犯過料金

一 沒收金 官沒ノ得遺失金及賊捨置金

第三條 左ノ金員ハ郡役所爲換方又ハ現金取扱所ノ預切符ニ第二號書式ニ倣ヒ調製シタル

送納書及ヒ納人ノ納証ヲ添ヘ每一ヶ月分取纏メ分署ハ所轄警察署ヘ警察署ハ其署ノ分

共ニ取纏メ翌月八日迄ニ警察本署ニ送納シテ受領書ヲ取置クヘシ

一 密賣淫科料金

一 娼妓貸座敷犯則科料金

第四條 左ノ物品ハ一ヶ月毎ニ取纏メ明細書ヲ附シ分署ハ所轄警察署ヘ(郡役所アル地ハ)送附

シ警察署ハ其署ノ分ト共ニ取纏メ最寄郡役所ニ送附スヘシ

一 沒收品 賭場現在品官沒得遺失品及賊ノ棄置品類

一 不用品 石油空罐紙屑等全ク廢物ニ屬シタル者

第一號

正第	號
明治	年度
何々	金
何々	金
一金	
右納付候也	
明治 年 月 日	
年 月 日 領收	

副第	號
明治	年度
何々	金
何々	金

一金

右納付候也

明治 年 月 日

年 月 日 納濟

此用紙ハ警察本署ヨリ下附スヘシ

第二號 送納書

一金何程 内譯 科料金

金何程 内 賭博過料金

金何程 内 違警罪科料金

金何程 (以下準之) 沒收金

金何程 内 賭場現在金

金何程 得遺失金

(以下準之)

右金額 通運又ハ爲換券ヲ以テ送付 別紙納付書納証書(事由書)何業相添へ及送納候也

右金額 スルキハ其旨記入スヘシ 埼玉縣何警察署長

年月日 埼玉縣會計主務官 官氏名殿

官氏 名印

○第七章 衛生

○第一款 公衆衛生

○甲第七號

明治十六年三月十五日

病源排除規則左之通相定候條此旨布達候事

但明治十一年一月本縣甲第十號病源掃除概則ハ廢止ス

病源排除規則

- 第一條 本則ハ疾病ノ原因ヲ釀スヘキ有害物ヲ排除シ健康ヲ保タシムルヲ以テ目的トス
- 第二條 市中道路并人家密接ノ地ニ塵芥又ハ汚穢物等ヲ積ミ置キ若クハ撒布スヘカラス
- 第三條 下水ハ汚水流通ノ便ヲ謀リテ之ヲ開クヘシ廢棄物ヲシテ填塞セシムヘカラス
- 第四條 人家ニ近キ用惡水路ハ尤之ヲ清潔ニスヘシ廢棄物ヲシテ壅塞セシムヘカラス
- 第五條 不潔又ハ卑濕ノ地ニシテ病毒ノ原因ヲ釀スヘキ所ハ漸次改良ノ方法ヲ謀ルヘシ
- 第六條 路上ノ撒布水ハ下水ノ汚水若クハ不潔物ヲ洗濯シタル水ヲ用ユヘカラス
- 第七條 新ニ井ヲ堀ルトキハ厠下水ヨリ隔タリタル地ヲ撰ヒテ之ヲ設ケ井戸側ヲ用ヒテ有害物ノ滲透ヲ防クヘシ
- 第八條 従前堀リタル井戸ニシテ井戸側ナキカ若クハ朽チタルモノハ漸次改良ヲ謀ルヘシ但厠下水ニ近キモノハ成ルヘク之ヲ隔ツヘシ

十八年甲第五
十號ヲ以テ改
正同上

三百九十六

十八年甲第五
十號ヲ以テ追
加

- 第九條 飲料水ニ用フル川水若クハ涌泉等ニハ汚物ヲ投棄スヘカラス
- 第十條 前條ノ飲料水ハ務メテ汚水ノ流注ヲ防クヘシ若シ風雨等ニテ渾濁スルトキハ用フヘカラス但止ヲ得サルトキハ濾過シテ用フヘシ
- 第十一條 居室ノ内外ハ尤清潔ヲ要スルヲ以テ常ニ其洒掃ヲ怠ルヘカラス
- 第十二條 厨下若クハ井邊ノ下水ハ石或ハ板ヲ以テ構造スヘシ汚水ヲシテ停滯セシムヘカラス
- 第十三條 廁ハ丈夫ニ造リ周圍ニ滲透シ若クハ臭氣ノ發散ヲ防クヘシ
- 第十四條 肥溜芥溜ハ居室ヨリ隔タリタル地ニ設ケ日光ノ映射若クハ臭氣ノ發散ヲ防クヘシ
- 第十五條 馬車宿湯屋旅館座敷劇場寄席諸興行場及厩舎牛關等ハ特ニ之ヲ清潔ニスヘシ
- 第十六條 本則ニ記載スル所ノ事故ハ巡查及町村衛生委員ヲシテ時々監督セシムヘシ
- 第十七條 本則第二條第六條第九條第十五條ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十六條第四項ニ據リ刑ヲ科スヘシ

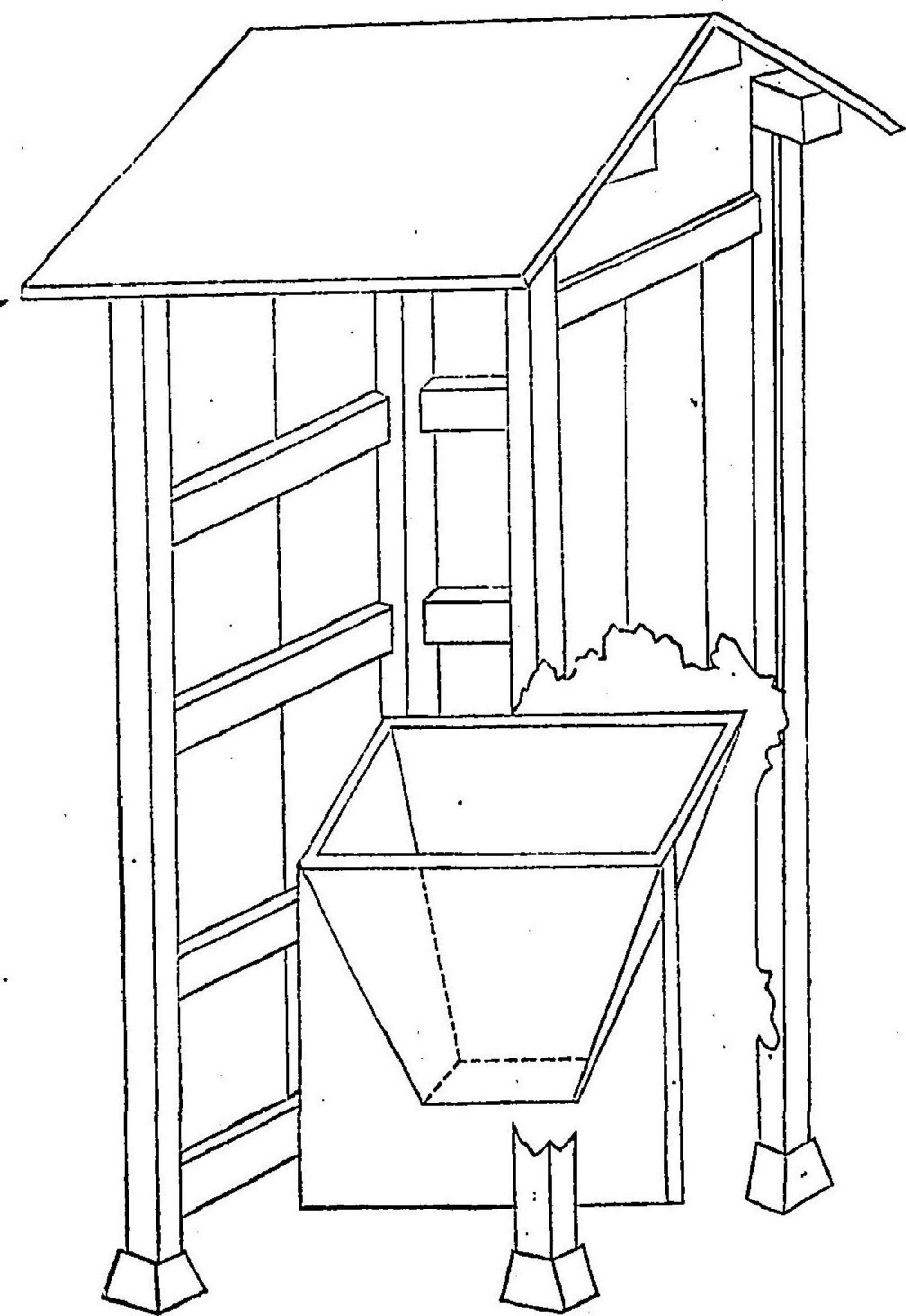
○甲第七十三號 明治十六年六月廿六日
市街廁圍構造規則左之通相定候條此旨布達候事

但明治九年十月本縣甲第八十五號布達ハ廢止ス

市街廁圍構造規則

- 第一條 市街ニ於テハ公衆ノ便ニ供スル爲メ廁圍ヲ設置スヘシ
- 第二條 廁圍ヲ設置セントスルトキハ其場所及構造方ヲ詳記シタル圖面相添戸長衛生委員連署ヲ以テ所轉警察署又ハ分署ヘ届出テ認可ヲ受クヘシ
- 第三條 從來設置セルモノト雖改良ヲ要スヘキモノハ前條ノ手續ニ從フヘシ
- 第四條 廁圍設置ノ場所ハ井泉ヲ距ルコト少クモ三間以上ニシテ適宜ノ地ヲ擇ムヘシ
- 第五條 廁圍ノ構造ハ左ノ方法ニ從フヘシ
 - 第一 糞尿池ハ陶器ヲ用ヒ又ハ添喰ヲ以テ構造スヘシ若シ他ノ器物ヲ用フルトキハ堅牢ナル物質ヲ撰ミ糞尿ノ滲透セサル様構造スヘシ
 - 第二 糞尿池ノ周圍ハ遍シ添喰土又ハ粘土ニテ填塞シ汚液ノ滲透ヲ防クヘシ
 - 第三 廁圍ノ建築周圍ノ裝置ハ大概別紙圖面ニ倣フヘシ
 - 第六條 廁圍ハ糞尿ヲ數々汲取り又其周圍ハ不潔ナラサル様時々之ヲ掃除スヘシ
 - 第七條 廁圍ニ關スル費用ハ都テ其町村ノ協議費ヲ以テ支辦スヘシ
 - 第八條 肥料ヲ得ルノ目的ヲ以テ廁圍ヲ設置セントスルモノハ此規則ニ從ヒ戸長衛生委員ノ奥書ヲ以テ第二條ニ依リ届出テ認可ヲ受クヘシ但其費用ハ都テ本人ノ負擔タルヘシ
 - 第九條 廁圍ハ巡查ヲシテ時々視察セシメ若シ掃除其他ヲ怠ル者アルトキハ之ヲ督促セシムヘシ

○甲第四十九號 明治十八年七月十一日
 獸畜死屍處分規則左ノ通相定候條此旨布達候事

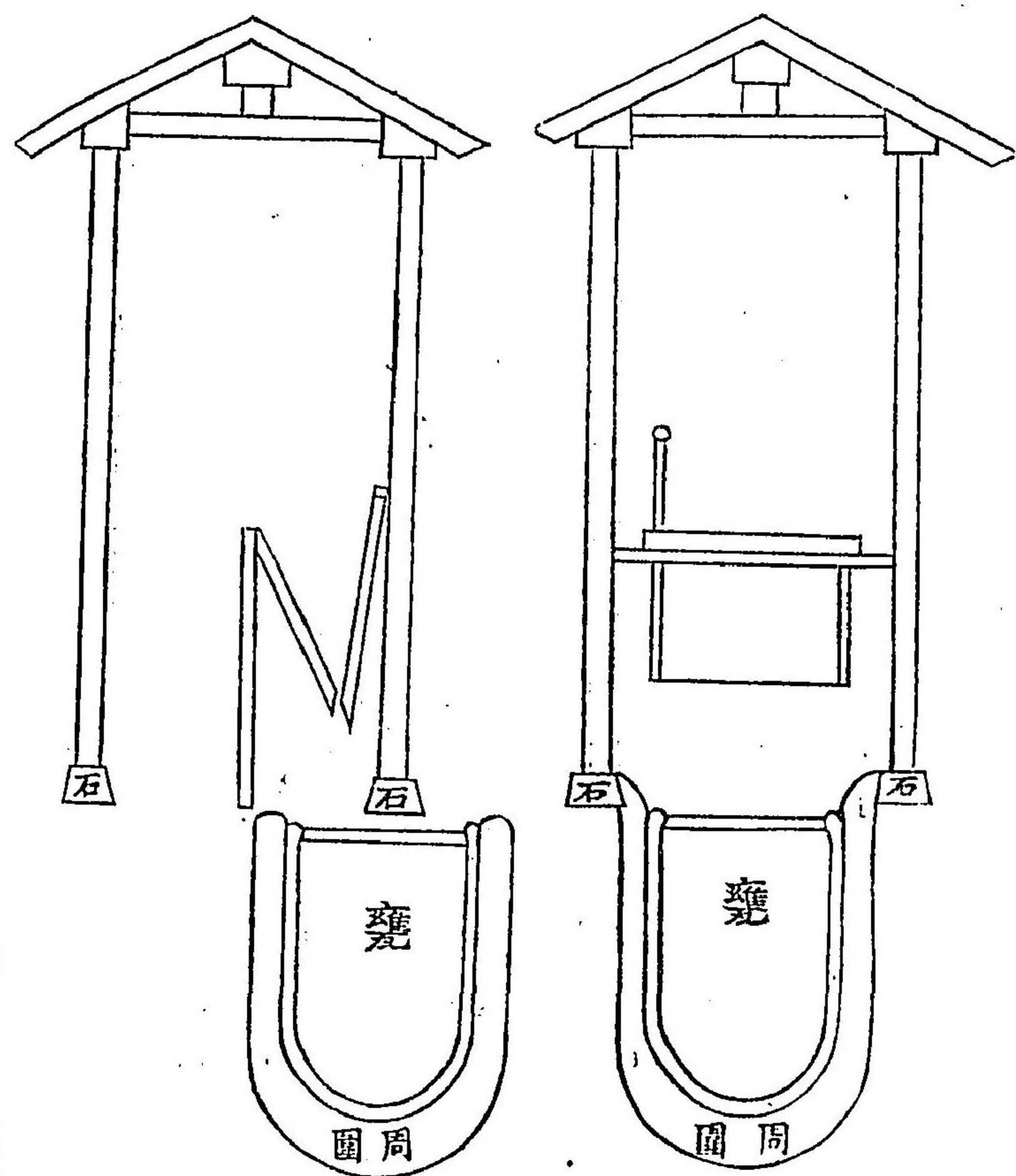


第七章 第一款 公衆衛生

三百九十九

面側所便小

面側所便大



三百九十八

獸畜死屍處分規則

- 第一條 獸畜ノ死屍ハ斃馬捨場ニ於テ燒捨若クハ埋沒スヘシ
- 第二條 斃馬捨場ナキトキハ一町村若クハ數町村聯合シテ之ヲ設置スヘシ
- 第三條 斃馬捨場ヲ設置スルトキハ其地名字番號畝歩及ヒ道路鐵道川筋人家等ノ距離ヲ記シタル圖面ヲ添ヘ郡役所ヲ經テ縣廳ニ願出ヘシ
- 第四條 斃馬捨場ハ道路(往來繁キトコロ)鐵道川筋及ヒ人家ヲ隔ツル概テ六拾間以上ノ地ヲ撰ムヘシ
- 第五條 斃馬捨場ハ少クモ一ケ年六回掃除スヘシ
- 第六條 獸畜ヲ埋沒スルハ牛馬羊豚ノ如キ形体大ナルモノハ六尺以上鶏犬猫兔ノ如キ小ナルモノハ三尺以上ノ地下タルヘシ
- 第七條 傳染病ニ罹リタル死屍及ヒ前條定尺ニ到リ難キ土地ニ於テハ之ヲ燒棄スヘシ
- 第八條 傳染病ニ罹リタル死屍ト雖モ土地ノ便宜ニ依リテハ之ヲ埋沒スルヲ得此場合ニ於テハ第六條ノ定尺ノ二倍以上タルヘシ
- 第九條 獸畜ノ死屍ハ其飼主ニ於テ處分スルモノトス若シ其飼主ナキカ又ハ傳染病ニ罹リタルモノナルトキハ戶長若クハ衛生委員ニ届出ヘシ
- 第十條 獸畜ノ死屍ヲ肥料トナシ若クハ獸皮ヲ製造スルトキハ衛生上ノ有害ヲ豫防スヘシ
- 第十一條 此規則ニ違背シタル者ハ刑法第四百廿六條第四項ニ據リ刑ヲ科スヘシ

附則

一從來ノ斃馬捨場ハ本則第三條ニ照準シ來ル明治十九年三月三十一日マテニ届出ヘシ
 一從來ノ斃馬捨場ト雖モ本則第四條ニ適セサルモノハ之ヲ改置スヘシ

○乙第六十四號 明治十二年八月十八日

戶 郡 長 役 場 所

夫婦虎列刺病ニ罹リ送院ノ節乳兒等有之モノハ其家族及ヒ親戚ノ者ニ於テ引受候ハ勿論ノ事ニ候得共萬一他ニ可引受者無之向ハ乳母或ハ養育婦等ヲ見立養育方取計ハセ費途ノ儀ハ一時操替置貧困ノ者ニ限り追償致サ、ル儀ト可相心得此旨相達候事

○乙第二十八號 明治十八年二月十三日

戶 郡 長 役 場 所

傳染病豫防消毒法之儀ハ追々相達置候處明治十五年四月更ニ豫防心得書論達候ニ付テハ從前ノ豫防法ハ總テ消滅ニ属シ候條右心得書ニ據リ調製シタル消毒藥ハ十三年五月第二十三號布告ニ準據シ販賣セシムヘキ儀ト可心得此旨相達候事

○乙第五百十號 明治十八年十二月十七日

戶 郡 長 役 場 所

虎列刺病豫防ノ爲メ便所下水及惡水ノ滯滯等ハ此際充分浚渫疏通シ一層清潔ナラシムヘキ旨今般諭達候ニ付テハ臨時掛リ官員ヲ派出シ實際視察爲致候儀モ有之候ニ付各町村ニ於テ

怠慢ナク施行候様嚴重取計フヘシ此旨相達候事

○丙第二十九號

明治十九年五月廿九日

郡 役 所

虎列刺病豫防消毒心得書別冊ノ通相示シ候條明治十五年四月廿五日付諭達傳染病豫防心得書ト參互シテ其機變ニ應シ處置スヘシ此旨相達候事

虎列刺病豫防消毒心得書

傳染病ヲ撲滅若クハ豫防スルニハ頗ル機會時期ヲ失ハサルヲ必要トシ其機會時期ナルモノハ發生ノ當初ニ在ルハ方今一般ノ定論ナリ先年來我邦ニ於ケル虎列刺病ノ流行猖獗ヲ極メタル事實ニ就テ觀察スルモ其初發即チ僅々二三ノ患者ニ過キサルノ時ニ於テ活潑ノ手段ヲ以テ迅速之カ撲滅ニ着手シ且其消毒法ノ綿密周到セルモノハ常ニ良結果ヲ呈シ流行猖獗ニ至ラス又未タ該病發生ヲ見サル所ニ在テハ清潔其他ノ豫防法ヲ施行シ遂ニ其傳染ヲ免レシハ其類例乏シカラスト然レトモ其初發ニ於テ消毒ヲ忽諸シ豫防ヲ等閑ニシ即チ機會ヲ誤リ時期ヲ失スルトキハ忽チ毒焰四方ニ散蔓シ其勢猛烈容易ニ挫折セサルニ至ル昨年八月該病初メテ長崎ニ輸入セルヤ病勢頗ル猛劇ナルニモ拘ハラス幸ニ其慘毒ヲ逞フセシハ長崎一縣ニ止リ終ニ撲滅ニ皈セリ然ルニ本年ニ至リ餘孽再ヒ萌動シ其病勢ノ猛劇ナル恰モ前年ニ讓ラサルノ兆ヲ呈セリ時候日ニ温暑ニ向フニ際シ其宿留スル毒苗ハ何ノ地ニ發芽センモ測リ知ル可ラス若シ一二特發患者ヲ見ルニ當リ假令有病地ヲ距ツル

數百里ノ地方ナルモ厚ク之レカ注意ヲ加ヘ嚴重防遏ノ處置ナカル可ラス左ニ昨年來經驗セル豫防消毒法ノ要領ヲ列記シ其方法順序ヲ示ス

第一章 撲滅法

第一條 虎列刺病者發シタルトキ其消毒撲滅法ヲ實施スルハ府縣廳アルノ市街ニ於テハ巡查等主トシテ擔當スルモノナレトモ之ヲ監督スルハ必ス經驗ニ富ミタル警部若クハ衛生課員ニ於テ擔任シ又郡廳アルノ地ナレハ警部若クハ郡書記之ヲ監督セサル可ラス其實務者ノミニニ放任シテ其監督ヲ怠ル時ハ爲ス所ノ方法其肯綮ニ中ラス力ヲ勞スル多クシテ効ヲ奏スル少クシテ財ヲ費ス夥クシテ續チ收ムルヲ寡ナシ况ヤ豫防消毒ノ不充分ナルトキハ其害一所ニ止マラス忽チ病毒ヲ四方ニ散亂シ其危害ノ及フ所浩大ナルニ於テテオヤ發病者アルトキハ直ニ成規ノ豫防消毒法ヲ實施シ置キ傍ラ其患者ハ傳染性ナルヤ特發性ナルヤヲ明ムル爲メ左ノ事項ヲ問フヲ要ス

- 一 發生ノ時日
- 二 發病前當人及家内ノ者他ノ該病アル所ヘ行キシコトアリヤ
- 三 該病アル所ヨリ物品ノ來リシモノナキヤ
- 四 近頃該病アル地ヨリ客來若クハ職人婢僕ノ傭入ヲ爲セシコトナキヤ
- 五 曾テ其家ニ該病アリシコトナキヤ
- 六 曾テ近隣ニ該病アリシヤ又ハ現在該病アリヤ

以上ヲ質問シ該病ニ傳染シタルヤ否ヲ判明スヘシ但シ若シ傳染ノ系統正シク知レサルモ決シテ豫防消毒ニ怠ル可ラス當時傳染ノ證述詳ナラサルモ後日ニ至リテ之ヲ發見スルコトアリ又終ニ傳染ノ述詳ナラサルモ之ヨリ他ニ傳染スルコトアルハ往々見ル所ナレハナリ

第二條 傳染性ナルコト判然タルカ若クハ傳染性ナルノ疑アル時ニ於テハ特ニ活潑ノ處置ヲ施シ嚴ニ他トノ交通ヲ絶テ患者ハ直ニ隔離シ充分ノ消毒法ヲ行ヒ一家限リニ之ヲ撲滅スルヲ要ス此場合ニ於テハ醫員ヲシテ近隣ヲ巡診セシメ飲食ヲ戒慎シ攝生法ヲ諭示スル等諸般ノ注意ヲ爲シ又下利患者アレハ速ニ其手當ヲ施スヘシ

第三條 前條ヨリ退々各所ニ傳播ノ兆アルトキハ第二條ノ方法ヲ充分施行スルハ勿論且一局部限リ遮斷シ得ヘキ場所ハ之カ遮斷ノ手續ヲ爲シ又檢疫委員ヲ設ケテ必要ノ場所ヘ派出シ豫防上ニ於テ各所互ニ脈絡ヲ通セシメ傳播ノ媒介ヲ爲スヘキ貧民ニハ嚴ニ取締ヲ爲シテ病毒ノ散蔓ヲ防キ一般下利患者ニ注意シ消毒ハ必ス委員ニ於テ監督シ消毒後ノ糞池ニ蛆虫生存スルカ如キ粗漏ナカラシメ未タ病毒ノ旺盛ナラサルニ先チ迅速撲滅スルヲ力ムヘシ

此場合ニ於テハ祭禮等人民群集飲食スル事項ニ注意シ又醫師ヲシテ吐瀉ノ患者ヲ届出サシムルヲ要ス

第四條 隣府縣及交通アル府縣ニ虎列刺病アリテ自府縣ニ患者及死者ヲ輸入シタルトキ又ハ歸府縣後發病シタルトキニ於テハ第二條第三條ノ方法ニ依リ充分撲滅ヲ力ムヘシ

第五條 鄰府縣及交通アル府縣ニ該病流行スルノ通知ニ接スルトキハ直ニ其船舶ノ交通アル要港ヘ主務吏員ヲ派出シ傳染病豫防規則第十三條ニ據リ充分注意セシメ若シ患者アルヲ探知シタルトキハ第二條第三條ニ依リ速ニ處置スヘシ又下宿旅人宿、殊ニ木賃宿、安泊等ニハ日々主務吏員ヲ派遣シ行旅人ノ該病毒ヲ齎シ來ルモノナキヤ否ニ注意セシメ又檢疫ニ便ナル爲ニ該病流行地ヨリ來リ宿スルモノアルトキハ之ヲ届出サシムコトヲ要ス

第六條 自府縣ニ於テ該病流行ノ時ハ速ニ鄰府縣及船舶ノ交通アル府縣ヘ電報シ豫防ニ便利ヲ與フヘシ

第七條 學校、旅宿、下宿屋、製造所、人足部屋、貧院、囚獄等ノ如キ多人數群居スル家ニ該病發生シタルトキハ先ツ同室者ノ外出散亂ヲ禁シ直ニ患者ヲ隔離シ其家ニハ消毒ヲ充分施行シ其同室者ハ一々入浴セシメ同室者ノ衣類夜具ノ汚染シタルモノハ相當ノ消毒ヲ爲シ衣類夜具等ノ汚染セサルモノモ悉ク日光ニ暴露シ殊ニ飲食物ニ注意シ且患者ヲ隔離シタル日ヨリ起算シ五日間同所ニ滞留セシメ他ト交通ヲ絶テ其中ヨリ患者ヲ生セサルヤ否ヲ試ムヘシ若シ其場所狹隘ナルカ又ハ都合ニ依リテハ他ノ一家ヲ以テ之ニ充テ其家ニ分居セシムルカ若クハ悉ク其家ニ移シ居ラシムルモ妨ナシ

又同縣内ニ該病流行スルモ未タ前項ノ如キ群居ノ場所ニ侵入セサルトキハ其健康ヲ保ツヘキ攝生法ヲ諭示スルハ勿論飲食物ニ注意セシメ醫員ヲ派出シテ該病ノ有無ヲ糺シ若シ該病ノ疑アルモノアルトキハ速ニ之カ豫防ノ處置ヲナスヘシ

第八條 日本形諸船舶汽船風帆船ニ係ル處漁舟及漁車中ニ該病者アリタルトキハ其吐瀉物ヲ何ノ所ニ棄タルカヲ糾シ若シ河中ニ投棄シタル時ニハ其處置ヲ爲シ患者ハ可成陸上ニ隔離シ其同船者ハ消毒ノ上時宜ニ由リテハ該船中ニテ交通ヲ絶タシメ又自宅ニ歸リタル者ハ該家ニ於テ交通ヲ絶タシメ病者ノ有無ニ注意スヘシ

漁車中ニ該病者アリタルトキハ患者ハ直ニ隔離シ一時同車シタル者ヲ止メ置キ相當ノ消毒ヲ爲シ宿所氏名並其行先ヲ記載シ置クヘシ

河川ニ沿フタル市街ニ於テ該病流行スルトキ又ハ其市街ニハ該病流行セサルモ該病者死者アル船舶入津スルトキハ總テ船舶ヲ下流ニ碇泊セシムルヲ要ス

第九條 排泄物ヲ河中芥溜等ニ投棄シタルヲ認知シタルトキハ河中ナレハ其下流ニ於テ五日以上其河水ヲ飲料洗濯用トスルヲ止メ芥溜等ナレハ其塵芥ヲ燒棄若クハ消毒ノ上一定ノ場所ニ埋却スヘシ

第十條 惣雪隠、大糞池等ノ糞便ノ量多キ所ニ虎列刺病者上リタルトキハ粗製硫酸ヲ注キテ攪亂シ之ヲ汲取リ尙其跡及ヒ近傍ニハ強石炭酸水ヲ注キテ之ヲ洗ヒ其洗水ハ之ヲ汲取リテ海邊ナレハ退潮時ニ臨ミ陸地ヲ距ル一里餘ノ沖合ニ投棄シ海ニ遠キ土地ナレハ一定ノ場所ニ埋却スヘシ一般ノ消毒ハ消毒ノ場所ニ埋却スヘシノ部ヲ參照スヘシ

惣雪隠等ニ病者上聞スレハ消毒スルニ困難ナルカ故ニ虎列刺病流行ノ場合ニ於テハ可成惣雪隠ニ上ラサル様各家相當ノ方法ヲ設ケシムルヲ要ス

第十一條 患者アリタル家屋ハ消毒後疊ヲ上ケ所々ヲ開放シ充分日光空氣ヲ射通セシメ其後一般ニ拭淨スルヲ要ス且患者アリシ家ト日々直接交通アル近傍ノ下水ニ至ル迄消毒法ヲ施シ芥溜ヲ取除クヲ要ス

第二章 檢疫委員

第十二條 檢疫委員ハ第三條傳染性ノ該病傳播ノ兆アル場合ハ勿論第五條隣府縣及交通アル府縣ニ該病流行シ傳播ノ恐アル場合ニ於テ之ヲ設クヘシ

第十三條 檢疫委員ヲ設置シタルトキ之ヲシテ取扱ハシムヘキ重ナル事項

第一項 第三條ノ場合ニ於テハ

- 一 病原ヲ探知シ傳染性ナルヤ否ヲ判別スルコト
- 一 傳染性ナルコト判然タルトキハ第三條第四條ニ依リ充分ノ處置ヲ爲スコト
- 一 消毒藥欠乏セサル様其供給ニ注意スルコト
- 一 消毒藥ノ種類、分量、配合ニ注意スルコト
- 一 消毒法ヲ實地ニ就キ監督スルコト
- 一 必用ノ場合ニ於テ毎患家ニ就キテ交通遮斷ノ取締ハ勿論一局部限リ遮斷シ得ヘキヤ否ノ鑑別及其實施ニ就キ取締リ監督スルコト
- 一 遮斷地救助ヲ監督スルコト
- 一 醫員巡診法ヲ經畫スルコト

- 一 患者ヲ隔離シ又ハ同室者ヲ患者ヨリ隔離スルコト
- 一 攝生法、飲料水、飲食物及清潔法ノ豫防上要用ナル件ヲ諭示スルコト
- 一 特ニ學校、旅宿、下宿屋、製造所、人足部屋、貧院、囚獄等ニ注意シ此等ノ場所ニ患者アレハ迅速撲滅法ヲ施行スルコト

第二項 第五條ノ場合ニ於テハ

- 一 隣府縣及交通アル府縣ニ該病流行シ其病毒輸傳シ來ルノ恐アルトキ之カ豫防ヲ爲ス
- 一 消毒藥及材料ヲ準備スルコト
- 一 攝生法、飲料水、飲食物及清潔法ノ豫防上要用ナル件ヲ諭示スルコト
- 一 病毒ヲ齎シ來ルモノアレハ第一項ヲ併セ行フコト

第十四條 檢疫委員及ヒ其他豫防ニ從事スル掛吏員ハ可成消毒衣ヲ作り常ニ之ヲ着用シテ患者ニ接シタル毎ニ之ヲ脱シ充分消毒法ヲ行フヘシ

第三章 避病院

第十五條 避病院ハ病者ヲ治療スルト病毒ヲ他ニ散亂セシメス一所ニ隔離シテ豫防スルトノ二ツノ目的ヲ達スルカ爲ニ設クルモノナリ然ルニ動モスレハ避病院ヲ嫌忌スルノ惑ヲ惹クモノ間々之アルカ故ニ病者取扱方ニハ殊ニ親切ナルヲ要ス其看護者ニ於テハ最モ懇篤ヲ盡サ、ル可ラス而シテ患者ニ面會ヲ申出ルモノアレハ叮嚀ニ取扱ヒ消毒ノ上踏ヲシムヘシ

人口稠密ノ市街ニ於テハ何時ニテモ開院シ得ヘキ避病院ヲ準備シ置クヲ要ス而シテ第二條第三條ノ場合即チ傳染性ノ該病發生スルニ際シテハ直ニ之ヲ開院スヘシ且村落ニ於テモ第二條第三條ノ如キ場合ニハ新ニ避病院ヲ設ケ又ハ相當ノ家屋ヲ避病院トシ患者ヲ隔離スヘシ其距離ハ道路ノ便ヲ計リ餘リ村落ニ遠サカラサルヲ可トス

第十六條 第二條第三條傳染性ノ患者ハ殊ニ避病院ニ送ルヲ可トス且此種ノ患者ナラサルモ近隣貧民多キカ又ハ其家ハ廣キモ多人數群居スルカ又ハ狹クシテ自宅治療ヲ許スハ危険ナリト認ムルトキハ可成入院セシムルヲ要ス

第十七條 人口稠密ナル市内ノ避病院掛員ハ當直醫、調藥生、世話掛、各一員以上ヲ置キ且看護者、小使、排泄物取扱人ヲ分科シテ置カサルヘカラス又賄人ハ一切病室ニ立入ラシムヘカラス村落ニ於テハ之ニ準シ簡易ニスルモ妨ナシ

第四章 遮斷法實施

第十八條 虎列刺病毒ハ患者僅少ナル時期ニ於テ撲滅セズ一旦散蔓セシムルトキハ之ヲ遏ムルコト頗ル難シ故ニ其目的トスル所ハ之ヲ一人ニ於テ撲滅シ若シ一人ニ於テ撲滅シ能ハサル時ハ一家ニ於テ撲滅シ一家尙能ハサル時ハ一村一部落ニテ撲滅ス可シ其撲滅ヲ謀ルニハ第一交通ヲ禁シ病毒ヲ一所ニ遮斷シテ其場所ヨリ之ヲ他ニ流傳セシメサルヲ要ス交通遮斷ハ第二條傳染性ノ該病發生シタル場合ニ於テ一家ヲ遮斷シ第三條傳染性ノ該病追々他ニ傳播シタルノ場合ニ於テ必要ノ一局部ヲ遮斷ス

第十九條 市街ニ於テ遮斷ヲ實施シタルトキハ巡查等ヲ以テ充分交通ノ取締ヲ爲シ日用品ノ類ハ相當ノ取扱人ヲ設ケテ其用ヲ便セシメ其内部ニ在ツテハ時々入浴ヲ促シテ身体ヲ清潔ナラシメ衣類、夜具、室内ハ常ニ日光空氣ニ曝サシメ日々醫員ヲシテ患者ノ有無ニ注意セシムヘシ村落ニ在テハ右ニ準シ適宜ノ取締法ヲ設クルヲ要ス

第二十條 終リニ患者ヲ出シタル日ヨリ起算シ少クモ五日以上ヲ經過シテ異常ナキトキハ遮斷ヲ解クヘシ但尙疑シキ場合ニ於テハ更ニ持久スルヲアルヘシ

第五章 消毒藥ノ種類并用法行ヒ易キモノ

第廿一條 消毒法ハ消毒藥ノ種類、分量、配伍等其當ヲ得サルキハ有力ノ消毒モ其効ヲ見サルノミナラス消毒濟ノ安心ヨリシテ其後ノ注意ヲ缺キ却テ蕃殖ヲ逞フセシムルノ憂ナシトセス故ニ主務吏員ニ於テハ其藥力ノ病毒ヲ殲滅シ得ヘキ適當ノ種類分量ニ從ヒ決シテ石炭酸ノ臭氣硫酸ノ沸騰等其現像ヲ皮相シテ消毒ノ濟否ヲ斷定スルノ不注意ナキヲ要ス患者、死者、看護人及同室シタルモノニ一般消毒ノ注意及消毒法ノ種類

- 一 患者衣類、夜具、蚊帳等排泄物ニ汚染シタルモノ及汚染ノ疑アルモノ
- 一看護人及同室者ノ衣類、夜具、蚊帳等排泄物ニ汚染シタルモノ及汚染ノ疑アルモノ
- 以上ノ物品ハ可成燒却シ然ラサレハ蒸氣ニテ一時之間之ヲ蒸騰スルカ又ハ煮沸スルカ又ハ熱湯ニ浸シ一時之間以上密蓋スルカ若クハ二十四時間強石炭酸水ニ浸スヘシ
- 一 患者ノ同室ニアリタル衣類、夜具、及同室者、看護者ノ衣類、夜具等ノ排泄物ニ汚染セサル

モノハ日光ニ曝露シ且看護者、同室者ハ入浴シテ其身体ヲ清潔ナラシムヘシ

第廿二條 排泄物ノ受器及消毒

一 排泄物ノ受器ハ磁器ヲ第一トシアリキ箱ニ而シテ其内ニ木炭又ハ灰ヲ入レ置キ吸收セシムルヲ可トス

- 一 其消毒ハ強石炭酸水石炭酸五分強鹽化石灰水十分充分澆注シ然ル後燒却スヘシ
- 一 床上ニ吐瀉シタルトキハ之ヲ拭取リ而シ其跡ハ強石炭酸水又ハ強鹽化石灰水ヲ充分注キ若クハ拭淨シ又ハ差支ナキモノハ可成燒却スヘシ其土間ニ於テスルモノハ吐瀉物ノ浸入セル部分ヲ掘取リ之ヲ燒却若クハ埋却シ其跡ニハ前同様ノ消毒藥ヲ澆クヘシ
- 一 鼻水第一格魯兒水銀一分ヲ水二分ニ溶解スルモノハ排泄物ノ全量ニ凡ソ其四分ノ一ヲ澆キ棒ニテ能ク攪和スレハ病毒ヲ撲滅スルノ偉効アレハ猛毒ニシテ且無色無臭ノモノナルヲ以テ使用者ノ如何ニ由リ大害ヲ醸スヲアリ此故ニ使用者其人ヲ得テ排泄物ノ消毒ニ用ユレハ殊ニ其効アリトス但飲料水ニ滲透スヘキ場所ニハ決シテ撒布スヘカラス

第廿三條 家屋消毒ノ注意及消毒法

一 疊戸棚等一室内ニアルモノ

- 一 患者ノ入りタル廁房及病床ヨリ廁圍へ通行ノ路
- 一 同室ノ床板周圍ノ柱及建具ノ類

以上消毒ハ六時間以上亞硫酸酸參觀スヘシニテ蒸蒸シ又ハ弱石炭酸水石炭酸二分水百分若クハ弱鹽化

石灰水分本百分ニテ拭淨シ又ハ之レヲ能ク撒布シ日光大氣ニ曝露スヘシ但疊ハ排泄物ノ染ミ易キモノニシテ常ニ手ヲ觸レ或ハ食物等ノ落ツルコトモアレハ可成燒却スルヲ可トス

第廿四條 患者ト同室内ニアリタル諸器具及患者日用品ノ消毒注意及消毒法

一同室内ニアリタル諸器具
一患者ノ日々用ヰタル飲食器及其他ノ器具

以上消毒ハ熱湯ニ堪ユヘキモノハ熱湯ニテ消毒シ貴重ノ品ハ石炭酸水ヲ以テ拭淨シ大氣ニ曝露スル等相當ノ消毒ヲ爲スヘシ燒却シ得ヘキ品ハ可成燒却スルヲ可トス

第廿五條 該病毒ハ便所、下水、芥溜等不潔ノ場所ニ於テハ其發育殊ニ速カナルモノナレハ是等ノ所ヲ病毒ノ巢窟ト見做シ左ニ掲クル個所ハ一層精密ニ消毒シテ更ニ遺漏ナキヲ要ス

- 一糞池及ヒ糞池ノ周邊
 - 一下水殊ニ不潔壅塞シタル下水又ハ排泄物ヲ流シタル疑アル下水
 - 一芥溜殊ニ臭氣甚シキ不潔ノ芥溜又ハ排泄物ヲ捨テタル疑アル芥溜
 - 一不潔ノ土間及線先殊ニ吐瀉シタル疑アル土間
- 以上ノ消毒ハ粗製硫酸同量ノ水ニ和シ大量ニ入ルヲ可トス但取扱上危險ノ場合アレハ殊ニ注意スヘシ強石炭酸水、強鹽化石灰水ヲ灌注シテ攪亂シ若クハ撒布シ或ハ燒却若クハ埋却スヘシ

第廿六條 排泄物運搬器並ニ其人夫ノ消毒注意及消毒法

- 一排泄物運搬ノ車若クハ箱或ハ之ニ附屬スルモノ
- 一人夫ノ衣類草鞋ノ類
- 一人夫ノ身躰

以上ノ消毒ハ排泄物運搬器及其附屬物ニハ強石炭酸水、強鹽化石灰水又灌注洗淨シ人夫ノ衣類ハ之ヲ貸與シ其衣類ハ熱湯若クハ弱石炭酸水ニ浸シ人夫ハ其身躰ヲ弱石炭酸水ニテ拭淨シテ衣ヲ換ヘシムルヲ可トス且燒却シ得ヘキ草鞋ノ類ハ燒却セシムヘシ

前數章ノ外特ニ開港場ノ主務者ニ必要ノ個條

第一條 常ニ外國新聞若クハ外國ヨリ入港ノ船舶ニ依リテ直接交通アル外國港ニ該病流行ノ有無ヲ偵知スルヲ要ス而シテ該病流行ヲ偵知シ得タルトキハ直ニ內務省ヘ申報シ入港ノ船舶ニ注意シ内地ヘ病毒ヲ輸入セサルニ盡力スヘシ且何時ニテモ檢疫ヲ執行シ得ヘキ準備ヲ爲シ置クヘシ

第二條 未タ海港檢疫ノ告示ナキニ先チ自縣ヘ入港シタル外國船內國船ハ無論尋問シテ其有無ニテ知リ規則ニ據リ之ヲ處置ス該病アルヲ明カナルトキ若クハ該病アル疑アルノ場合ニ於テハ船長若クハ領事ト協議シ其承諾ヲ經テ相當ノ手續ヲ爲スヘシ尤外務內務兩省ヘ電報スヘシ且一般ノ豫防ニ付テハ其船舶ニ交通スル者ニ注意シ之カ取締ヲ爲シ又ハ上陸ノ者ニ注意シテ其交通セル人家ヲ取調置キ患者ノ有無ヲ偵知スヘシ

第三條 該病アルコト明ナル船舶若クハ該病アルノ疑アル船舶他縣へ向ケ進航セルトキハ其進航先キヲ取調其縣へ事情ヲ悉シテ電報シ以テ豫防ノ便ヲ與フヘシ

○丁第百四號

明治十九年六月四日

郡 役 所

虎列刺病豫防ノ義左ノ條項ニ依リ其實際ノ緩急ニ應シ便宜施行スヘシ此旨相達候事
但施行ノ都度其旨届出ツヘシ

虎列刺病豫防方法

一 虎列刺病豫防掛ノ事

本病發生スルトキハ戸長役場筆生中一名乃至二名ノ豫防掛ヲ命スヘシ若シ蔓延ノ兆候アルトキハ臨時雇ヲ以テ之ヲ増加スルモノトス
但豫防掛ハ戸長之ヲ命シ其姓名ヲ郡長ニ申報スヘシ

二 看護夫並ニ排洩物運搬夫及小使ノ事

看護夫並ニ運搬夫小使等ヲ要スル場合ニ於テハ豫防掛ニ於テ之ヲ雇入ルヘシ
看護夫並ニ排洩物運搬夫日當ハ一日金二十錢ヨリ五十錢迄トス小使日當ハ一日金二十錢ヨリ三十錢迄トス

三 避病院ノ事

避病院ヲ開設スルトキハ傳染病豫防心得書第三十一條以下各項及虎列刺病豫防消

毒心得書第十五條第二項ニ依ルヘシト雖先ツ人家稠密ノ市街ニ於テハ何時ニテモ開院シ得ヘキ避病院ヲ準備シ置クヘシ且人家鬆疎ナル村落ニ於テモ成ルヘク其備ヘアルヲ要ス
但避病院ヲ開設スルキハ其地ノ形勢及建家ノ圖面ヲ副へ縣廳ニ願出ツヘシ

四

火葬埋葬場及排洩物燒棄埋却所等豫テ之ヲ定メ置クヘシ
豫防線ノ事

本病流行ノ勢猛烈ニシテ市街村落ノ全部若クハ一部分ニ於テ蔓延ノ兆候ヲ顯ハシ其他ノ部分ニ及ホサル様人馬ノ交通ヲ遮斷スルトキハ傳染病豫防規則第十五條ニ依ルヘシ然レトモ其地ノ形勢ニ依リ一方ノ道路ヲ塞クト雖他ノ一方ニ之ニ換フヘキ道路アリテ全ク交通遮斷スルニ至ラサルトキハ便宜ニ之ヲ處置スヘシ

六 豫防費目大畧左ノ如シ

- 一 治療醫雇給及旅費
- 一 避病院諸費
- 一 檢疫所諸費
- 一 管内公衆ノ豫防ニ供スル消毒藥費
- 一 貧民施與ニ係ル藥餌及埋火葬費
- 右檢疫所諸費及治療醫雇給旅費並管内公衆ノ豫防ニ供スル消毒藥費ヲ除クノ外ハ成ルヘク町村費及寄附金ヲ以テ支辨セシメ其負擔ニ堪ヘサル所ハ地方稅ヨリ支出スルノ精神ヲ以テ之ヲ取扱フモノトス
- 但戸長役場ニ備ヘ置ク消毒藥費ハ町村費ナルヘシ

- 七 鐵道沿路ヲ所轄スル郡役所ニ於テハ各停車場接近ノ地ニ檢疫出張所消毒所及避病院ニ充ツヘキ家屋ヲ準備シ置クヘシ
- 八 本病患者ニハ十五年八月本縣丁第百三十號達ニ據リ處方録ヲ付與スヘシ
- 九 郡長ハ各戸長ニ示達シテ消毒藥ヲ備ヘ置カシムヘシ
- 十 傳染病豫防ノ爲メ戸長ハ毎月數回特ニ其部内ヲ巡回シ戸毎ニ就キ左ノ各項ヲ説諭シ處分セシムルモノトス
 - 一 塵芥糞桶等ヲ積置カシメサル事
但止ヲ得サルトキハ人家及道路河川等ニ隔リタル地ニ之ヲ積置カシメ日光ヲ防クニ足ルヘキ覆蓋ヲナサシムヘシ
 - 二 牛馬繫留場ヲ清潔ニ掃除セシムル事
 - 三 下水其他ノ汚水ヲ疏通セシメ且糞便ヲ堆積セシメサル事
但糞桶ニハ蓋ヲナシ日出前日没後之ヲ掘取ルヘシ
 - 四 溷濁シタル飲料水ハ濾過シテ供用セシムル事
 - 五 不熟ノ菓物及腐敗ニ傾ケル肉類ヲ販賣セシメサル事
 - 六 魚屋青物屋湯屋豆腐屋染物屋旅人宿劇場人寄席及學校等ノ近傍ハ特ニ清潔ナラシムル事

七 貧民多キ場所ハ右各項ニ一層注意ヲ要スル事

○丁第百三十號 明治十五年八月四日

郡 役 所

郡備醫並町村開業醫ニ於テ虎列刺患者治療候節ハ該患者ヘ左ノ表式ニ準シ處方録付與候様達方可取計此旨相達候事

處方録用紙式

病 名	姓 名	年 齡	何郡何町村		
			月 日	處 方 名	藥 劑 數

○丁第百三號

明治十九年六月四日

郡 役 所

虎列刺病治療醫必要ト認ムル場合ニ於テハ適任ノ醫師ヲ撰舉具狀スヘシ其日當ハ一日金壹

第一號(乙)書式

傳染病者終期届

記入ノ解
 ○本書ハ患者一人ニ一葉ヲ用フ即チ終期ノ時ニ用フ
 ○其他記入ノ法ハ發期届ノ例ニ依ルヘシ

住所	郡	宿町村	番地
氏名			
年齢	年	月	日
病名			
發期	月	日	午前午後
終期	月	日	午前午後
醫師	明治	年	郡
受領	明治	年	郡

第二號書式

○甲第八十二號

明治十八年十一月三十日

十九年甲第十
五號ヲ以テ廢止

醫師麻疹病ヲ診斷シ本年十一月一日本縣甲第八十二號布達傳染病届出規則第一條第四條ニ違フ者ハ刑法第四百二十六條第四項ニ依リ刑ヲ科スヘシ此旨布達候事

○丁第百八十一號 明治十八年十二月三日

郡 役 所

今般本縣甲第八十二號ヲ以テ傳染病届出規則布達候ニ付テハ傳染病届用紙ハ從前之通縣廳ヨリ下附候條此旨相達候事
 但從前ノ届用紙當分取交ヘ相用フヘシ

○甲第八十九號 明治十八年十二月廿三日

種痘細則左之通相定メ明治十九年一月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

但明治十六年八月本縣甲第八十號布達衛生規則第二章及第九號ヨリ第十一號ニ至ル表式ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

種痘細則

第一條 種痘ハ春秋二期トス但天然痘流行ノ兆アルトキハ本期ニ拘ハラサルモノトス

第二條 種痘區ハ戶長役場部内ノ町村ヲ以テ之ニ充ツ但便宜ノ爲メ數區聯合スルモ妨ケナ

第三條 戶長役場ニ於テハ每期二月廿八日八月三十一日限リ未痘兒ハ勿論再三種セシムヘキ兒童ノ住所族

第七章 第一款 公衆衛生

十九年甲第二
號ヲ以テ修正

同上

籍姓名及年齢ヲ記セル調査簿ヲ製シ第一號書式ノ種痘書ヲ作り種痘日以前ニ之ヲ接種ス
ヘキ子弟アル家ニ配付スヘシ

第四條 戸長役場ニ於テハ種痘スヘキ時日ヲ其部内町村ニ告知シ且所轄郡役所ヘ報告スヘシ

第五條 種痘術ヲ施スヘキ醫師ハ當日種痘所ニ出張シ種痘兒ノ持參セシ種痘書ヲ受取り之ニ接種スヘシ

第六條 醫師ハ種痘證割印簿ヲ製シ痘兒ノ善感不善感ヲ檢診シテ之ニ記入シ善感不善感共ニ第二號書式ノ證書ヲ付與スヘシ但天然痘患者ヲ治療セシトキハ本條ニ準シ第三號書式ノ證書ヲ付與スヘシ

第七條 戸長役場ニ於テハ醫師ノ割印簿ニヨリ調査簿ニ善感不善感ヲ朱記スヘシ

第八條 種痘當日ニハ戸長又ハ其代理者之ニ立會ヒ監督スヘシ但主務ノ郡吏巡視スルコトアルヘシ

第九條 種痘料ハ一回金拾五錢ヲ超過スヘカラス但貧困者ノ子弟ハ區内町村衛生費ヲ以テ種痘セシムヘシ

第十條 醫師ハ毎年二期自一月至六月第四號式ノ表ヲ製シ每期一月五日限り戸長役場ニ差出スヘシ
第十一條 戸長役場ニ於テハ前條ノ種痘表ヲ整理シ每期七月十日限り郡役所ニ差出スヘシ

同上

第十二條 郡役所ニ於テハ種痘表ニヨリ第六號式ノ表ヲ製シ每期七月十五日限り縣廳ニ差出スヘシ

第十三條 此細則ニ於テ醫師ト稱スルハ從前種痘術ノミ免許セシ者ト雖之ヲ包含ス

第一號書式

種痘書

住所族籍
誰 幾男幾女或ハ
兄弟姊妹 姓
當何年何月

右當期內ニ於テ再種痘致スヘシ

年月日

何郡何町村(聯合)
戸長役場

第二號書式

番號 證

印 割

住所族籍
誰 幾男幾女或ハ
兄弟姊妹 姓
當何年何月

第七章 第一款 公衆衛生

四百二十三

初種 再種 三種 等ヲ朱印押捺スヘシ

左 幾 顆
右 幾 顆

右種痘濟(不善感)ノ不善感ノ者ニハ種痘濟ノ文字ニ代フルニ不善感ノ文字ヲ以テスヘシ

年月日

醫師 何郡町村 姓 名 印

第三號書式

番號 證

天然痘何年何月

右施治(檢案)候也

年月日

醫師 何郡町村 姓 名 印

住所族籍 誰ハ兄弟姊妹 當何年何月

第四號表式

明治何年下半期

區	初種		再種		三種		合計
	善感	不善感	善感	不善感	善感	不善感	
別	滿一年以內	一年以上二年以內	滿一年以內	一年以上二年以內	滿一年以內	一年以上二年以內	
醫師	何郡町村番地 姓 名 印						

種痘規則第三條ニ據リ接種セシ者ハ表中ニ算入セス表末ニ於テ其人員及感否ノ別ヲ附記スヘシ

第五號表式
第六號表式

第七章 第一款 公衆衛生

十九年甲第二號ヲ以テ廢止

明治何年上半期

何郡

區	別						合計
	滿一年以内	滿一年以上二年以下	滿二年以上五年以下	滿五年以上十年以下	滿十年以上十五年以下	滿十五年以上	
初種	善感						
	不善感						
	疾病事故ニテ種痘セサルモノ						
再種	善感						
	不善感						
	疾病事故ニテ種痘セサルモノ						
三種	善感						
	不善感						
	疾病事故ニテ種痘セサルモノ						
合計							

種痘規則第三條ニ據リ接種セシ者ハ表中ニ算入セス表末ニ於テ其人員及感否ノ別ヲ附記スヘシ
 本表ハ郡内ノ總數ヲ掲ク故ニ一郡役所内數郡ニ涉ルモノハ每郡一表ヲ調製スヘシ
 疾病事故ニテ種痘セサルモノハ調ハ滿十五歳以上ノモノヲ算入スヘカラス

十九年甲第三十八號ヲ以テ

○乙第十五號

明治十九年二月六日

戸部 長 役 場所

痘苗ヲ精製貯藏不致置候テハ臨時種痘差支ノ儀不少候間町村開業醫ニ協示シ左ノ方法ニ依リ毎年春秋兩度ニ下付スル痘苗ヲ種痘トシテ精製貯藏ノ方法相立臨時種痘差支無之様取計フヘシ此旨相達候事

製苗貯藏法

痘苗ヲ精製貯藏スルニハ牛痘接種ノ良性人漿ヲ採收貯藏スルヲ第一ノ良法トナス其法タルヤ體質善良健康無病ノ嬰兒ニシテ善感良性ノモノヲ撰擇シ接種後第八日漿液透明稍粘稠ニ至ルノ際之ヲ採收シ(痘漿ヲ採ルニハ痘疱ノ中心ヲ避ケ痘面ヨリ斜メニ淺刺シ出血セシメサルヲ要ス)而シテ此痘漿一分ニ精製處里私林清淨蒸溜水各一分ヲ加ヘ之ヲ攪和シ硝子毛細管ニ吸收セシメ封臘ヲ以テ其兩端ヲ固封シ日光及寒熱ノ劇度ヲ避ケ貯フヘシ右方法ヲ以テ製苗貯藏スルキハ半年乃至一ケ年ヲ經過スルモ充分ノ効力ヲ保存スルヲ得ヘシ

○丙第十一號

明治十九年三月二日

郡 役 所

本縣ニ本縣乙第十五號ヲ以テ相達置候痘苗貯藏ノ數ハ各戸長役場ヨリ届出サシメ左ノ表式ニ依リ統計表ヲ製シ毎年六月十二月ニ申報スヘシ此旨相達候事

表式

病

合計何十何人内 男何人 女何人 死亡何何人

本表ハ一病毎ニ之ヲ調製スヘシ

職業ハ各本人ノ現業ヲ記スヘシ若シ老幼等ニシテ職業ナキ者ハ無業ト記シ戸主ノ職業ヲ肩書スヘシ

第二號表式

病		合計何十何人内		男何人		女何人		死亡何何人	
<p>本表ハ一病毎ニ之ヲ調製スヘシ</p> <p>職業ハ各本人ノ現業ヲ記スヘシ若シ老幼等ニシテ職業ナキ者ハ無業ト記シ戸主ノ職業ヲ肩書スヘシ</p>									
何病患者統計表		明治何年何月		何郡役所					
年齢	種別	何郡		何郡		何郡		何郡	
		男	女	男	女	男	女	男	女
六十年未満	四十年未満	廿五年未満	十五年未満	十年未満	五年未満	公務	職業	學術	醫事
男	女	男	女	男	女	舟楫	流撈	製造	商賈

第二號表式

本表ハ一病毎ニ調製スヘシ

脚氣患者表		明治何年何月		郡町村名		醫師		姓名印	
郡町村名		職業		姓名		年齡		發病月日	
男		女		男		女		男	
女		男		女		男		女	
六十一年以上		合計		諸業		力役		探礦	
死亡		無業		合計		患者所在		ノ町村數	

合計何人 内 男何人 女何人 死亡何人 八人
本表ノ職業ハ地方病患者表ノ記入方ニ同シ

○甲第七十六號 明治十四年八月三十日

飲食物玩弄品ノ着色ニ近來アニリン俗稱 唐紅其他鐵屬製ノ繪具染料ヲ用ヒ往々其毒ニ中リ危難ヲ致スモノ有之右ハ衛生上ノ妨害不尠候ニ付自今左ニ列記スル品類ノ外他ノ着色料相用候儀不相成候條此旨布達候事

第一類 飲食物玩弄品ニ用フル着色料

ベンガラ(鐵丹即第二酸化鐵)狸臘脂(コチニール)ヲ以テ製スルモノ○茜草○蘇木○日本紅(小町紅)笹紅ノ類ニテ紅花ヲ以テ製スルモノ○黃柏○消芙蓉サフラン○山梔子○ズミ並煉ズミ(サツ梨ノ皮ヨリ製スルモノ)鬱金粉(但鬱金沙ハ毒アリ用フヘカラス)日本藍○青黛○青粉(野菜ヨリ製スルモノ)末茶紫根○木炭○油煙○金箔○銀箔
以上單味或ハ調合シ用フルモ妨ケナシ

第二類 玩弄品ニ用フル着色料

胡粉(炭酸石灰)○眞鍮箔○銅箔○錫箔(嬰兒ノ舐メヘキ品ニ用フヘカラス)角粉○石膏○砥ノ粉○黄土○代赭石○麒麟竭○玉墨○群青
以上及第一類ノ内單味或ハ調合シ用フルモ妨ケナシ

右ノ外使用シタキ者ハ検査ヲ受クヘシ

○乙第七十七號 明治十九年六月二日

飲食物ニ蠅類ノ點集スルハ飲食物ヲシテ不潔ナラシムルノミナラス往々傳染病毒傳播ノ媒介ト爲ルノ虞アルニ付店頭ニ露列シ又ハ行商スル飲食物ニシテ直チニ食用ニ供スヘキモノニハ適宜ノ覆蓋ヲ設ケ候様各營業者ニ達スヘシ此旨相達候事

戸郡 長 役 場 所

○甲第十號 明治十八年三月四日

摺附木製造ニ黃燐ヲ使用候儀ハ自今禁止ス違フ者ハ刑法第四百二十六條第四項ノ刑ニ處セラルヘシ此旨布達候事

○乙第八十三號 明治十九年六月十二日

市街ニ於テ毎戸簷前ニ備置候防火水ハ尤モ緊要ニ候得共温暑ノ候ニ至リ屢其水ヲ交換セサルトキハ腐敗ニ傾キ病毒ヲ醸生セシムルヤノ虞アルニヨリ之ヲ街路ニ撒布シ新水ト交換爲致候得ハ傍ヲ砂塵ヲ防壓シ夏時衛生上功益不少ニ付時々交換候様持主ヘ諭示可致此旨布達候事

戸郡 長 役 場 所

○乙第八十四號 明治十九年六月十八日

戶郡長役場

市街ニ於テ毎戸簷前ニ防火用水ヲ備置クハ尤モ必要ニシテ温暑ノ候ハ時々其水ヲ街路ニ撒布市中ノ塵埃ヲ鎮壓シ以テ衛生上ノ有害ヲ防クヘク加之平素ハ防火之用ニ供スルヲ得兩様之便益有之候得共人家密接之市街地ニシテ未タ其備ナキモノ往々有之ニ付右用水ハ毎戸可成一個以上備置候様諭示可致此旨相達候事

○第二款 衛生會及病院

○甲第十一號

明治十三年一月廿九日

明治十二年^{十二月}地方衛生會規則左ノ通達有之候ニ付此旨爲心得布達候事

地方衛生會規則

第一條 本會ハ地方衛生ノ全体ヲ視察シ人民ノ健康ヲ保持増進スルノ目的ニシテ府知事縣令ヲ補翼スルカタメ設立スルモノトス

第二條 本會ハ左之人員ヲ以テ之ヲ編成ス

醫師三名乃至五名

府縣會議員三名

公立病院長

公立病院藥局長

衛生課長

警察官一名

第三條 本會ハ府知事縣令ノ管理ニ屬シ其委員ハ知事令之ヲ命ス

但醫師ハ府縣會議員ヲシテ管内ノ開業醫師ヲ公撰セシメ府縣會ヨリ出ス所ノ委員ハ其府縣會ニ於テ之ヲ公撰セシム

第四條 會長ハ府知事縣令之ニ任シ副會長ハ委員中ヨリ投票ヲ以テ之ヲ撰定ス

第五條 公撰委員ノ在任ハ滿二ケ年トナシ滿期毎ニ之ヲ改撰ス

但前任ノ者ヲ再撰スルコトヲ得

第六條 委員ノ外書記一名若クハ二名ヲ命シ本會ノ雜務ヲ處辨セシム

第七條 委員ハ俸給ナシ但開會ノ地ヲ距ル三里以外ニ住スル者ニハ相當ノ旅費ヲ給シ又非職無給ノ者ニハ相當ノ手當ヲ給スルヲ得

第八條 本會ハ少ナクモ毎月一回之ヲ開クモノトス

但臨時又ハ至急ヲ要スル事件アル時ハ會長ノ招集ニ應シテ之ヲ開キ又委員半數以上ノ請求ニ依テ之ヲ開クコトヲ得

第九條 本會ニ於テ議定スヘキ事件左之如シ

一 衛生上ニ關スル布告布達等ヲ該地方ニ實施スルノ方法

一 衛生上ニ關スル布告布達等ヲ該地方ニ實施スルノ方法

一 衛生上ニ關スル布告布達等ヲ該地方ニ實施スルノ方法

一 衛生上ニ關スル布告布達等ヲ該地方ニ實施スルノ方法

二 府縣ニ於テ發行スヘキ衛生上ニ關スル布達々草案
三 府知事縣令ヨリ發セル議案并ニ中央衛生會内務省衛生局及ヒ郡區町村衛生掛ノ尋問ニ係ル事項

第十條 本會ハ各郡區役所ヨリ府縣廳ヘ上申セル衛生上ノ諸報告等ヲ檢察スヘシ
第十一條 本會ハ該地方ニ實施スヘキ衛生事項ニ就キ其考案ヲ府知事縣令ニ建議スルヲ得

第十二條 本會ハ該地方ノ衛生上ニ關スル實況ヲ檢察スルカタメ擔當吏員ノ派出ヲ府知事縣令ニ建議スルヲ得

第十三條 本會ノ議事筆記ハ時々之ヲ内務省ニ報告スヘシ

○甲第八十一號 明治十六年八月十日

町村衛生會規則左之通相定候條此旨布達候事

町村衛生會規則

第一條 本會ハ町村衛生事項ヲ商議スルモノトス其概目左ノ如シ

- 一 居室市街道路下水便所清潔ノ方法
- 二 飲料水改良ノ方法
- 三 貧民救療ノ方法

四 傳染病豫防ノ方法

第二條 本會ハ各町村若クハ數町村聯合シテ之ヲ設置スヘシ

第三條 本會ハ二十名ヨリ多カラサル左ノ人員ヲ以テ組織シ町村會ニ於テ之ヲ撰舉セシメ其姓名ハ郡長ヲ經テ縣令ヘ申報スヘシ但其地ニ開業醫ナキハ他ヨリ撰舉スヘシ若シ已

テ得サルハ之ヲ欠クアルヘシ
衛生委員

町村會議員

開業醫師

第四條 會員ノ任期ハ二ケ年トス但前任ノ者ヲ再撰スルヲ得

第五條 會長副會長ハ會員中ヨリ公撰スヘシ

第六條 本會議事ノ細則ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第七條 本會ハ會期ヲ定メス商議ヲ要スル事件アルニ當リテ戶長之ヲ開ク又會員半數以上ノ請求ニ依テ之ヲ開クヲ得但日數ハ一週日以内トス

第八條 本會ノ議案ハ戶長衛生委員協議ノ上編製シテ戶長之ヲ發スヘシ

第九條 本會ノ評決ハ郡長ヲ經テ縣令ニ申報スヘシ

第十條 本會ノ評決ヲ以テ建議ヲナサントスルトキハ縣令又ハ郡長戶長ニ差出スヘシ

十八年甲第四
改正
十七號ヲ以テ

第十一條 會長副會長及會員ハ給料ナシ但會期中日當額及其給否ハ町村會ノ決議ニ任スヘシ
第十二條 會費及決議事件實施ノ費用ハ其町村會ノ議決ニ付スヘシ

○乙第八十三號 明治十八年七月六日

明治十六年八月本縣甲第八十一號布達町村衛生會規則第六條ニ依リ議事細則左ノ通相定候條
其會ヘ達スヘシ此旨相達候事

議事細則

第一條 議事ノ始終ハ會長之ヲ指揮ス
第二條 會員ノ席次ハ圖取ヲ以テ之ヲ定ム
第三條 議事ハ先ツ議案ノ總体ヲ評決シ次ニ逐條ニ審議シ次ニ全部ヲ確定ス
第四條 議論多岐ニ涉リ少數消滅ニ屬シタルトキハ再ヒ原案ニ就テ可否ヲ評決ス
第五條 出席會員ハ可否ノ數ニ入ラサルヲ得ス
第六條 決議ノ法ハ舉手又ハ起立又ハ投票トス
第七條 發言セントスルトキハ會長ノ許可ヲ受クヘシ又會長ハ時宜ニヨリ發言ヲ止ムルコトヲ得
第八條 戶長又ハ衛生委員ハ會議ニ於テ議事ニ關スル辨明ヲナスコトヲ得

○甲第五十九號 明治十九年五月十五日

本縣縣立病院職制左ノ通相定ム

但明治十二年^{十二}本縣甲第四百四十六號布達ハ廢止ス
右布達候事

埼玉縣立病院職制

第一條 縣立病院ハ管内人民ノ病患ヲ診察施治シ且ツ公衆衛生ノ事項ニ干與スル所トス
第二條 縣立病院中職員ヲ置ク左ノ如シ

- 院長 一人
- 監事 一人
- 診察掛長 一人
- 藥劑監 一人
- 診察掛 定員ナシ
- 會計掛 同上
- 事務掛 同上
- 藥劑生 同上
- 看護掛 一人

第三條 院長ハ院務ヲ管理シ職員ヲ統督シ患者ノ診斷施術ヲ掌リ其職員ノ進退ハ縣令ニ具
狀スヘシ

第四條 監事ハ院中ノ庶務ヲ掌リ院長事故アルトキハ院務ヲ代理ス

第五條 診察掛長ハ患者ノ診察治療ヲ掌リ及診察掛ヲ監督ス

第六條 藥劑監ハ藥品ノ良否ヲ鑑別シ調劑及製藥ヲ監督ス

第七條 診察掛ハ患者ノ診察治療及醫務上ニ關スル文書ノ草案醫療器械ノ保存并ニ患者表
治驗録ノ調製ヲ掌ル

第八條 會計掛ハ金錢ノ出納諸帳簿ノ整頓并ニ計算表ノ調整ヲ掌ル

第九條 事務掛ハ公文ヲ受付ケ記録文書ヲ整頓シ及物品ノ購求營繕ノ事項并書籍器械ノ保
存ヲ掌ル

第十條 藥劑生ハ調劑并ニ製藥ヲ掌リ及藥品出納表ヲ調製ス

第十一條 看護掛ハ病室一切ノ事務ヲ掌リ及ヒ看護人ノ勤惰ヲ視察シテ院長ニ具狀スヘ
シ

○第三款 醫事及賣藥

○甲第廿七號 明治十九年三月三日
醫師免許細則左ノ通相定ム

第一條 醫術ヲ開業セントスル者ハ明治十六年十月第卅五號布告醫師免許規則第二條第三條
第四條ノ手續ニヨリ願書正副ニ證書 試驗及第又ハ卒 業若クハ開業ヲ添ヘテ縣廳ニ差出スヘシ

第二條 他府縣下ノ醫師本縣下ニ寄留シテ開業スル者ハ開業免狀ノ寫ニ履歷書ヲ添ヘ縣廳
ニ届出ツヘシ

第三條 本縣下ノ醫師他府縣下ニ轉籍又ハ寄留スル者ハ縣廳ニ届出ツヘシ

第四條 醫師甲郡役所部内ヨリ乙郡役所部内ニ轉籍又ハ寄留スル者ハ本人ヨリ甲乙郡役所
ニ届出テ乙郡役所ヨリ縣廳ニ報告スヘシ

一郡役所部内ニ於テ甲地ヨリ乙地ニ轉籍又ハ寄留スル者ハ郡役所ニ届出テ郡役所ヨリ縣
廳ニ報告スヘシ

第五條 診察出張所ヲ置クモノハ其郡町村番地及出張所ニ關スル規則書ヲ添ヘ縣廳ニ届出
ツヘシ

他府縣下ノ醫師本縣下ニ出張所ヲ設ケントスル者モ亦同シ

第六條 醫師患者ニ藥劑ヲ與フルトキハ患者ノ住所姓名年齡病名藥劑用量轉方並ニ年月日
等ヲ處方錄ニ記載スヘシ

第七條 醫師患者ニ處方書ヲ與フルトキハ患者ノ住所姓名其藥劑ノ分量用法服量等ノ別及
年月日自己ノ住所姓名ヲ記シテ之ニ捺印スヘシ

第八條 醫師代診者ハ開業免狀ヲ所持スル者タルヘシ但代診者ヲ置クトキハ其姓名ヲ届出

ツヘシ

第九條 診察セサル患者ニ藥劑若クハ處方書ヲ與フルコトヲ得ス
第十條 此規則第九條ニ違背シタル者ハ本縣違警罪ノ刑ヲ科スヘシ
右布達候事

○甲第八十二號 明治十五年六月二十日

開業醫師疾病其他事故アリテ業務ヲ委托シ患者ニ係ル諸届等ヲナス代理人ハ醫術開業免許
證ヲ所持スル者ニ限候條此旨布達候事

○乙第百二十六號 明治十七年九月廿六日

郡長役場

本年七月太政官第十八號布達徵兵事務條例第四十條疾病届ニ係ル第五書式診斷書ニ與書ヲ乞
フ者アルキ其依託ニ應スヘキハ勿論ニ候處往々之ヲ謝絶シ又ハ遲滯スル向モ有之哉ニ相聞
ニ不都合ニ候條右等ノ儀無之様開業醫ヘ示達致ス可シ此旨相達候事

○甲第二十六號 明治十九年三月三日

產婆及針灸術營業取締規則左ノ通相定ム

但既ニ營業差許タルモノハ更ニ願出ツルニ及ハス

- 第一條 產婆ハ開業免狀ヲ得タルモノトス但當分試験ヲ要セス假免狀付與スルコトアルヘシ
- 第二條 鍼灸術營業者ハ鑑札ヲ得タルモノトス
- 第三條 產婆ノ假免狀及鍼灸術ノ鑑札ヲ受ントスル者ハ其修業履歷書及師家ノ熟練證書ヲ
添ヘ產婆ハ縣廳ニ鍼灸術ハ郡役所ニ願出ツヘシ但各營業者ハ滿二十年以上タルヘシ
- 第四條 產婆ハ產科器械ヲ使用スルコトヲ得ス
- 第五條 產婆及鍼灸術者營業ハ藥劑ヲ與ヘ又ハ藥方ヲ指示スルコトヲ得ス
- 第六條 鍼灸術營業者ハ醫師治療中ニ係ル患者ハ其醫ノ承諾ヲ受クルニ非ラサレハ施術ス
ルコトヲ得ス
- 第七條 免狀假免狀又ハ鑑札ハ他人ニ讓渡シ若クハ貸與スルコトヲ得ス
- 第八條 免狀假免狀又ハ鑑札ヲ毀損亡失シ若クハ氏名本籍ノ變換ニ由リ書換ヲ請フ者ハ其
事由ヲ具シ願出ツヘシ
- 第九條 免狀ヲ有スル者廢業死亡スルキハ之ヲ返納シ他府縣ヘ轉籍寄留スルモノハ其旨届
出ツヘシ
- 但假免狀及鑑札ヲ有スルモノ本條ノ場合ニ於テハ之ヲ返納スヘシ
- 第十條 產婆及鍼灸術營業者其業務ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ行政ノ處分ヲ
以テ營業ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ

第一條 此規則ハ明治十七年三月本縣甲第拾三號布達ニ依リ鑑札ヲ附與シタル營業者ニ對シ施行スルモノトス但營業者ノ内口中師ハ入齒齒抜口中療治ヲ總稱ス

第二條 從前他府縣ニ於テ營業セシ者管下ヘ轉籍寄留シテ尙營業センカ爲メ本縣ニ於テ鑑札ヲ願受シル者ハ前條ニ準スヘシ

第三條 口中師營業者ハ入齒拔齒齶齒療治ノ術ヲ施ス者ニシテ其他ノ術ヲ施スコトヲ得ス

第四條 接骨師營業者ハ整骨術ヲ施ス者ニシテ副木綱帶ヲ除クノ外醫術器械ヲ用フルコトヲ得ス

第五條 醫師治療中ノ患者ナルトキハ主治醫ノ承諾ヲ受クルニ非ラサレハ施術スルコトヲ得ス

第六條 各營業者ハ藥法ヲ指示シ若クハ内服藥ヲ與フルコトヲ得ス藥品ハ明治十三年一月第一號布告藥品取扱規則第二類第三類ノ毒藥劇藥ヲ除クノ外ハ外用ニ限り用フルコトヲ得

第七條 各營業者ハ鑑札ヲ所持スルニ非ラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 鑑札ハ他人ニ讓渡シ又ハ貸與スルコトヲ得ス

第九條 鑑札ヲ水火盜難又ハ過誤ニ依リ毀損失亡シタルトキハ其自由ヲ具シ更ニ下付ヲ請フヘシ

管内ヘ轉籍寄留又ハ改姓名等ニ由リ鑑札面ニ變更ヲ生シタルトキハ書換ヲ請フヘシ

第十條 廢業死亡又ハ他府縣ヘ轉籍寄留スルモノハ鑑札返納其旨届出ツヘシ

第十一條 他府縣ヘ轉籍寄留シテ營業セントスル者ハ其事由ヲ具シ本縣ヘ願出テ添翰ヲ受クヘシ

第十二條 他府縣ヨリ管内ヘ轉籍寄留シテ營業セントスル者ハ原管廳ノ添翰ヲ添ヘ本縣ヘ願出テ鑑札ヲ受クヘシ

第十三條 此規則ニ關スル願届ハ所轄郡役所ヲ經テ差出スヘシ

第十四條 各營業者其業務ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ

第十五條 本則第三條第四條第五條第六條第七條第八條ニ違背シタル者ハ本縣違警罪ノ刑ヲ科スヘシ

○乙第五十九號

明治九年五月廿三日

各區正副區長

製練藥品ノ儀ハ本邦ニ於テモ往々舶來品ニ勝レル良品モ有之處只管輸入品ヲ妄信シ概シテ國產ヲ卑ムノ風ニ流レ墮惡藥ノ輸入日ヲ追テ増加シ其損害不尠ニ付自今製造品試驗ノ上其良否ヲ鑑定シ免許鑑札相渡スヘシ候條醫療用工職用ヲ不問藥品精練致シ候者ハ其製造品相添左ノ箇條書ニ從ヒ願出許可ノ上販賣致シ候様可取計旨内務省ヨリ達有之候條區内藥品製練候者ヘ無洩可相達候事

但阿片製造人ノ儀ハ詮議ノ次第有之候條當分地方限リ聞届置昨八年同省乙第百五十六號

達ニ照準シ可取計旨達ニ付其旨可相心得事

製藥免許手續

- 一製造人ハ屬籍住所姓名等詳記シタル願書ニ通テ作り其製品ヲ添へ管廳へ差出サシメ管廳ハ之ニ添書シテ内務省ニ出スヘシ
- 一製品ハ各地ノ便宜ニ就キ最寄司藥場ニ送致シ試験ヲ受ケ其譯添書ニ追申スヘシ
- 一試験ノ上良品ナルモノハ免許鑑札ヲ交付シ若シ其製造十全ナラサルモノハ本人ノ志願ニ依リ司藥場ニ於テ製練ノ方法傳示スヘシ
- 一製藥許可ヲ得タル者ハ官許ノ文字ヲ冒シタル商標ニ藥名及其住所姓名ヲ記シ每器ニ貼シテ販賣スヘシ

但藥名ハ國字洋字兩様トモ記載スルハ勝手タルヘシト雖モ洋文ノミヲ書スヘカラス必ス普通ノ譯名無之モノハ假名ニテ原書ヲ記スヘシ

○甲第卅二號

明治十三年三月廿二日

本年一月太政官第壹號ヲ以テ藥品取扱規則公布相成候ニ付テハ繪具染料等モ第二類並第三類表中ニ掲載有之モノハ該規則ニ照シ賣買可致等ニ候條心得違ノ者無之様可取計旨内務省ヨリ被達候ニ付此旨布達候事

○甲第卅三號

明治十年三月廿九日

本年一月第七號ヲ以テ賣藥規則公布相成且今般内務省ヨリ達ノ趣モ有之候ニ付テハ賣藥免許鑑札申受ケ方左ノ手續書及書式ニ照準可願出此旨布達候事

一昨明治八年七月以降内務省ヨリ下附相成候賣藥鑑札ハ追テ同省ヨリ被相達候迄免許發賣共當分書替願出ニ不及規則公布後相渡候鑑札同様相心得ヘシ

一前條ノ鑑札所持ノモノ營業免許年季ハ其鑑札ニ記載ノ月ヨリ起算ス尤税金ノ儀ハ本年分ヨリ徴収スヘキ筈ニ付昨九年マテノ分ハ納ムルニ及ハス

但鑑札料ハ規則ノ通相納ムヘシ

一前條營業鑑札所持ノ賣藥ヲ請賣又ハ行商業致シ居候分來ル四月二十日マテニ悉皆願出鑑札申受ヘシ

一明治八年七月以降本年一月規則公布前ノ營業鑑札所持ノ者ニ限り本年一月ヨリ六月マテ

一賣藥營業者並ニ請賣者免許看板ハ左式ノ通相製シ店頭ニ掲クヘシ

堅三尺

寸法同上

免賣藥營業

出請

免賣藥請賣

一行商鑑札申受ル時ハ其方名ヲ一々記載シテ願出ヘシ

但一人ニシテ數人ノ藥劑ヲ行商スル時ハ方數ニ拘ハラズ營業者異ナル毎ニ鑑札申受ク
ヘシ
賣藥改正願書式 用紙美濃紙

賣藥改正願

埼玉縣大小區國郡村番地

族籍 營業人 氏 名

一方名

藥品分量

製法

用法服量

功能

右者何年月日御檢査濟鑑札御下渡營業仕候處今般何々之廉左之通改正仕度御差支無
之候ハ、鑑札御書替被下度此段奉願候也

一改正ノ廉ヲ詳記スヘシ

年月日

埼玉縣令氏名宛

願人 氏 名 印

戶長 氏 名 印

醫務取締 氏 名 印

前書之通相違無之ニ付與印仕候也

區長 氏 名 印

賣藥請賣鑑札願書式 用紙同上

賣藥請賣願

一方名 一同 一同 一同 一同

右營業人(府縣大小區國郡村町番地) 族籍 氏 名 印

但營業者異ナレハ縱令一方アリモ必ス各營業者ノ族籍住所氏名ヲ上ノ例ニ倣ヒ之
ヲ區別シテ書記スヘシ

右之賣藥幾方今般請賣仕度依テ別紙營業者へ御免許之御指令寫并約定書相添此段奉
願候也

埼玉縣大小區國郡村町番地

族籍

請賣願人 氏 名 印

戶長 氏 名 印

醫務取締 氏 名 印

埼玉縣令氏名宛

前書之通相違無之ニ付與印仕候也

年月日

區長 氏 名 印

賣藥請賣約定書

一方名 一同上 一同上 一同上 一同上
右者何某ノ官許ヲ得タル賣藥ニシテ今般何某請賣可致示談相整ヒ候ニ付請賣者ニ於テ請賣鑑札ヲ願受營業者ノ製調シタル賣藥ヲ取次販賣致スヘシ然ル上ハ營業者鑑札免許期限内ハ總テ賣藥ニ關スル御規則及ヒ御達ノ趣旨ヲ確守シ不正ノ所業致ス間敷候依テ約定書如件

年月日

(府)縣大小區國郡(町)村番地

族籍

賣藥營業人氏

名印

同

族籍

賣藥請賣人氏

名印

賣藥營業鑑札滿期書替願書式 用紙美濃紙

賣藥營業鑑札滿期御書替願

埼玉縣大小區國郡(村)町番地

族籍

營業人 氏

名

一方名
藥品分量

製法
用法服量

功能

但藥方數種アル時ハ上ノ例ニ從テ一々連書スヘシ

右者何年月日御檢査濟鑑札御下渡營業仕候處來ル何月滿期相成猶引續營業仕度別紙鑑札幾枚返納仕候間御詮議之上御差支無之候ハ、御書替被下度此段奉願候也

年月日

願人

氏

名印

戶長

氏

名印

醫務取締

氏

名印

埼玉縣令氏名宛

前書之通相違無之ニ付與印仕候也

年月日

區長

氏

名印

賣藥營業鑑札并請賣鑑札遺失之節書替願書式 用紙同上

賣藥營業鑑札遺失ニ付御書替願

埼玉縣大小區國郡(村)町番地

族籍

賣藥營業人氏

名

一方名

第七章 第三款 醫事及賣藥

賣藥請賣鑑札ナレハ左之通認ムヘシ

一方名

右請賣人

(府)縣大小區國郡村(町)番地
族籍
賣藥營業人氏 名

同
族籍
氏 名

右者何年月確ト記臆セサレハ御下渡被下候賣藥營業鑑札何月日何々ノ事故ニテ遺失仕候間
更ニ御下渡被下度此段奉願候也

年月日

埼玉縣令氏名宛

前書之通相違無之ニ付與印仕候也

賣藥營業人
或ハ請賣人氏 名 印
戶長 氏 名 印
醫務取締 氏 名 印
區長 氏 名 印

賣藥營業鑑札讓渡願書式 用紙同上

賣藥營業鑑札讓渡願

(府)縣大小區國郡村(町)番地

一方名

藥品分量

製法

用法服量

功能

但賣藥數種アル時ハ上ノ例ニ從テ連書スヘシ

右者何年月御檢査濟鑑札御下渡營業仕候處今般府族籍何某ヘ示談ノ上讓渡申度依テ所持ノ鑑札返納仕候間御書替被下度此段奉願候也

年月日

(府)縣大小區國郡村(町)番地
族籍
賣藥鑑札主氏 名 印

同
族籍
右讓受人 氏 名 印

醫務取締 氏 名 印

戶長 氏 名 印

醫務取締 氏 名 印

但讓受人ノ管轄處ニ出シ鑑札主ノ管轄處ヘハ其旨ヲ届出ヘシ

第七章 第三款 醫事及賣藥

埼玉縣令氏名宛

前書之通相違無之ニ付與印仕候也

年月日

讓受人ノ
區長ノ 氏 名 印

○甲第四十三號 明治十年五月二日

賣藥營業及ヒ請賣願書式本年三月本縣甲第三十三號ヲ以テ相達置候處請賣願之儀ハ自今醫務
取締及ヒ區長等與印ニ不及候條本人戶長連署ヲ以可願出此旨布達候事

但本文願書及營業者官許公文ノ寫約定書共都テ正副ニ々通り宛可差出儀ト可相心得事

○乙第六十二號 明治十三年八月廿五日

郡 役 所
戶 長 役 場

賣藥營業ノ者自今廢業或ハ禁止候節ハ左ノ雛形ニ照據シ郡役所ヲ經テ爲届出候様可取計此
旨相達候事

第一號書式 用紙半紙
二ツ折

賣藥廢業届

番號

一藥名

何年何月何日免許

一全 右者今般廢業致シ候ニ付摺札返上何就テハ此賣藥受賣行商人名簿相添此段御届仕候也

年月日

培玉縣令姓名宛

郡町村名番地
族籍
營業人 姓 名 印
右村戶長 姓 名 印

第二號書式 用紙同上

賣藥受賣
行商者名簿

一藥名

(何府縣國郡町村名番地

族籍
受賣人 姓 名

一全

全上
全 姓 名

一全

全
行商人 姓 名

右之通相違無御座候也

郡町村名

第七章 第三款 醫事及賣藥

四百五十八
姓名印

○丙第十九號

明治十六年十月三十日

郡役所

賣藥請賣及行商者ニ於テ免許滿期ヲ不心付營業致居候様ノ儀有之候テハ不都合ニ付自今請
賣並行商鑑札裏面ニ左圖ノ如ク滿期年月ヲ朱書シ下付可致此旨相達候事

△朱書

賣藥請賣鑑札裏面

△年月滿期	請賣營業人	許可	賣藥請賣	賣藥營業人	△族籍
	氏	族	之	氏	
	名	籍	證	名	

賣藥行商鑑札裏面

番號	年月日	△年月滿期
	烙	印

○丁第二百號

明治十六年八月廿五日

郡役所

賣藥請賣行商統計表別紙様式之通改正候條本年七月ヨリ每期七月十五日限リ調製可差出此
旨相達候事

明治何年自何月至何月賣藥請賣行商統計表

何郡役所

種別	請		賣		行		商	
	人員	方數	人員	方數	人員	方數	人員	方數
何郡								
何郡								
合計								

○甲第五號 明治十六年三月十四日
 藥舖并藥種商規則左之通相定候條此旨布達候事
 但明治十三年十月本縣甲第九十五號布達醫務條例第二章中藥舖ニ係ル條項ハ廢止ス

- 第一條 藥舖ヲ開業セント欲スル者ハ左ノ科目ニ就キ試驗ヲ遂ケ其成績ヲ內務卿ニ具狀シ合格ノ者ハ免狀ヲ付與スヘシ
- 試驗科目
 一算術 一物理學大意 一化學大意 一藥物學大意 一處方學大意
- 第二條 試驗ハ每年二月八月兩度ト定メ廳下縣立病院ニ於テ之ヲ行ヒ時日ハ其都度願人ニ通報スヘシ

- 第三條 試驗ヲ請フ者ハ第一號ノ願書式ニ倣ヒ修學履歷書ニ教師ノ証書ヲ添ヘ八月五日限リ郡役所ヲ經テ願出ツヘシ
- 但試驗ヲ請フ者ハ年齢二十歳以上タルヘシ
- 第四條 官立學校ニ於テ製藥學ヲ卒業シタル者ハ別ニ試驗ヲ要セス其証書及履歷書ヲ添ヘ郡役所ヲ經テ願出ツヘシ
- 但卒業証書ハ審査ノ上返付スルヲ以テ其寫ニ通テ添ヘ差出スヘシ
- 第五條 試驗問題ハ一科二題トシ答記ノ時間ハ一題二時間ヲ超ユルヲ許サス
- 第六條 受験人ハ書籍ヲ携帶シテ試驗場ニ入り或ハ一問ノ答記ヲ了ラサル間ハ本席ヲ離ルルヲ許サス
- 第七條 試問答記ヲ了ルノ後試驗委員ノ承諾ヲ請フテ淨書スルヲ得ヘシト雖必ス其眼前ニ於テシ他席ニ持出スコトヲ許サス
- 第八條 藥舖ハ醫師ノ處方書ニ據リ調劑スヘシト雖病ヲ診シ又ハ容臍ヲ問ヒ方劑ヲ與フルヲ許サス
- 但醫師ノ處方書ハ之ヲ保存シ臨時衛生及警察官吏點檢ノ用ニ供スヘシ
- 第九條 前條ノ場合ニ於テ若シ醫師ノ處方書中藥名不明瞭ナルカ又ハ其量目不相當ト認ムルトキハ必ス處方主ニ質シテ後調劑スヘシ
- 第十條 處方書ヲ齎ラスト雖醫師ノ住所姓名年月日捺印等ナキモノハ一切調劑スヘカラス

第十一條 調劑ノ容器包紙ニハ其用法及患者ノ姓名等ヲ詳記シ自己ノ住所姓名アル印ヲ捺スヘシ

第十二條 藥種商ヲ開業セント欲スル者ハ第二號書式ニ倣ヒ郡役所ヲ經テ願出鑑札ヲ受クヘシ

第十三條 藥舖及藥種商ハ明治十三年太政官第一號公布藥品取扱規則ヲ確守シ毒劇藥取扱方ハ特ニ注意スヘシ

第十四條 藥種商ハ諸藥品ヲ販賣スルニ止リ醫師ノ處方書ヲ齎ラス者アリト雖調劑スルヲ許サス

第十五條 藥品及其貯藏方等ハ衛生及警察官吏出張検査スルコトアルヘシ

第十六條 免狀及鑑札ヲ受ケタル藥舖藥種商並ニ從前ノ藥舖ハ左ノ看板ヲ店頭ニ掲クヘシ
長サ三尺

免狀 藥舖 姓名
埼玉県何郡何町村

免狀 藥種商 姓名
埼玉県何郡何町村

從前ノ藥舖ハ免狀ノ上ニ假ノ一字ヲ加フヘシ

第十七條 藥舖管内外ニ轉籍又ハ寄留スルトキハ郡役所ヲ經テ届出テ改姓名ハ免狀書換テ願出ツヘシ

第十八條 藥種商管内ニ於テ轉籍寄留又ハ改姓名等ノ節ハ郡役所ヲ經テ鑑札書換テ願出ツヘシ

第十九條 免狀及鑑札ハ貸借スルヲ許サス廢業又ハ死亡スルトキハ郡役所ヲ經テ之ヲ返納スヘシ

但鑑札ハ他管下ヘ轉籍寄留スルトキモ亦同シ

第二十條 水火盜難等ニ罹リ免狀又ハ鑑札ヲ毀失シタルトキハ其事由ヲ具シ郡役所ヲ經テ更ニ免狀又ハ鑑札ヲ願受クヘシ

第一號書式 用紙半紙ニツ 折正副二通

藥舖開業試驗願

私儀今般藥舖開業仕度候間御試驗ノ上免狀御下付被成下度別紙履歷書并教師ノ証書相添此段奉願候也

年月日

縣令宛

前書之通相違無之ニ付奥印仕候也

何郡何町村何番地寄留ノ者ハ本籍
族籍

姓名印

右町村戸長

姓名印

衛生委員

姓名印

第一號書式

用紙半紙二ツ
折正副二通

藥種商開業願

私儀今般藥種商開業仕度候間鑑札御下付被成下度此段奉願候也

何郡何町何番地寄留ノ者ハ本籍
ナモ記載スヘシ
族籍

姓 名 印

年月日

縣 令 宛

前書之通相違無之ニ付與印仕候也

右町(村)戸長

姓 名 印

衛生委員

姓 名 印

○甲第六號

明治十六年三月十四日

今般甲第五號ヲ以テ藥舖并藥種商規則布達候ニ就テハ從前本縣限リ許可候藥舖之儀來明治十九年二月迄ニ試験ヲ受ケ免許ヲ得サル者ハ藥種商ト認定候條此旨布達候事

○甲第二十二號

明治十九年二月十四日

明治十六年三月本縣甲第六號布達藥舖并藥種商ト認定期限ノ儀ハ今般更ニ明治二十二年二月迄延期ス
右布達候事

○甲第十四號

明治十七年三月十七日

賣藥規則外製劑販賣取締規則左之通相定候條此旨布達候事

但從前許可セシ者ト雖此規則ニ準據シ更ニ鑑札ヲ願受クヘシ

賣藥規則外製劑販賣取締規則

第一條 賣藥規則外ノ製劑トハ鼠取蠅取藥蚤除虱失蚊遺藥ヲ云フ

第二條 此製劑ヲ販賣セントスル者ハ第一號書式ニ倣ヒ鑑札ヲ願受クヘシ但免許ヲ得サル

製劑ハ他人ニ施與スルヲ許サス

第三條 此製劑ヲ請賣セントスル者ハ第二號書式ニ倣ヒ鑑札ヲ願受クヘシ但他府縣下ノ者

ノ製劑ヲ請賣スル者モ本條ニ準スヘシ

第四條 廢業死亡又ハ他府縣下ニ轉籍寄留スルトキハ其旨届出鑑札ヲ返納スヘシ

第五條 轉居改名又ハ鑑札ヲ遺毀シタルトキハ其事由ヲ具シ更ニ鑑札ヲ願受クヘシ

第六條 此規則ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十六條第四項ニ據リ刑ヲ科スヘシ

第一號書式

用紙半紙
正副二通

何藥營業願

一何藥

何藥分量

何藥分量

何藥分量

一配合品

一製法

一用法

一功能

右調製發賣仕度候間御検査ノ上鑑札御下付被下度依テ製劑相添此段奉願候也

埼玉縣國郡(町)番地(居住)寄留
(士族(平民)寄留ノ者ハ(府)縣)
名ヲ冠スヘシ

氏 名 印

年月日

郡長氏名殿

前書願出候ニ付與印仕候也

右町(村)戸長

氏 名 印

右町(村)衛生委員

氏 名 印

第二號書式 用紙半紙 正副二通

十七年甲第三
十七號ヲ以テ
修正

一何藥

何藥請賣願

右營業人

右何藥今般營業人ト示談之上請賣仕度候間鑑札御下付被下度依テ(營業人他府縣)何府縣ヨリ)營業人へ御下付相成候鑑札(御免許相成候御指令)并ニ約定書寫相添此段奉願候也

府縣國郡(町)番地(居住)寄留
(士族(平民)寄留ノ者ハ(府)縣)
名ヲ冠スヘシ

氏 名

年月日

郡長氏名殿

前書願出候ニ付與印仕候也

右町(村)戸長

氏 名 印

右町(村)衛生委員

氏 名 印

同上

第七章 第三款 醫事及賣藥

四百六十七

○乙第三十七號

明治十七年三月三十一日

郡 役 場 所

本年三月本縣甲第十四號ヲ以テ賣藥規則外製劑販賣取締規則布達候ニ付テハ鑑札離形左之通相定候條此旨相達候事

用紙西洋紙

六寸

△ハ朱書

△第何號
△埼玉縣何國何郡何町村番村
居住寄留族
△一何々藥
△何之誰
右營業差許候事
△明治△何年
△何月△何日
埼玉縣
縣印

模樣四方トモ唐艸

六寸

但朱書ハ下付ノ際記入ノ書式

○第四款 雜件

明治十三年一月二十日

郡 長 役 場 所

○乙第七號
今般地方廳中衛生課設置候ニ付テハ郡區中ニ主務相定メ擔當可爲致候得共町村内ニ於テ實際人民ニ接シ致世話候者無之テハ日常民間ノ實況ニ就キ行ハレ兼候場合モ不少ニ付更ニ町村ノ公撰ヲ以衛生委員ヲ設ケ別冊ノ條項ニ準據シ日長ヲ助ケテ該町村衛生ノ事務爲取扱可申旨内務省ヨリ被達候ニ付追テ委員設置ノ方法并ニ事務取扱手續等委詳可相達候得共豫メ別冊町村衛生事務條項相添此旨相達置候事

町村衛生事務條項

第一條 出產死亡流産ノ員數ヲ取調毎月之ヲ郡區長ニ申出ル事

第二條 市街道路井戸水道下水便所肥溜芥溜等ヲ清潔ナラシムル爲メ其掃除方ニ注意シ又其建築修繕等ニ付キ漸次改良ノ見込ヲ立ル事

學校病院囚獄旅籠屋借家芝居貸座敷湯屋温泉場等ノ掃除方并ニ建築方ニ注意シ衛生上ノ利害ヲ考ヘ漸次改良ノ見込ヲ立ル事

市場製造場畜場屠場魚干場等ハ其位置及ヒ建造方ニ注意シ健康ヲ害スヘキ事由アラハ之ヲ改良スルノ見込ヲ立ル事

第三條 腐敗セル魚鳥獸肉蔬菜類不熟ノ果物不良ノ鹽藏食物及贗造ノ粉類等ノ販賣ニ注意スル事

第四條 飲水氷牛乳ノ善惡其他飲料ノ腐敗醜造等ニ注意スル事

第五條 毒藥劇藥廢敗藥墮胎藥及ヒ製藥賣藥等ノ取締ニ注意スル事

第六條 飲食物玩弄品等ノ着色料ニ注意スル事

第七條 墓地ノ位置境界ヲ見定メ及ヒ埋葬火葬ノ手續ヲ考ヘ郡區長ニ通知スル事

埋葬場ノ地形火葬場ノ建造方ヲ吟味シ其取締ノ方法ヲ考ヘ殊ニ傳染病流行ノ時ニハ埋葬火葬日々ノ員數ヲ取調毎週之ヲ郡區長ニ申出ル事

第八條 虎列刺腸室扶私發疹室扶斯痘瘡麻疹實扶的里亞赤痢等ノ傳染病アリテ醫師ヨリ申出ルキハ直ニ之ヲ郡區長ニ通知シ速ニ豫防法ニ取掛ル事

家畜傳染病流行スルキハ之ヲ郡區長ニ通知シ適當ノ豫防法ヲ爲ス事

第九條 各種傳染病ノ勢次第ニ盛ナル時ハ郡區長ノ指圖ヲ受ケ町村會ノ公撰ヲ以テ臨時衛生委員ヲ増加シ消毒ノ方法及ヒ患者ノ引分ケ方等ヲ協議シ其處分ヲナス事

傳染病ノ種類ニヨリ消毒ノ方法患者ノ引分ケ方等ニ付其輕重ヲ斟酌スル事

人家稠密ノ町村ニ於テハ避病院ノ場所ヲ見定メ患者死者取扱ノ當否ニ注意シ患者ノ出入全治死亡等ヲ日々郡區長ニ申出ル事

第十條 町村内ノ未タ種痘セサル者ヲ取調普ク種痘セシムル様盡力スル事

痘瘡流行ノ時ニハ說諭シテ再三種痘ヲ促カス事

町村内ノ醫師ヨリ出クセル種痘ノ統計表ヲ取調メ每期之ヲ郡區長ニ差出ス事

第十一條 微毒検査所アル町村ニ於テハ毎月其統計表ヲ郡區長ニ差出ス事

第十二條 癩病脚氣瘡疾等地方病ノ有無其類別及ヒ多少ニ注意シ之ヲ郡區長ニ申出ル事

第十三條 町村ノ便宜ニ從ヒ其公議ニヨリテ町村醫ヲ設ケ貧民救療ノ見込ヲ立ル事

第十四條 衣食住其他習俗ノ健康ヲ害スヘキモノニ注意シ郡區長ニ通知シテ改良ノ見込ヲ立ル事

立ル事

○乙第五十四號 明治十五年七月廿七日

衛生委員通信手續左之通衛生委員へ相達候條此旨相達候事

戸 郡 長 役 所

衛生委員

人身ノ健康ヲ保テ民生ノ幸福ヲ謀リ國家ノ富強ヲ致ス所以ノ者千緒萬端アリト雖現今ノ務ニ於ル衛生通信ヨリ急ナルハ莫シ然リ而シテ其事務ノ着手日尙淺ク濟生ノ道未タ人心ニ浴カラス是ヲ以テ民間深ク諸般事物ノ利害得失ヲ察シ以テ其健康ヲ傷ヒ疾病ヲ來ス所ノ理ヲ考究シ之ヲ未萌ニ防キ身体ト精神トナシテ強壯活潑ナラシメント欲スルノ思想ニ至リテ富メリト謂フヘカラサルナリ今ヤ衛生事務ノ組織ハ議事ニ中央衛生會地方衛生會アリ行政ニ内務衛生局地方衛生課郡役所衛生掛町村衛生委員アリ而シテ衛生委員ハ日常人民ニ接近スルヲ以テ其關係最深シ故ニ衛生事務ノ舉否ハ此人々ノ負擔如何ニアリト云フモ不可ナカルヘシ然レヒ通信報知ノ順序方法尙未タ備ハラサレハ諸般ノ利害得失ヲ審ニセス事比隣ニ

起ル者ト雖之ヲ知ルニ由ナシ禍闔族ニ及フモ之ヲ救フ能ハサルニ至ル歎セサルヘケンヤ夫
レ衛生ノ道ヲ更張セント欲セハ必先ツ通信ノ道ヲ開キ利害得失ノ實證ヲ舉テ之ヲ衆人ニ明
示セサルヘカラス因リテ今通信手續ヲ設ケ務メテ通信ノ遺漏ナク誤謬ナキヲ期シ以テ漸ク
濟生司命ノ法ヲ完全ニシ病災ヲ未萌ニ防ント欲ス各委員深ク之ヲ負擔スヘシ此旨相達候事

明治十五年七月廿七日

埼玉縣令吉田清英
衛生委員

衛生委員通信手續左ノ通相定メ來ル十月一日ヨリ實施候條此旨相達候事

明治十五年七月二十七日

埼玉縣令吉田清英

衛生委員通信手續

- 第一條 衛生委員ハ衛生上ニ關スル通信ヲ擔當スルモノトス
- 第二條 衛生委員ハ衛生上ノ實況ヲ觀察シ報告ヲ要スヘキ事項ト認ムルトキハ之ヲ取調郡
役所ニ報告スヘシ
- 第三條 郡役所ニ於テハ衛生委員ノ報告書ヲ調査シ之ヲ縣廳ニ送達スヘシ
但衛生委員ヨリ報告スル事項ニ付意見アルトキハ之ヲ附記シテ送達スヘシ
- 第四條 至急ヲ要スル事項ハ衛生委員ハ郡役所ニ郡役所ハ縣廳ニ電報郵便又ハ脚夫等ニテ
直ニ報告スヘシ
但事ノ至急ヲ要スルモノハ電報又ハ郵便等ニテ直ニ衛生課ニ急報シ尙其次第ヲ速ニ郡

十八年乙第八
十二號ヲ以テ
改正
同上

同上

同上

役所ニ通報スヘシ

- 第五條 縣廳ニ於テハ各地ヨリ通信スル所ノ事項ヲ調査シ内務省衛生局ニ報告シ且其利害
ヲ察シ之カ處分方法ヲ設ケ其事項ニ據リ管内ニ廣告シ又ハ特ニ關係町村ニ通報スヘシ
- 第六條 通信事項ハ概テ左ノ各款ニ準スヘシ尤傳染病者ノ報知及出產死亡等ノ月報其他別
ニ例規アル者ハ此手續ノ限リニ非ス
- 第一 町村ノ面積人口幾許其住民ノ職業農工商若クハ漁樵等ノ區別如何一ヶ月或ハ幾週
間ノ出產死亡流産病患等ノ數前年其月ニ比シ又ハ各町村互ニ相比スルニ其多寡如何且
其死亡ハ何病ニ因ルカ老少男女孰レニ多キ等又ハ死亡ニ至ラサルモ何病ニ罹ル者多ク
其原因ノ探知シ得ヘキ者(地形寒暖晴雨其他衣食住習慣等ノ景況)等ヲ報告スル事
- 第二 山林ヲ伐リ水路ヲ換ヘ田圃ヲ廢シテ居宅ト爲シ沼池ヲ埋メテ耕地ト爲ス等人造ニ
ヨリテ氣候ヲ變シ或ハ飲水ヲ汚シ爲ニ疾病ヲ誘發シ若クハ死亡ヲ増加シタル等又ハ荒
蕪ヲ開闢シ或ハ澗水ヲ疏通セシ爲メ疾病死亡ノ員數ヲ減シタル等ノ景況ヲ報告スル事
- 第三 傳染病ハ勿論何病ニ拘ハラズ其性質常ニ異ナルカ若クハ傳染病流行ノ兆アルトキ
ハ例規ニヨリ報告スルノ外其景狀ヲ報告スル事
- 第四 獸畜流行ノ病其性人類ニ傳染スヘキモノアルトキハ其緩急及傳播ノ景狀ヲ報告ス
ル事

同上刪除

- 第五 町村内ニ醫師ナシ或ハ近傍醫師ナキ爲メ患者アルモ醫藥治療ヲ受クルコト能ハサル等ノ景況ヲ報告スル事
- 第六 種痘ノ普及如何ハ數年前ニ比スレハ増加シ或ハ減少シ未痘兒ハ其町村五年以下人口ノ幾分ニ居リ或ハ再三種ノ數幾許ニシテ其善感不善感ハ接種者幾分ノ比例ニ當ル等ヲ報告スル事
- 第七 劇藥毒藥贗敗藥墮胎藥等ノ販賣ニ關スル事故及其誤用等ノ顛末ヲ報告スル事
- 第八 漫リニ針灸呪詛等ヲ施シ或ハ之ヲ信仰スルノ弊アルトキハ之ヲ報告スル事
- 第九 井戸若クハ水道ノ構造ヲ改良シ或ハ從前河水ヲ飲用セシカ改メテ井ヲ掘リ又ハ其河水ヲ濾過スルノ方法ヲ設ケタル景況及其成果如何ヲ報告スル事
- 第十 魚鳥獸ノ肉及牛乳其他飲食物ノ販賣取締ヲ爲シタル景況又ハ其腐敗若クハ贗造ニ係ル者ヲ發見セシトキ或ハ之ヲ食シテ其害ヲ被リタル者等ヲ報告スル事
- 第十一 飲食物及玩弄品ノ着色料顔料染料等ノ有害物ヲ發見セシトキ又ハ其害ヲ被リタル者等ヲ報告スル事
- 第十二 飲食物其他諸般ノ中毒ニ罹リタル者アリタルトキ其顛末ヲ報告スル事
- 第十三 街路溝渠家屋廁閣等ノ不潔又ハ構造粗惡ナルカ爲メ健康ヲ害シ疾病ヲ發シ又ハ其改良ヲナシタル景況方法及其成果如何ヲ報告スル事
- 第十四 市場屠場畜場魚干場肥料置場等モ亦前項ニ準シ之ヲ報告スル事

- 第十五 工場製作場等アリテ近隣ノ空氣河水若クハ井水ヲ汚染シ其他不潔ノ惡臭又ハ劇烈ノ音響等ヲ發シ人ノ健康ヲ妨害スルノ景況或ハ妨害ノ改良ヲ謀リタル顛末ヲ報告スル事
- 第十六 學校病院囚獄旅館借屋芝居寄席貸座敷湯屋温泉場等ノ不潔ナルカ爲メ人ノ健康ヲ妨ル景況及其改良ヲ謀リタル顛末ヲ報告スル事
- 第十七 墓地ノ位置地形並埋葬火葬法ノ利害及其改良法等ヲ報告スル事
- 第十八 衣食住其他職業風俗ノ健康ヲ害スヘキ景況並ニ其實驗若クハ意見及改良法等ヲ報告スル事
- 第十九 癲狂白痴聾啞盲ノ人員ハ幾許ニシテ各町村互ニ相比シ或ハ之ヲ往年ニ比スルニ多寡増減アル等ヲ報告スル事
- 第二十 學校ハ課業時間ノ長短教場ノ廣狹及其裝置等學校衛生法ニ適セス現ニ生徒ノ健康ヲ害スルカ或ハ其虞アル等ノ景況ヲ報告スル事
- 第八條 前項ノ外衛生上ニ關係アル事項ハ詳細報告スヘシ
- 第九條 通信文ハ務メテ平易ニシテ解シ易キヲ主トシ各地方言等解シ難キモノハ説明ヲ加フヘシ
- 第十條 通信中數量其他統計ニ係ル者ハ表ニ製シ中毒其他試驗ヲ要スヘキ物品及文字ヲ以テ明記シ難キ者ハ現品若クハ圖解ヲ添フヘシ

十八年甲第九
號ヲ以テ題
號改正及第
章云々ノ字刪
除
十八年甲第五
號ヲ以テ第一
章改正

○甲第八十號

明治十六年八月十日

明治十四年五月本縣甲第四十三號布達衛生規則別冊之通改定候條此旨布達候事

出產結婚死亡届出規則

第一章

- 第一條 妊婦分娩セシトキハ第一號書式ニ據リ戸主ヨリ三日以内ニ其戸長ニ届出ツヘシ
- 第二條 妊婦四ヶ月以上ニシテ死胎ヲ分娩セシ者ハ醫師若クハ產婆ニ於テ第二號書式ニ據リ死産届書ヲ其親屬(親屬ナキトキハ其故舊以下倣之)ニ付與スヘシ但醫師若クハ產婆二名以上ナルトキハ主任者之ヲ付與スヘシ
- 第三條 前條ノ場合ニ於テ醫師ノ施術若クハ產婆ノ取扱ヲ經サルトキハ醫師ノ檢案ヲ請クヘシ
- 第四條 結婚若クハ離婚セシ者ハ第三號書式ニ據リ三日以内ニ各其戸長ニ届出ツヘシ
- 第五條 死者アルトキハ施治ノ醫師ニ於テ第四號書式ニ據リ死亡届書ヲ其親屬ニ付與スヘシ但醫師二名以上ナルトキハ主任者之ヲ付與スヘシ
- 第六條 醫師ノ施治ヲ請フニ暇ナクシテ死亡セシ者ハ醫師ノ檢案ヲ請クヘシ
- 第七條 醫師死体又ハ死胎ヲ檢案スルトキハ第六號書式ニ據リ檢案書ヲ其親屬ニ付與スヘシ若シ死体又ハ死胎ニ異狀アルカ又ハ疑フヘキ狀況ノルトキハ直ニ戸長ニ申報スヘシ
- 第八條 第六條ノ場合ニ於テ川支等ニヨリ醫師ヲ招ク能ハサルトキハ死者ノ親屬二名以上

十八年甲第九
號ヲ以テ修
正

同上刪除
十八年甲第八
號ヲ以テ
十八年甲第九
號ヲ以テ
十八年甲第五
號ヲ以テ
十八年甲第一
號ヲ以テ
至ル書式改正

立會ヒ衛生委員ノ檢案ヲ請クヘシ

- 第九條 衛生委員其死体ヲ檢査シ異狀ナキ者ト認ムルトキハ第六號書式ニ據リ檢案書ヲ其親屬ニ付與スヘシ若シ疑フヘキ狀況アルトキハ警察官ニ申報スヘシ
- 第十條 變死ニ係ル者アルトキハ其親屬ハ立會ヒ醫師ヨリ第六號書式ノ檢案書ヲ請取リ檢視官ノ檢印ヲ請クヘシ若シ親屬ナキトキハ醫師ヨリ該檢案書ヲ戸長ニ渡シ戸長ハ檢視官ノ檢印ヲ請クヘシ
- 第十一條 囚徒ノ親屬其死屍ヲ引取リ埋葬又ハ火葬セント欲スルトキハ獄醫ノ死亡證書寫ニ司獄官ノ檢印ヲ請クヘシ
- 第十二條 前數條ニヨリ死産届書死亡届書若クハ檢案書ヲ請取リタル親屬ハ之ニ第五號書式ノ届書ヲ添ヘ之ヲ戸長ニ差出スヘシ
- 第十三條 戸長ニ於テ前條ノ届書ヲ領収セシトキハ第七號書式ノ埋火葬認許證ヲ與フヘシ
- 第十四條

第二章

第三章

第一號書式

用紙半紙
二ツ折

出產届

(寄留ノ届書書式
ハ以下之ニ倣ヘ)

住所族籍(寄留ナレハ本貫地名)
番地ヲモ書スヘシ)

四百七十七

第七章 第四款 雜件

月日午前時出產嫡男女又ハ幾男女(私生男女)名某
(名付前ナラハ退テ名付ケシ上更ニ届出ヘシ)

何誰妻(私生ナレハ何
誰女或ハ姉妹)

た れ

年月日

戸長姓名殿

右月主
姓名印

第二號書式 用紙半紙
ニツ折

死産届

月 日死産男女(私生男女)

何ヶ月

住所族籍

何誰妻(私生ナレハ誰
女或ハ姉妹)

た れ

右者私取治候處頭書之通死産致候ニ付此段及御届候也

住所

醫師或ハ産婆

姓名印

年月日

戸長姓名殿

第三號書式 用紙半紙
ニツ折

結婚届

年號月日結婚初縁(再縁以上)

(入籍入夫等ナラハ年號月日婿養子或ハ入
夫即日又ハ何年何月日婚姻ト書スヘシ)

住所族籍

(本人月主ニアラサレ
ハ誰幾男或ハ兄弟)

姓名

年號月日生
當何年何月

住所族籍

誰幾女或ハ姉妹

姓名

年號月日生
當何年何月

右月主

姓名印

年月日

戸長姓名殿

右及御届候也

第四號書式 用紙半紙
ニツ折

死亡届

病名 月日死亡

住所族籍職業

姓名

年號月日生
當何年何月

四百七十九

右者私施治候處死去致候ニ付此段及御届候也

年 月 日
住所
醫師 姓 名 印
戸長姓名殿

第五號書式

用紙半紙
二ツ折

死亡届

月 日 午前 時 病死(死産)

右死亡死産候ニ付埋(火)葬致度此段及御届候也

年 月 日
住所
死産ナラハ族籍職業
姓名年月ヲ記セス
右月主 姓 名
年 月 日 生
當何年何月
戸長姓名殿 姓 名 印

第六號書式

用紙半紙
二ツ折

死(胎)檢案書

病名(原因不詳)月 日 死亡

(變死ニ係ル者ハ其
理由ヲ記載スヘシ)

住所
族籍職業
姓 名
年 月 日 生
當何年何月

右死(胎)檢案候處頭書之通相違無之候也

(月 日 死産男女何ケ月
私生ナレハ私生ト書スヘシ)

何誰妻私生ナレハ誰女或ハ姉妹
九 九 九 九 九 九 九 九 九 九
住所
醫師(或ハ衛
生委員) 姓 名 印

第七號書式

用紙半紙
二ツ折

證

月 日 死亡

右埋(火)葬認許候事

年 月 日

住所
族籍職業
姓 名
年 月 日 生
當何年何月
戸長 姓 名 印

第八號書式

第九號書式

第十號書式

第十一號書式

第十二號書式

第七章 第四款 雜件

十八年甲第九
號ヲ以テ刪
除
十八年甲第八
號ヲ以テ刪
除
十九號ヨリ十
一號ニ至ル書
式刪除
十八年甲第九
號ヲ以テ刪
除

第十三號書式

○乙第百二十三號 明治十八年十月十四日

郡長役場所

明治十六年六月本縣乙第六十五號達出產結婚死亡表樣式今般內務省甲第三十三號達ニ依リ別紙之通改定候條此旨相達候事

解釋

凡例

- 一 甲號ハ郡役所ニ於テ毎月一表ヲ製シ每半年ニ取纏メ前半年分ハ八月後半年分ハ翌年二月迄ニ縣廳ニ差出スヘシ但此表ハ本年十一月ヨリ調製スヘシ
- 一 人口一萬以上ノ都市ニ於テハ特ニ其都市内ヲ一括シ本表ト共ニ差出スヘシ
- 一 死亡者ハ其埋(火)葬認許證ヲ附與シタル土地ニ於テ其數ヲ掲載スヘシ
- 一 死亡者病類ノ細目ハ明治十六年六月衛生局ノ通報ニ據ルヘシ
- 一 死體ノ棄兒ハ欄外ニ其男女及推測ノ年齢ヲ記載スヘシ
- 一 乙號ハ郡役所ニ於テ每半年ニ一表ヲ製シ前半年分ハ八月後半年分ハ翌年二月迄ニ縣廳ニ差出スヘシ
- 一 出產ハ本籍寄留ヲ問ハス其生レシ土地ニ於テ其數ヲ掲載スヘシ
- 一 結婚ハ男女ヲ論セス其引取リシ方ノ土地ニ於テ其數ヲ掲載スヘシ

十九年乙第
十八號ヲ以テハ
追加

- 一 丙號ハ戶長役場ニ於テ毎月一表ヲ製シ每半年ニ取纏メ前半年分ハ七月後半年分ハ翌年一月迄ニ郡役所ニ差出スヘシ
- 一 丁號ハ戶長役場ニ於テ每半年ニ一表ヲ製シ前半年分ハ七月後半年分ハ翌年一月中ニ郡役所ニ差出スヘシ
- 一 甲號乙號ハ數郡ヲ聯合シテ一郡役所ヲ置クモノト雖トモ一郡毎ニ一表ヲ製スルモノトス
- 一 丙號丁號ハ數町村聯合シテ一戶長役場ヲ置クモノハ表中其町村ヲ區別シ順次ニ掲載スヘシ

(甲)

何郡死亡統計表

明治何年何月分

年齡	初生以上		三月未滿		六月未滿		一年未滿		一年以上		以下		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
第一類													
第二類													
第三類													
第四類													
第五類													
第六類													
第七類													
第八類													
第九類													
第十類													
第十一類													
第十二類													
第十三類													
第十四類													
第十五類													
第十六類													
第十七類													
第十八類													
第十九類													
第二十類													
第二十一類													
第二十二類													
第二十三類													
第二十四類													
第二十五類													
第二十六類													
第二十七類													
第二十八類													
第二十九類													
第三十類													
第三十一類													
第三十二類													
第三十三類													
第三十四類													
第三十五類													
第三十六類													
第三十七類													
第三十八類													
第三十九類													
第四十類													
第四十一類													
第四十二類													
第四十三類													
第四十四類													
第四十五類													
第四十六類													
第四十七類													
第四十八類													
第四十九類													
第五十類													
第五十一類													
第五十二類													
第五十三類													
第五十四類													
第五十五類													
第五十六類													
第五十七類													
第五十八類													
第五十九類													
第六十類													
第六十一類													
第六十二類													
第六十三類													
第六十四類													
第六十五類													
第六十六類													
第六十七類													
第六十八類													
第六十九類													
第七十類													
第七十一類													
第七十二類													
第七十三類													
第七十四類													
第七十五類													
第七十六類													
第七十七類													
第七十八類													
第七十九類													
第八十類													
第八十一類													
第八十二類													
第八十三類													
第八十四類													
第八十五類													
第八十六類													
第八十七類													
第八十八類													
第八十九類													
第九十類													
第九十一類													
第九十二類													
第九十三類													
第九十四類													
第九十五類													
第九十六類													
第九十七類													
第九十八類													
第九十九類													
第一百類													

以下五年毎ニ此
例ニ據リ區別ス
ヘシ

未滿十五年	既婚	未滿十五年	既婚	未滿十五年	既婚
偶配	無偶配	偶配	無偶配	偶配	無偶配
女	男	女	男	女	男

乙

何郡出生統計表

明治何年 自何月 至何月

合	全	全	全	全	全	何	月		別	計
							男	女		
									公	
									生	
									私	
									女	
									生	
									男	
									女	
									生	
									合	
									計	

乙

何郡結婚統計表

明治何年 自何月 至何月

再縁以上	初縁		類別	計
	女	男		
			一十二年以上	
			一十二年未滿	
			二十五年以上	
			二十五年未滿	
			三十年以上	
			三十年未滿	
			四十年以上	
			四十年未滿	
			五十年以上	
			五十年未滿	
			合	
			計	

丙

何郡何町死亡調

明治何年何月

病名及事故	死亡月日		男	女	婚姻上ノ關係	氏名	年	齡
	何	何						
病	何	何			既婚	誰	何	何
病	何	何			未婚	誰	何	何
病	何	何			既婚無配偶	誰	何	何
	何	何	女	男				

同上

十九年乙卯六月十七號ヲ以テ但書追加

- 規則ニ基キ其親屬故舊ヨリ差出シタル届書ニ依リ記入スヘシ
- 一種痘及天然痘ハ十八年^{十二}本縣甲第八十九號布達種痘細則第六條ニ準シ醫師ノ付與セシ証書ニ依リ記入スヘシ
- 一職業ハ戶主家族ニ關セス本人ノ現業ヲ取調記入スヘシ
- 一 体格ノ種別ハ衛生委員ノ認ムル所ヲ以テ左ノ三種ニ別テ記入スヘシ
 - 但盲目及瘡啞ハ特ニ記入スヘシ
- 健康 虛弱 癱疾 手足ノ不具或ハ奇形癩癩白癩等ニシテ普通ノ働ラキニ堪ヘサル者ハ都テ癱疾トス
- 一轉籍寄留ノ出入ハ戶籍法ニ基キ各自ヨリ差出シタル届書ニヨリ其時々加除スヘシ但十六歲未滿ノ者轉籍スルトキハ管内外ヲ問ハス初種再種三種痘ノ年月若クハ未種痘又ハ天然痘ニ罹リシ區別取調送籍証ニ記入シ又寄留スルトキハ現住地ノ戶長ヨリ寄留地若クハ復歸地ノ戶長ヘ其旨通知スヘシ
- 一衛生委員ハ平素衛生上視察ノ爲メ各戶ヲ巡回シ前數項ノ異同ヲ審査スヘシ
- 一出産結婚死亡其他出入アリテ差異ヲ生シ各其欄内ニ記入スヘキ餘白ナキニ至ルトキハ更ニ一葉ヲ添付シ之ニ記入スヘシ
- 一本簿ハ滿五年毎ニ改正シ舊簿ハ尙保存スヘシ

明治 年 月

衛生戶籍簿

埼玉縣何郡何聯合何町村

△朱書

(居 同) [△] 地 番							地 番
民 平 八 或 [△]							籍 族
							產 出
							日 年 月 死
							病 名 亡
							痘 [△] 天 [△] 然 [△]
							初 種 痘 游 年 月 日
							再 種
							以 三 種 上
							種 別 盲 啞 體 格
							初 婚 結 婚 離 婚 年 月 日
							離 婚
							以 再 婚 年 月 日
							離 婚
							出 入 出 入 年 月 日
							業 職
							ノ 家 族 戶 主
							氏 名

何 十 何 [△] 第									地 番
或 族 士 [△]									籍 族
									產 出
									日 年 月 死
									病 名 亡
									痘 [△] 天 [△] 然 [△]
									初 種 痘 游 年 月 日
									再 種
									以 三 種 上
									種 別 盲 啞 體 格
									初 婚 結 婚 離 婚 年 月 日
									離 婚
									以 再 婚 年 月 日
									離 婚
									出 入 出 入 年 月 日
									業 職
									ノ 家 族 戶 主
									氏 名

何 十 何 第										地 番	
族 士 縣 府 何										籍 族	
							全	全	何何 月日年	產 出	
							何何 月日年			日 年 月 死	
							實 亞			病 名 亡	
								何何 月日年	痘 天 然 痘 游 年 月 日		
							全	何何 月日年	初 種 再 種 以 三 種 上		
							虛 弱	全	健 康	種 別 盲 啞 體 格	
								全	何何 月日年	初 婚 結 婚 年 月 日	
										離 婚 離 婚 年 月 日	
										以 再 婚 年 月 日	
										離 婚 年 月 日	
										出 入 年 月 日	
										出 入 年 月 日	
							無 職	職 大 工	業 職		
							長 男	妻	戶 主	家 族 戶 主	
							全	全	何	氏 名	

留 寄

明 治 年 月

衛 生 戶 籍 簿

培 玉 縣 何 郡 何 聯 合 何 町 村

(朱 書)

第十二番學區 彌兵衛新田 新井方村
 下谷塚村 上谷塚村 中谷塚村 東遊馬村 市右衛門新田 彦右衛門新田 新里村
 柳島村 榛松村 瀬崎村
 第十三番學區 谷古字村 南草加村 北草加村 宿篠葉村 與左衛門新田 彌惣右衛門新田
 庄左衛門新田 太郎左衛門新田 吉笹原村 東立野村 原島村
 第十四番學區 九左衛門新田 長右衛門新田 篠葉村 北谷村 藤八新田 東中曾根村 新兵衛新田
 清右衛門新田 金右衛門新田 吉藏新田 槐戶村 善兵衛新田
 第十五番學區 峯村 前野宿村 東本郷村 小山村 花栗村 苗塚村 新堀村
 大竹村 東貝塚村 赤井村 蓮沼村 江戸袋村
 第十六番學區 戸塚村 赤芝新田 長藏新田 西立野村 神戶村 道合村 東内野村
 石神村 源左衛門新田 久左衛門新田 藤兵衛新田 木曾呂村
 第十七番學區 鳩ヶ谷町 赤山領 浦寺村 辻村
 第十八番學區 安行村 赤山領 原村 慈林村 赤山村 新井宿村 西新井宿村
 第十九番學區 大門町 寺山村 南浦領 上野田村 中野田村 下野田村 差間村
 間宮村 北原村 代山村 支番新田 大崎村 高畑村
 第二十番學區 東新井村 片柳村 染谷村 山崎村 加田屋新田 西山村新田 南中野村
 御藏村 笹丸村 南中丸村 中川村 上山口新田 見沼領 新右衛門新田
 第二十一番學區 瀬ヶ崎村 三室村 上木崎村 下木崎村 領家村 北袋村
 第二十二番學區 中尾村 大岡木村 下山口新田 駒場村 道祖土村 大牧村 原山新田

第二十三番學區 井沼方村 蓮見新田
 與野町 上落合村 下落合村 大戸村 針ヶ谷村 鈴谷村 八王子村
 小村田村 上小村田村 中村田村 植田谷領 同 圓阿彌村
 第二十四番學區 五關村 上大久保村 下大久保村 領家村 在家村 上峯村 宿村
 塚本村 神田村 白鐵村
 第二十五番學區 西遊馬村 土屋村 二ッ宮村 飯田村新田 植田谷領 本村新田 植田谷領 本村 飯田村
 水判土村 佐知川村 中野林村 下内野村 側ヶ谷村 本村 村 飯田村
 第二十六番學區 三條町村 並木村 島根村
 第二十七番學區 大宮宿 上天沼村 下天沼村 土手宿村 土呂村 西本郷村 今羽村
 高鼻村
 第二十八番學區 風波野村 深作村 小深作村 東宮下村 新堤村 藤子村 宮ヶ谷塔村
 東門前村
 第二十九番學區 堀崎村 島村 大和田村 猿ヶ谷月村 大谷村 砂村 大谷
 第三十番學區 大成村 奈具瀬戸村 西ノ谷村 吉野原村 上内野村 西内野村 別所村
 上加村 下加村 櫛引村 加茂宮村
 第三十一番學區 原市町 丸ヶ崎村 瓦葺村
 第三十二番學區 中釘村 寶來村 西新井村 同 中新井村 内野本郷村 戸崎村 堤崎村
 高木村 指扇村 指扇領 別所村 辻村 西貝塚村 清河寺村 翠岸村
 小泉村 中分村 中妻村 井戸木村 藤波村 川村 辨財村
 第三十三番學區 沖ノ上村 春日谷津村 吟吉村 小敷谷村 石戸領 領家村

第三十四番學區	平方村	領家村	向山村	本郷村	一丁目村	今泉村	上野村
第三十五番學區	上野本郷村	地頭方村	上尾村	上尾下村	西宮下村	菅谷村	平塚村
第三十六番學區	久保村	柏座村	谷津村	西門前村	大針村	須ヶ谷村	
第三十七番學區	小室村	小針	同	内宿村	大針村	須ヶ谷村	
第三十八番學區	羽貫村	新宿村	同	大針村	須ヶ谷村		
第三十九番學區	坂田村	大谷領	小針	領家村	五丁壑村	倉田村	篠津村
第四十番學區	舍人新田	加納村					
第四十一番學區	川田谷村						
第四十二番學區	上日出谷村	下日出谷村	石戸宿村	下石戸上村	下石戸下村	下生出塚村	
第四十三番學區	上谷村	下谷村	常光村	西中曾根村	上生出塚村	下生出塚村	
第四十四番學區	東間村	北中丸村	深井村	古市塲村	山中村	宮内村	花ノ木村
第四十五番學區	北本宿村	常光別所村	大間村	高尾村	荒井村		
第四十六番學區	原馬室村	瀧馬室村	大間村	高尾村	荒井村		
第四十七番學區	鴻巣村	市ノ繩村	寺谷村	宮前村	八幡田村	登戸村	糠田村
	箕田村						
	北中野村	小谷村	三町免村	中井村	前砂村	三ッ木村	川面村
	吹上村	小谷村	三町免村	中井村	前砂村	三ッ木村	川面村
	明用村	板戸村	大區村				

高島村八府川
村へ合併

第一番學區	志木宿	野火止村	北野村	菅澤村	西畑村	岡	壺
第二番學區	大和田町	田島村	宮戸村	上内間木村	下内間木村	岡	壺
第三番學區	根岸村	田島村	宮戸村	上内間木村	下内間木村	岡	壺
第四番學區	白子村	上新倉村	下新倉村				
第五番學區	膝折村	片山村	溝沼村				
第六番學區	小樽村	橋戸村	上保谷村	下保谷村	上保谷新田		
第一番學區	川越町	松郷	小久保村	寺井村	東明寺村	脇田村	
第二番學區	大仙波新田	大仙波村	小仙波村	岸村	新宿村	大塚新田	
第三番學區	豊田新田	豊田本村	野田村	野田新田	南大塚村	大塚新田	
第四番學區	小室村	今成村	小ヶ谷村	池邊村	上寺山村		
第五番學區	志垂村	中寺山村	下寺山村	福田村	網代村	宿粒村	向小久保村
第六番學區	府川村	高島村	石田村	福田村	網代村	宿粒村	向小久保村
第七番學區	北田島村	菅間村	谷中村	伊佐沼村	鳴田村	石田本郷	
第八番學區	古谷上村	古谷本郷	大中居村	小中居村	高島村	八ッ島村	
第九番學區	並木村	久下戸村	今泉村	牛子村	木野目村	南田島村	
第十番學區	砂新田	砂村	砂久保村	今福村	扇河岸	上新河岸	
	寺尾村						
	古市塲村	福岡村	中福岡村	福岡新田	澁井村	川崎村	

第十一番學區	大井町	藤間村	鶴ヶ岡村	龜久保村	苗間村
第十二番學區	鶴岡村	勝瀬村	駒林村		
第十三番學區	宗岡村	水子村			
第十四番學區	上南畑村	下南畑村	南畑新田	東大久保村	
第十五番學區	藤久保村	北永井村	坂ノ下村	竹間澤村	針ヶ谷村
第十六番學區	南永井村	上宮村	日比田村	龜ヶ谷村	本郷村
第十七番學區	所澤町	上新井村	久米村	北秋津村	
第十八番學區	下新井村	中沼村	上安松村	下安松村	
第十九番學區	神米金村	中富村	下富村	北岩岡村	北中村
第二十番學區	山口村	上山口村	荒幡村	勝樂寺村	
第二十一番學區	三ヶ島村	三ヶ島堀ノ内村	北野村	麴谷村	林村
第二十二番學區	二本木村	高根村	胸形富士山村	富士山栗原新田	宮寺村
第二十三番學區	扇町屋村	善藏新田	上藤澤村	下藤澤村	
第二十四番學區	黒須村	小谷田村	根岸村	中神村	新久村
第二十五番學區	寺竹村	上ヶ谷村	下ヶ谷村	西三ッ木村	南峯村
第二十六番學區	入間川村	上奥宮村			高倉村
第二十七番學區	北入曾村	南入曾村	水野村	青柳村	加佐志村
第二十八番學區	下赤坂村	上赤坂村	堀兼村	中新田	中福村
第二十九番學區	山城村	下奥宮村	柏原新田	藤倉村	大袋村
第三十番學區	横沼村	中小坂村	紺屋村	小沼村	青木村
第三十一番學區	石井村	島田村	赤尾村	塚越村	片柳新田
第三十二番學區	坂戸村	栗生田村	關間新田	片柳村	上吉田村
第三十三番學區	新堀村	塚崎村	金田村	中里村	堀込村
第三十四番學區	善能寺村	竹之内村	長岡村	北淺羽村	今西村
第三十五番學區	戸口村	新ヶ谷村	四日市場村	萱方村	厚川村
第三十六番學區	成願寺村	北大塚村	欠野上村	市場村	西大久保村
第三十七番學區	川角村	前久保村	下川原村	小用村	箕和田村
第三十八番學區	岩井村	西戸村	小用村	長瀬村	大谷木村
第三十九番學區	毛呂本郷	権現堂村	如意村	黒岩村	西和田村
第四十番學區	瀧野入村	阿諏訪村	如意村	黒岩村	西和田村
第四十一番學區	越生村	上野村	如意村	黒岩村	西和田村
第四十二番學區	成瀬村	黒山村	龍ヶ谷村	小杉村	堂山村
第四十三番學區	大瀬村	黒山村	龍ヶ谷村	小杉村	堂山村
第四十四番學區	高麗郡				
第一番學區	鯨井村	上戸村	小堤村	下小坂村	平塚村
第二番學區	天沼新田	下廣谷村			平塚新田
第三番學區	上廣谷村	太田ヶ谷村	三ッ木村	三ッ木新田	藤金村
第四番學區	大塚野新田	脚折村	高倉村	町屋村	上新田村
第五番學區	笠幡村	的場村	安比奈新田	柏原村	野田村
第六番學區	根岸村	笹井村	上廣瀬村	下廣瀬村	野田村
第七番學區	高萩村	下高萩新田	中澤村	馬引澤村	田木村
第八番學區					大谷澤村
第九番學區					上大谷澤新田

上大谷澤新田
合併
上大谷澤村

第八章 第一款 學區及學校

川口村ハ鹿飼
二戸崎村ハ
中老袋村ハ合
併

比企郡

第六番學區	下大谷澤村	女影村	女影新田
第七番學區	鹿山村	上鹿山村	中鹿山村
第八番學區	梅原村	新堀村	高岡村
第九番學區	久保村	壺村	高麗本郷
第十番學區	虎秀村	長澤村	平戸村
第十一番學區	小久保村	宮澤村	藍菊場村
第十二番學區	川崎村	下川崎村	青木村
第十三番學區	飯能町	永田村	大河原村
第十四番學區	岩澤村	佛子村	笠縫村
第十五番學區	前ヶ貫村	上直竹村上分	上直竹村下分
第十六番學區	下直竹村	上赤工村	下赤工村
第十七番學區	原市場村	上赤工村	唐竹村
第十八番學區	中藤村下郷	上赤工村	赤澤村
第一番學區	出丸中郷	出丸本郷	出丸下郷
第二番學區	下老袋村	戸崎村	東本宿村
第三番學區	宮前村	釘無村	安塚村
第四番學區	表ヶ谷村	吉原村	新堀村
第五番學區	牛ヶ谷村	紫竹村	山ヶ谷村
第六番學區	谷中村	上八ヶ林村	下八ヶ林村
第七番學區	上小見野村	下小見野村	加胡村
第八番學區	中山村	伊草宿	上伊草村
第九番學區	北園部村	正直村	吹塚村
第十番學區	下野本村	上野本村	古凍村
第十一番學區	下野鳥村	上野本村	今泉村
第十二番學區	松山町	早俣村	正代村
第十三番學區	高坂村	岡郷	野田村
第十四番學區	大谷村	今宿村	赤沼村
第十五番學區	大橋村	熊井村	高倉村
第十六番學區	奥田村	熊井村	石坂村
第十七番學區	玉川郷	田黒村	五明村
第十八番學區	桃ノ木村	古池村	上瀬戸村
第十九番學區	本郷村	馬場村	番匠村
第二十番學區	下唐子村	上唐子村	葛袋村
第二十一番學區	中尾村	月ノ輪村	羽尾村
第二十二番學區	福田村	山田村	菅田村
第二十三番學區	菅谷村	遠山村	平澤村
第二十四番學區	根岸村	志賀村	千手堂村
第二十五番學區	越畑村	太田丸村	廣野村
第二十六番學區	小川村	角山村	原川村
第二十七番學區	腰越村	青山村	上古寺村
第二十八番學區			

第八章 第一款 學區及學校

第四番學區	上小見野村	下小見野村	加胡村	松永村	一本木村	虫塚村	梅ノ木村
第五番學區	北園部村	正直村	吹塚村	下伊草村	戸守村	長樂村	南園部村
第六番學區	下野本村	上野本村	古凍村	今泉村	柏崎村	上押垂村	下押垂村
第七番學區	高坂村	早俣村	正代村	西本宿村	宮鼻村	毛塚村	田木村
第八番學區	大谷村	岡郷	野田村	東平村	市ノ川村	竹本村	須江村
第九番學區	大橋村	熊井村	高倉村	石坂村	大豆戸村	竹本村	須江村
第十番學區	奥田村	熊井村	高倉村	石坂村	大豆戸村	竹本村	須江村
第十一番學區	玉川郷	田黒村	五明村	日影村			
第十二番學區	桃ノ木村	古池村	上瀬戸村	下瀬戸村	關堀村	田中村	別所村
第十三番學區	本郷村	馬場村	番匠村	大附村	關堀村	田中村	別所村
第十四番學區	下唐子村	上唐子村	葛袋村	神戸村	石橋村	西平村	雲河原村
第十五番學區	中尾村	月ノ輪村	羽尾村	水房村	伊古村	岩殿村	
第十六番學區	福田村	山田村	菅田村	土壙村	和泉村	將軍澤村	大藏村
第十七番學區	菅谷村	遠山村	平澤村	千手堂村	鎌形村	將軍澤村	大藏村
第十八番學區	根岸村	志賀村	廣野村	杉山村	勝田村	吉田村	古里村
第十九番學區	越畑村	太田丸村	原川村	西大塚村	下里村	吉田村	古里村
第二十番學區	小川村	角山村	上古寺村	下古寺村	増尾村	飯田村	笠原村
第二十一番學區	腰越村	青山村	上古寺村	下古寺村	増尾村	飯田村	笠原村

第十九番學區	上橫田村	下橫田村	中爪村	高谷村	伊勢根村	能增村	高見村
橫見郡	大和田村	上銀谷村	下銀谷村	萬光寺村	蓮沼新田	古名村	古名新田
第一番學區	蚊計谷村	江和井村	飯島新田	久保田新田	高尾新田	須ノ子新田	谷口村
第二番學區	丸貫村	北下砂村	荒子村	大串村	前河内村	下細谷村	
第三番學區	久保田村	江網村	荒子村	大串村	前河内村	下細谷村	
第四番學區	御所村	和名村	久米田村	黒岩村	長谷村	田甲村	南吉見村
第五番學區	北吉見村	山ノ下村	松崎村				
第六番學區	地頭方村	一ツ木村	上細谷村	明秋村	小新井村	今泉村	本澤村
第七番學區	上砂村	小八ッ林村	中會根村	中新井村			
第八番學區	上田野村	日野村	浦山村				
第九番學區	白久村	費川村					
秩父郡	大宮郷	蘆ヶ久保村	定峯村				
第一番學區	横瀬村	栃谷村					
第二番學區	山田村	黒谷村					
第三番學區	大野原村	黒谷村					
第四番學區	寺尾村	時田村	田村郷				
第五番學區	上影森村	下影森村	別所村				
第六番學區	久那村	小野原村					
第七番學區	上田野村	日野村					
第八番學區	白久村	費川村					
第九番學區	小八ッ林村	中會根村					

小八ッ林村ハ
中會根村へ合
併

第十番學區	大瀧村	三峯村	中津川村
第十一番學區	上名栗村	下名栗村	
第十二番學區	坂石村	坂石町分	南川村
第十三番學區	御堂村	安戸村	北川村
第十四番學區	坂本村	大内澤村	大野村
第十五番學區	皆野村		白石村
第十六番學區	三澤村		
第十七番學區	岩田村	下田野村	井戸村
第十八番學區	野上下郷	矢那瀬村	風布村
第十九番學區	本野上村	中野上村	藤谷淵村
第二十番學區	金崎村	金澤村	下日野澤村
第二十一番學區	太田村	小柱村	堀切村
第二十二番學區	下吉田村		伊古田村
第二十三番學區	久長村	上日野澤村	野卷村
第二十四番學區	石間村	太田部村	
第二十五番學區	上吉田村		
第二十六番學區	日尾村	藤倉村	
第二十七番學區	源村		
第二十八番學區	小森村		
第二十九番學區	長留村	般若村	
第三十番學區	小鹿野町	伊豆澤村	

第三十一番學區	下小鹿野村	飯田村	三山村	河原澤村
第三十二番學區	兒玉郡	本庄宿	小島村	下野堂村
第一番學區	都島村	上仁手村	下仁手村	杉山村
第二番學區	仁手村	東五十子村	西五十子村	田中村
第三番學區	北堀村	東五十子村	西五十子村	久々字村
第四番學區	小茂田村	東五十子村	西五十子村	山王堂村
第五番學區	兒玉町	八幡山町	關村	新井村
第六番學區	根木村	阿那志村	關村	山王堂村
第七番學區	蛭川村	今井村	高關村	傍示堂村
第八番學區	下真下村	熊野堂村	高關村	鶴森村
第九番學區	金屋村	長沖村	高柳村	栗崎村
第十番學區	保木野村	二ノ宮村	新里村	四方田村
賀美郡	河内村	元田村	稻澤村	太駄村
第一番學區	石神村	八町河原村	忍保村	上阿久原村
第二番學區	金久保村	勅使河原村	毘沙吐村	下阿久原村
第三番學區	七本木村	嘉美村	三町村	渡瀬村
第四番學區	藤木戸村	帶刀村	五明村	田端村
				四軒在家村

第五番學區	植竹村	元岡保村	原新田村	八日市村	關口村	厩土村	貫井村
那珂郡	小波村						
第一番學區	中里村	古郡村	白石郷	木部村	甘粕村	猪俣村	圓其田村
第二番學區	秋山村	駒衣村	廣木村	小平村			
大里郡							
第一番學區	熊谷宿						
第二番學區	石原村	佐谷田村	新川村				
第三番學區	久下村	肥塚村	代村				
第四番學區	原島村	廣瀬村	小島村	武休村	川原明月村		
第五番學區	大麻生村	廣瀬村	小島村	玉作村	向谷村	箕輪村	津田村
第六番學區	相上村	胃山村	小八ツ林村	手島村	上恩田村	中恩田村	下恩田村
第七番學區	中曾根村	小泉村	屈戸村	津田新田村			
第八番學區	沼黒村	吉所敷村	高本村	楊井村			
第九番學區	成澤村	樋春村	御正新田村	押切村	三ッ本村		
澁羅郡							
第一番學區	拾六間村	三ヶ尻村	新堀新田村	新堀村	新島村		
第二番學區	高柳村	久保島村	玉ノ井村	沼尻村	藤ノ木村	堀米村	宮ヶ谷戸村
第三番學區	蓮沼村	江原村	石塚村	沼尻村	藤ノ木村		
新井村	明戸村						

第四番學區	西別府村	東別府村	原井村	上増田村	下増田村	本田ヶ谷村	市ノ坪村
第五番學區	原郷村	東方村	國濟寺村	柴崎村			
第六番學區	下奈良村	上奈良村	中奈良村	奈良新田	四方寺村	柿沼村	
第七番學區	葛和田村	日向村	俵瀬村	大野村	辨財村		
第八番學區	上根村	江波村	善ヶ島村	八ッ口村	上須戸村	西城村	田島村
第九番學區	西野村	彌藤香村					
第十番學區	男沼村	莖村	八木田村	小島村	出來島村		
第十一番學區	飯塚村	上江袋村	道ヶ谷戸村	永井太田村	間々田村		
櫻澤郡							
第一番學區	深谷宿	東大沼村	西島村	田谷村	曲田村	登場村	宿根村
第二番學區	戸森村	上敷免村	伊勢方村	谷ノ村			
第三番學區	中瀬村	高島村	成塚村	起會村	大塚村	大塚島村	高畑村
第四番學區	内ヶ島村	新戒村	下手計村	横瀬村	町田村	南阿賀野村	北阿賀野村
第五番學區	血洗島村	上手計村	宮戸村	瀧瀬村			
第六番學區	牧西村	小和瀬村	岡部村	岡村			
第七番學區	普濟寺村	矢島村	後藤澤村	榛澤新田村	沓掛村	西田村	今泉村
第八番學區	山河村	榛澤村	山崎村	榛澤新田村	沓掛村	西田村	今泉村
第九番學區	針ヶ谷村	本郷村	山崎村	大谷村	境村	上原村	
第十番學區	折ノ口村	上野窪村	長在家村	瀬山村	菅沼村	明月村	
第十一番學區	武藏野村	用土村	小前田村	瀬山村	菅沼村	明月村	
第十二番學區	黒田村	荒川村	永田村	田中村	北根村		
第十三番學區	寄居町	櫻澤村	末野村	藤田村			
男衾郡							
第一番學區	須賀廣村	千代村	柴村	坂井村	鹽村	小江川村	野原村
第二番學區	本田村	島山村					
第三番學區	今市村	赤濱村	富田村	西古里村	鷹巣村	牟禮村	
第四番學區	鉢形村	折原村	立原村	三品村	秋山村	小園村	保田原村
第五番學區	露梨子村						
北埼玉郡							
第一番學區	勝呂村	初賀村	木部村	木呂子村	西ノ入村		
第二番學區	成田町						
第三番學區	行田町						
第四番學區	持田村	前谷新田	門井村	棚田村	太井村		
第五番學區	下忍村	樋上村	堤根村	袋村	鎌塚村	北新宿村	
第六番學區	崎玉村	渡柳村	利田村	佐間村			
第七番學區	風巢村	廣田村	野村				
第八番學區	池上村	中里村	小敷田村	皿尾村	上池守村	下池守村	下川上村
第九番學區	上之村	箱田村	戸出村	平戸村			

第九番學區 上中條村 今井村 小曾根村 上川上村 大塚村
第十番學區 南河原村 北河原村 馬見塚村 中江袋村
第十一番學區 下中條村 須加村 酒卷村
第十二番學區 齋條村 和田村 谷郷 犬塚村
第十三番學區 小見村 白川戸村 荒木村
第十四番學區 長野村 若小玉村
第十五番學區 小針村 下須戸村
第十六番學區 上新郷 下新田
第十七番學區 關新田村 新井村 境村 北根村 赤城村 上會下村
第十八番學區 眞名板村 串作村 關根村 藤間村 下新郷
第十九番學區 須影村 上川崎村 下川崎村 砂山村 秀安村 加羽ヶ崎村
第二十番學區 志多見村 平永村 阿良川村 上崎村
第二十一番學區 内田ヶ谷村 外田ヶ谷村 道地村 神戸村
第二十二番學區 上手子林村 中手子林村 下手子林村
第二十三番學區 郷地村 安養寺村 笠原村 西ノ谷村 中之目村
第二十四番學區 戸室村 上種足村 中種足村 下種足村
第二十五番學區 鴻壱村 芋壱村 牛重村 根古屋村
第二十六番學區 駒西町 外川村 下崎村 今餘村 常泉村 下高柳村
第二十七番學區 南小濱村 油井ヶ島村 割目村 今餘村 常泉村 下高柳村
第二十八番學區 水深村 北辻村 大室村 船越村 花崎村

第二十九番學區 藏羽村 馬内村 戸崎嶺 上高柳村 日出安村 正龍村
第三十番學區 加須町 久下村 南大桑村 川口村
第三十一番學區 南篠崎村 上三ッ俣村 北小濱村 多門寺村 北篠崎村
第三十二番學區 不動岡村 下谷村 岡古井村 町屋村
第三十三番學區 上岩瀬村 中岩瀬村 下岩瀬村 桑崎村 小松村
第三十四番學區 羽生村 上羽生村 下羽生村 北袋村 藤井村上組 藤井村下組
第三十五番學區 本川俣村 上川俣村 稻子村 尾崎村 小須賀村 彌勒村 發戸村
第三十六番學區 今泉村 喜右衛門新田 與兵衛新田 北狹島村 日野手新田
第三十七番學區 下村君村 上村君村 堤村 名村 常木村
第三十八番學區 大越村 外野村 三田ヶ谷村
第三十九番學區 砂原村 彌兵衛村 佐波村 細間村 道目村 北平野村
第四十番學區 旗井村 中波村 新川通村 外記新田村 北下新井村 琴寄村
第四十一番學區 阿佐間村 間口村 新井新田 北大桑村 杓子木村 生出村 松永新田
第四十二番學區 中樋道川村 上樋道川村 下樋道川村 町屋新田 戸川村
第四十三番學區 麥倉村 飯積村
第四十四番學區 向古河村 駒場村 柏戸村 小野袋村 柳生村 榮村 本郷村
第四十五番學區
南埼玉郡
第一番學區 伊勢野村 大瀬村 古新田 坊村 木曾根村 二町目村 南川崎村
第二番學區 松之木村 伊草村 立ノ堀村 八條村 小作田村 鶴ヶ曾根村

第三十六番學區	上内村	鷺ノ宮村	葛梅村	久本寺村
第三十七番學區	六萬部村	中斐村	上清久村	北中曾根村
第三十八番學區	上平野村	高虫村	柴山村	荒井新田村
第三十九番學區	上大崎村	下大崎村	新堀村	駒崎村
第四十番學區	盛村	河原井村	三箇村	井沼村
第四十一番學區	下栢間村	上栢間村	柴山村枝郷	根金村
第四十二番學區	菖蒲町			
第四十三番學區	西小林村			
北葛飾郡				
第一番學區	栗橋宿	伊坂村	松永村	間鎌村
第二番學區	佐間村	新井村	河原代村	中里村
第三番學區	北廣島村	幸手宿	茨島村	下野村
第四番學區	幸手宿	下高野村	八甫村	外野村
第五番學區	上高野村	西大輪村	松石村	圓藤内村
第六番學區	東大輪村	下川崎村	木立村	上宇和田村
第七番學區	千塚村	高須賀村	吉野村	天神島村
第八番學區	高須賀村	神明内村	上吉羽村	下吉羽村
第九番學區	神明内村	戸島村	吉野村	天神島村
第十番學區	才羽村	才羽村	道野村	佐左衛門村

第十一番學區	杉戸宿	倉松村	堤根村	本郷村
第十二番學區	清地村	小淵村	不動院野村	樋籠村
第十三番學區	八丁目村	銚子口村	赤沼村	大川戸村
第十四番學區	藤塚村	田島村	上赤沼村	下赤沼村
第十五番學區	松伏村	下内川村	上内川村	十一軒村
第十六番學區	下内川村	吉川村	須賀村	川野村
第十七番學區	吉川村	中曾根村	高富村	保村
第十八番學區	中曾根村	高久村	道庭村	中井村
第十九番學區	番匠免村	彦野村	彦倉村	彦音村
第二十番學區	彦野村	谷口村	彦江村	彦澤村
第二十一番學區	長沼村	三輪野江村	寄卷村	前川村
第二十二番學區	半割村	仁藏村	飯島村	土塲村
第二十三番學區	茂田井村	横堀村	谷中村	久兵衛村
中葛飾郡	高須村	鎌倉村	長戸呂村	樋ノ口村

- 第一番學區 旗野地村 中島村 花島村 細野村 屏風村 目沼村 木津内村
 - 宮前村 鷺ノ巣村 深輪村 椿村 木野川村 塚崎村
 - 第二番學區 西寶珠花村 西親野井村 木崎村 倉常村 蘆橋村 立野村 柵村
 - 神間村 上吉妻村 下吉妻村 榎村 小平村
 - 第三番學區 下柳村 上柳村 金崎村 上金崎村 西金野井村 大釜村 米崎村
 - 新宿新田 中野村 米島村
 - 第四番學區 魚沼村 築比地村 金杉村 飯沼村 赤崎村 水角村 永沼村
- 合計三百二十九學區

○甲第九十六號 明治十九年六月二十二日

學校幼稚圖書籍館等設置變更廢止手續左之通相定ム

但明治十五年一月本縣甲第一號布達ハ廢止ス

右布達候事

第一條 學校幼稚圖書籍館等ヲ設置セントスル時ハ左ノ項々ヲ具シ縣廳ノ認可ヲ經ヘシ

一名稱及位置 二 教則及校則 三 組合町村(公立ニ限ル) 四 生徒及職員定員

五 職員履歷(私立ニ限ル) 六 職員俸額 七 敷地建物客圖 八 經費豫算

九 圖書器械 十 創立費

第二條 前條ノ項々ヲ變更セントスル時ハ縣廳ノ認可ヲ經ヘシ但第八項第十項ハ此限ニア

ヲス

第三條 學校幼稚圖書籍館等ヲ廢止セントスル時ハ其理由并資産ノ處分法ヲ具シ公立ハ認可ヲ經ヘシ私立ハ上申スヘシ

○甲第五十號 明治十九年四月廿九日

各學區ニ現ニ設置セル小學校ヲ左ノ通改定ス

第一 各學區ニ設置セル小學校ハ總テ尋常小學校トス

第二 各學區ニ設置セル分校ハ總テ分教室トス

第三 尋常小學校ハ尋常小學校教則ヲ教授スヘシ分教室ハ尋常小學校教則第三年級以下ヲ教授スヘシ

第四 高等小學校設置ノ區域及位置ハ別ニ之ヲ定ム

右布達候事

○甲第四十九號 明治十九年四月廿九日

本縣小學校教則左之通改正シ本年春期試驗後ヨリ實施ス

右布達候事

埼玉縣小學校教則

第一章 教育ノ目的

第一條 小學校教育ノ目的ハ兒童ノ徳性智力及ヒ身體ヲ發育シ以テ善ク身ヲ修メ業ヲ營ミ健康ヲ保チ國家ノ良民タラシムルニ在リ

第二條 徳性ノ教育ハ皇室ヲ尊ヒ國ヲ愛シ人倫ヲ重ニスルノ精神ヲ養フヲ旨トシ智力ノ教育ハ世ニ立チ業ヲ營ムニ必須ノ智識及ヒ技能ヲ得セシムルヲ旨トシ身體ノ教育ハ各部ノ平等ナル發達ヲ遂ケシメ氣宇ヲ爽快ナラシムルヲ旨トスヘシ

第二章 學期及ヒ學科

第三條 尋常小學校及ヒ高等小學校ノ學期ハ各々四箇年トス

第四條 尋常小學校ノ學科ハ修身讀書習字算術地理歴史唱歌体操トス

第五條 高等小學校ノ學科ハ修身讀書習字算術地理歴史理科圖畫唱歌体操トス又女兒ニハ裁縫ヲ加ヘ農業地方ノ男兒ニハ農業ヲ加フ又土地ノ情況ニ因テハ縣廳ノ裁可ヲ經テ英語ノ初步ヲ加フルコトヲ得

第三章 學級授業ノ日及ヒ時

第六條 小學校ニ於テハ日曜日大祭日祝日ハ休業スヘシ又縣廳ノ裁可ヲ經テ土曜日午後夏季冬季及ヒ農業繁忙ノ時其他學校ノ都合ニ依リ臨時ニ休業スルコトヲ得

第七條 小學校ノ授業ノ時間ハ毎日五時ヲ以テ度トス但各課業ノ間ニハ十分ノ休憩時間ヲ與フヘシ又午飯ノ後ニハ三十分ノ休憩時間ヲ置クヘシ

第八條 學科課程表ヲ示スコト別表ノ如シ

高等小學校課程表

學科	第一一年		第二二年		第三三年		第四四年		授業時間合計
	上	全	上	全	上	全	上	全	
修身	二	二	二	二	二	二	二	二	八
讀書	八	八	八	八	八	八	八	八	三二
習字	二	二	二	二	二	二	二	二	八
算術	六	六	六	六	六	六	六	六	二四
地理	四	四	四	四	四	四	四	四	一六
歴史	四	四	四	四	四	四	四	四	一六

第八章 第一款 學區及學校

五百二十一

小學校授業料規則左之通相定候條此旨相違候事
但明治十八年^{十二}月^{十二}本縣乙第百五十三條違ハ廢止ス

小學校授業料規則

- 第一條 小學校ノ學籍ニアル者ハ總テ授業料ヲ徵収スヘキモノトス
- 第二條 尋常小學校ニ於テハ生徒一人ニ付一ヶ月金五錢以上七拾五錢以下高等小學校ニ於テハ同ク貳拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ授業料ヲ徵收スヘシ
- 第三條 寄附金又ハ資産アリテ町村費ノ補助ヲ要セサル時ハ前條最低度ノ額ヲ減スルヲ得但此場合ニ於テハ縣廳ノ認可ヲ經ヘシ
- 第四條 授業料ノ額ハ戶長ニ於テ其等差ヲ設クヘシ
- 第五條 一家二人以上ノ生徒ヲ出ストキハ一人ヲ除クノ外戶長ノ見込ヲ以テ授業料ノ半額以內ヲ減スルヲ得
- 第六條 授業料ノ徵收ハ毎月又ハ年何回トシ其學校ニ於テスヘシ
- 第七條 授業料ハ土地ノ情況ニ依リ穀物繭絲綿織物鶏卵薪炭等ヲ以テ時價ニ折算シ徵收スルモ妨ケナシ
- 第八條 授業料徵收ノ額及其手續ハ戶長ニ於テ規定シ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ開申スヘシ

○甲第九十七號

明治十九年六月二十二日

小學校學資管理規則左之通相定ム

但明治十六年^七月^七本縣乙第七十三號違ハ廢止ス

右布達候事

小學校學資管理規則

第一章 總則

- 第一條 小學校ノ學資其高等小學校ニ係ルモノハ郡長之ヲ管理シ尋常小學校ニ係ルモノハ戶長之ヲ管理スヘキモノトス但郡長ハ縣廳ノ許可ヲ經テ戶長ヲシテ其事務ヲ取扱ハシムルヲ得
- 第二條 學資ノ外校舍新築費其他一時ニ支消スルモノモ總テ前條ノ例ニ據ル
- 第三條 學校部內ノ者ニシテ帳簿ノ閱覽ヲ請フトキハ之ヲ拒ムヲ得ス

第二章 資産

第四條 小學校ノ資産ト稱スルモノハ概左ノ如シ

- 一 資本金 資本ニ指定シタル寄附金及學校部內ノ積金等
- 一 土地
- 一 家屋
- 一 書籍器械器具

第五條 資産ハ管理者ニ於テ資産臺帳ヲ製シ金圓物品ヲ問ハス其資産ト爲リタル事由并年

月日等ヲ記入シ其証ト爲ルヘキモノト共ニ之ヲ保管スヘシ

第六條 資本金ハ總テ公債証書若クハ政府ノ保証アル株券又ハ驛遞局貯金預ケト爲スヘシ

第七條 土地ノ情況ニ依リ公撰ヲ以テ別ニ小學校資産取扱人ヲ置クコトヲ得此場合ニ於テ

ハ郡長若クハ戸長ニ於テ取扱人ノ資格人員任期取扱手續ヲ規定シ縣廳ノ認可ヲ經ヘキモノトス

第八條 資産ヲ變更セントスルトキハ其理由ヲ具シ郡長ノ管理スルモノハ縣廳戸長ノ管理スルモノハ郡役所ノ認可ヲ經ヘシ

第九條 學校ノ都合ニ依リ資産ヲ以テ抵當トシ金圓ヲ借り入レントスル時ハ其理由并返濟ノ方法ヲ具シ第八條ノ手續ヲ經ヘシ

第十條 學校ノ資産ハ時宜ニ依リ公債証書政府ノ保証アル株券ヲ抵當トシテ貸附スルコトヲ得此場合ニ於テハ契約書ノ寫ヲ添ヘ第八條ノ手續ヲ經ヘシ

第十一條 學校ノ資産ハ總テ其學校名稱ヲ用フヘシ

第十二條 管理者ハ其事務ヲ整理スル爲メ左ノ帳簿ヲ備フヘキモノトス

一 資産臺帳 資産ト爲リタル理由并現在高チ記入ス

一 收入簿 資産ヨリ生スル収入ヲ記入ス

一 支出簿 資産ヨリ生スル支出ヲ記入ス

一 寄附金領收簿 寄附金領收簿ノ領收証ニシテ印スルモノ

一 精算簿 収支ヲ精算スルモノ

第二章 經費

第十三條 小學校ノ經費ハ概左ノ項々ヲ以テ支辨スヘキモノトス

一 生徒授業料

一 寄附金 經費ニ指定シタルモノ

一 資産ヨリ生スル收入

一 雜收入

一 町村補助費

第十四條 學校ノ都合ニ依リ校長若クハ首座訓導ヲシテ經費ノ支出ヲ取扱ハシムルコトヲ得此場合ニ於テハ其方法ヲ具シ第八條ノ手續ヲ經ヘシ

第十五條 管理者ハ事務ヲ整理スル爲メ左ノ帳簿ヲ備フヘキモノトス

一 授業料臺帳

一 寄附金領收簿

一 諸收入簿

一 諸支出簿

第十六條 管理者ハ毎月末第一號書式出納表ヲ製シ置キ每三ヶ月ニ第二號書式出納報告表ヲ製シ縣廳ニ報告スヘシ

但二號書式ノ表ハ縣廳ニ報告スルト同時ニ學校部内便宜ノ揭示場ニ揭示スヘシ

第十七條 學校管理者ハ毎年度ノ前經費ヲ豫算シ第三號書式ニ依リ縣廳ノ認可ヲ經ヘシ

但經費中町村補助費ノ項アル時ハ町村會ノ評決ヲ認可スルノ前伺出ツヘシ

第一號書式

明治何年何月分用紙半紙

何郡何學區何學校經費一覽表

入之部										出之部											
前月越高	生徒授業料	寄附金	資産收入	雜收入	町村補助費						校長給	訓導給	補助員給	雜給	書籍費	器械費	器具費	消耗費	修繕費	借家料	賞與費

第二號書式

明治何年自何月至何月用紙半紙

何郡何學區何學校經費收支報告表

入之部					出之部				
前月越高	生徒授業料	寄附金	資産收入		校長給	訓導給	補助員給	雜給	

合計
差引
有余
不足
備考

生徒數	訓導	右調査候事	生徒級數	補助員	右校管理者
何何何人 何何何人	何何何人 何何何人		何何何人 何何何人	何何何人 何何何人	何何何人 何何何人

何之誰印